

男女共同参画に関するアンケート調査
－ 報告書 －

平成 22 年 9 月
高知県 南国市

～ 目 次 ～

I	調査の概要	1
II	回答者の属性	3
	1. 性別	3
	2. 年齢	3
	3. 職業	4
	4. 配偶者の有無	6
	5. 共働きの有無	7
	6. 世帯構成	8
III	調査結果	9
	1. 男女共同参画に関する言葉の認知状況	9
	2. 日常生活における男女の差別的慣習等について	12
	3. 男女の地位の平等意識	15
	4. 日常的な家庭での仕事分担の理想と現実	18
	(A) 理想の役割分担	18
	(B) 実際の役割分担	23
	5. 子どもを育てるときに重視する点	28
	6. 家族介護の状況	34
	7. ドメスティック・バイオレンス (DV) について	36
	(A) DV に当たる行為について	36
	(B) DV をしたことについて	40
	(C) DV をされたことについて	42
	8. 小・中・高等学校における考え方について	44
	9. 職場における考え方について	48
	10. 育児休業・介護休業について	51
	(A) 育児休業取得状況	51
	(B) 介護休業取得状況	53
	11. セクシュアル・ハラスメントについて	54
	(A) セクシュアル・ハラスメントに当たる行為について	54
	(B) セクシュアル・ハラスメントを「したこと」について	56
	(C) セクシュアル・ハラスメントを「されたこと」について	58
	12. 男女共同参画推進に必要と思うこと	60
	13. 男女が共に仕事と家庭を両立させていくために必要と思うこと	62
	14. 男女共同参画に向けてしようと思うこと	64
	15. 自由回答	66
	調査票	71

I 調査の概要

【調査目的】

平成 14 年に策定した「なんこく男女共生かがやきプラン」（南国市男女共同参画総合施策）の見直しに向けて、市民の男女共同参画に関する取り組みの実態や問題点、意見等を調査し、施策を検討する上での基礎資料とすることを目的に実施した。

【調査対象】

満 20 歳以上の市民

【抽出方法】

住民基本台帳から無作為抽出

【調査方法】

郵送配布、郵送回収

【調査期間】

平成 22 年 5 月 17 日（月）～6 月 14 日（月）

【回収結果】

配布数 ----- 2,000 件

有効回収数 --- 713 件

有効回収率 --- 35.7%

居住地区別回収件数（上段：件数、下段：構成比％）（問 1－5）

サンプル数	上倉地区・ 瓶岩地区	久礼田地区	岡豊地区	国府地区	長岡地区	後免地区	野田地区	大篠地区
713	17	33	68	27	66	39	20	176
100.0	2.4	4.6	9.5	3.8	9.3	5.5	2.8	24.7

岩村地区	日章地区	前浜地区	三和地区	稻生地区	十市地区	緑ヶ丘地区	無回答
17	56	30	49	31	30	34	20
2.4	7.9	4.2	6.9	4.3	4.2	4.8	2.8

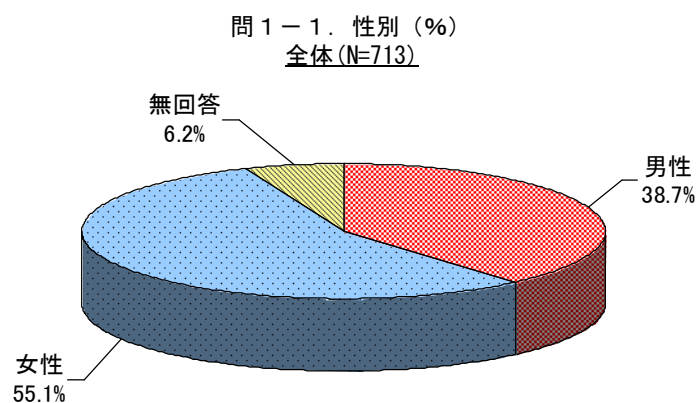
【報告書の見方について】

- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。従って回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を要する(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数(標本数)である。全標本数ベースを示す「全体」を「N」、該当数ベースを「n」で標記している。
- (4) 図表中における年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者(例えば、年齢別でクロス集計する場合における年齢の無回答者)を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5) 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値(例:0.0%、0.1%など)は図中表記から割愛している場合がある。
- (6) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

Ⅱ 回答者の属性

1. 性別

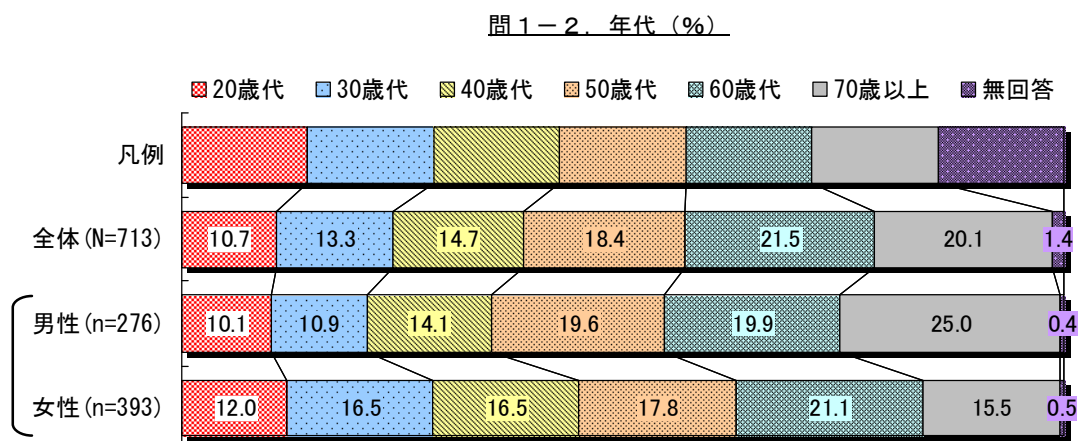
性別構成比は、男性 38.7%、女性 55.1%とやや女性が多い。



2. 年齢

年齢別構成は、「60 歳代」が 21.5%で最も多く、次いで「70 歳以上」(20.1%)、「50 歳代」(18.4%) の順となっている。

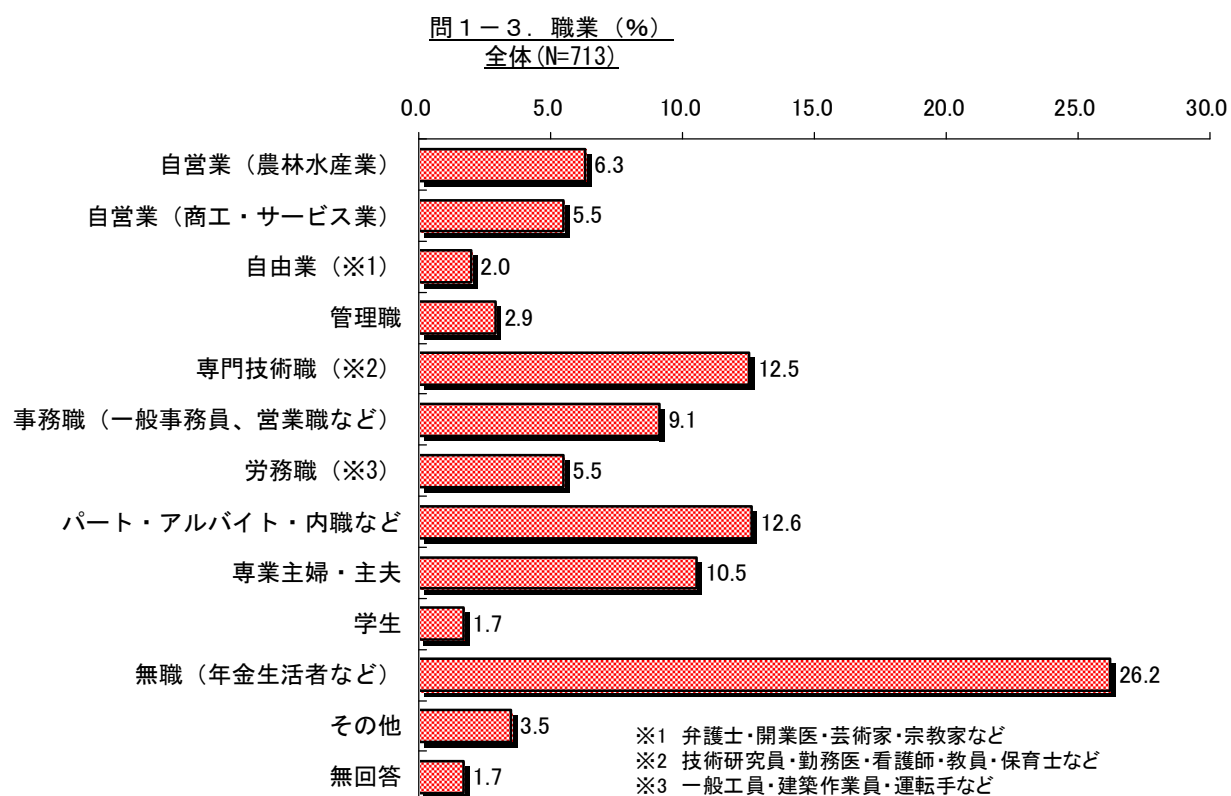
性別では、女性に比べて男性で 50 歳以上の占める割合が多くなっている。

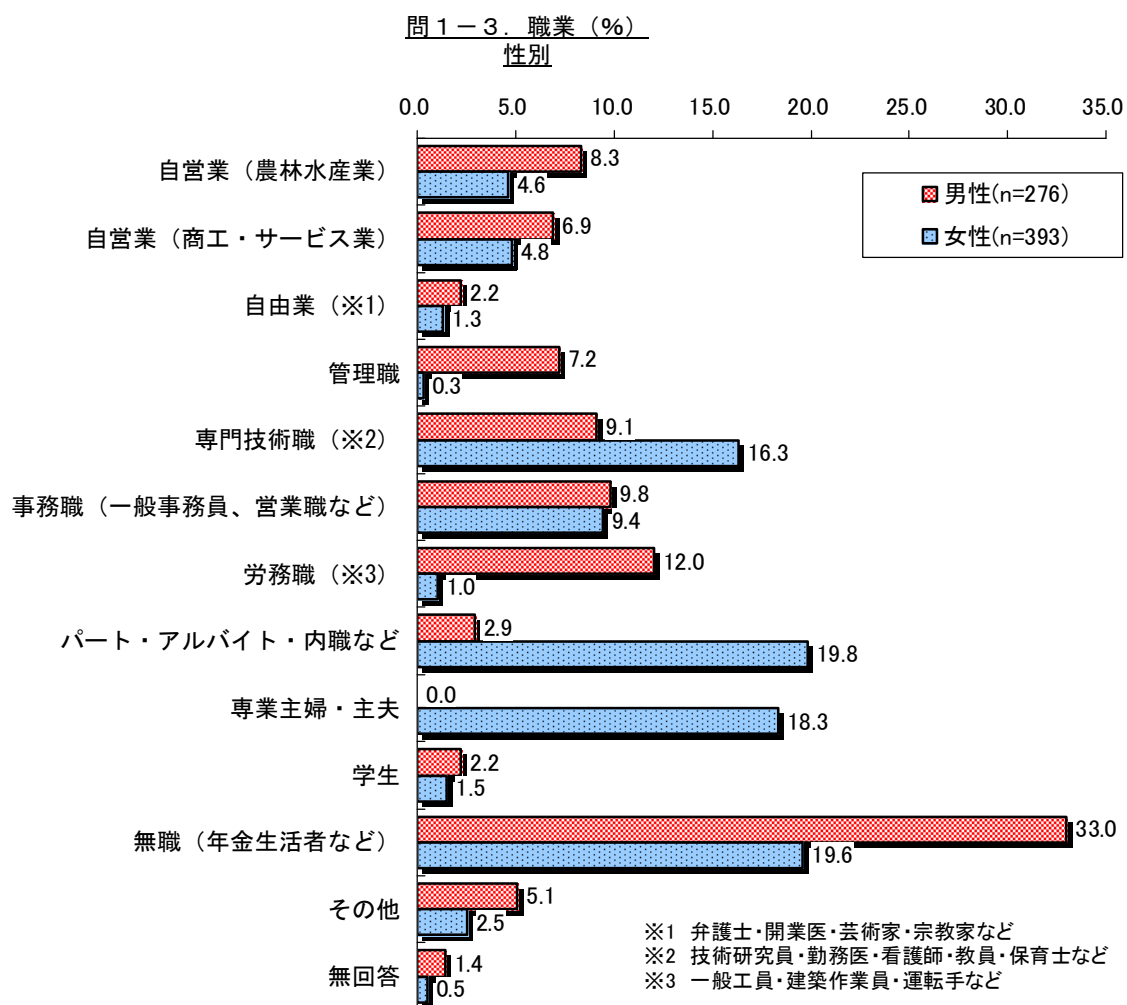


3. 職業

職業は、「無職（年金生活者など）」が 26.2%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」（12.6%）、「専門技術職」（12.5%）、「専業主婦・主夫」（10.5%）の順となっている。

性別では、男性で「無職（年金生活者など）」（33.0%）、女性で「パート・アルバイト」（19.8%）や「専業主婦・主夫」（18.3%）が多い。

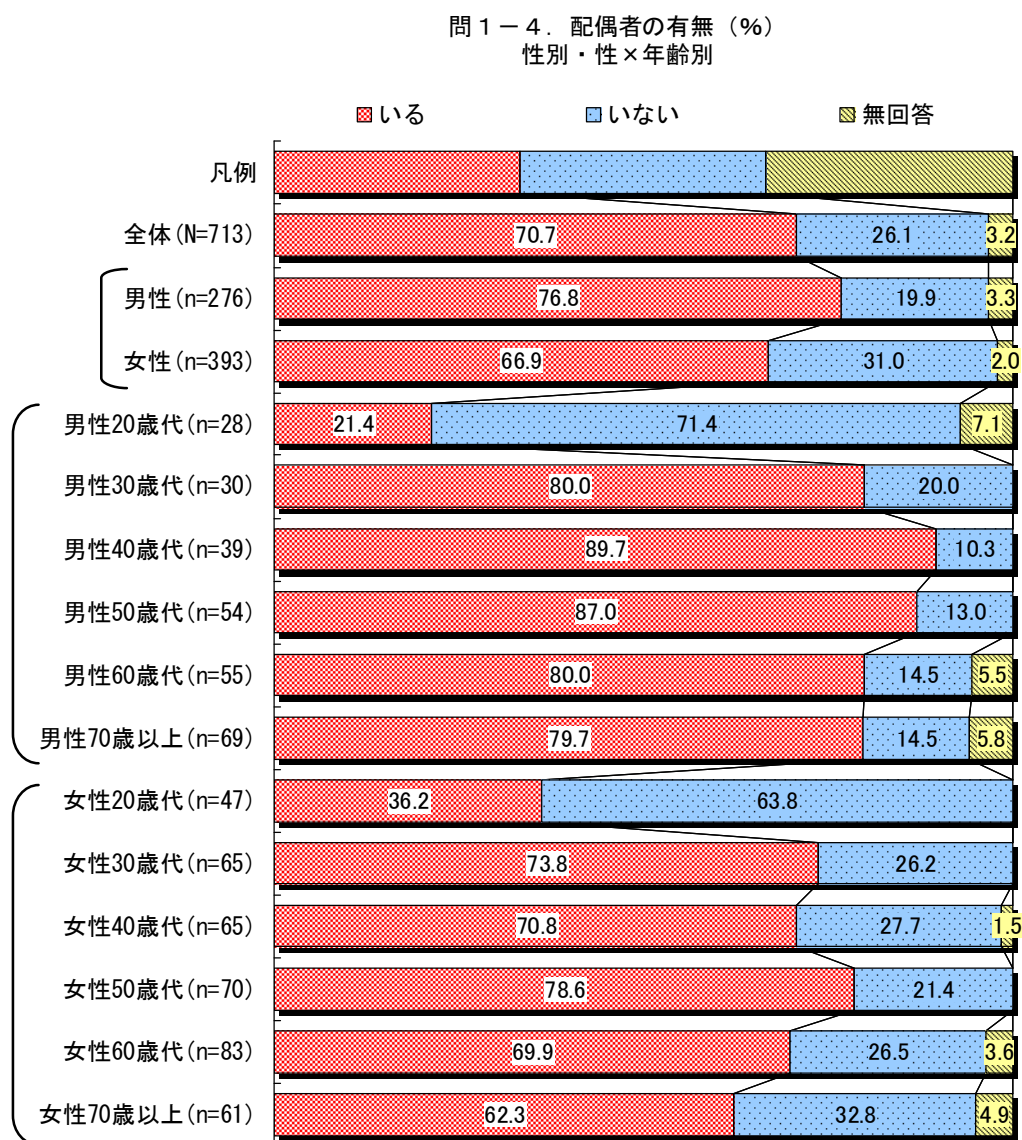




4. 配偶者の有無

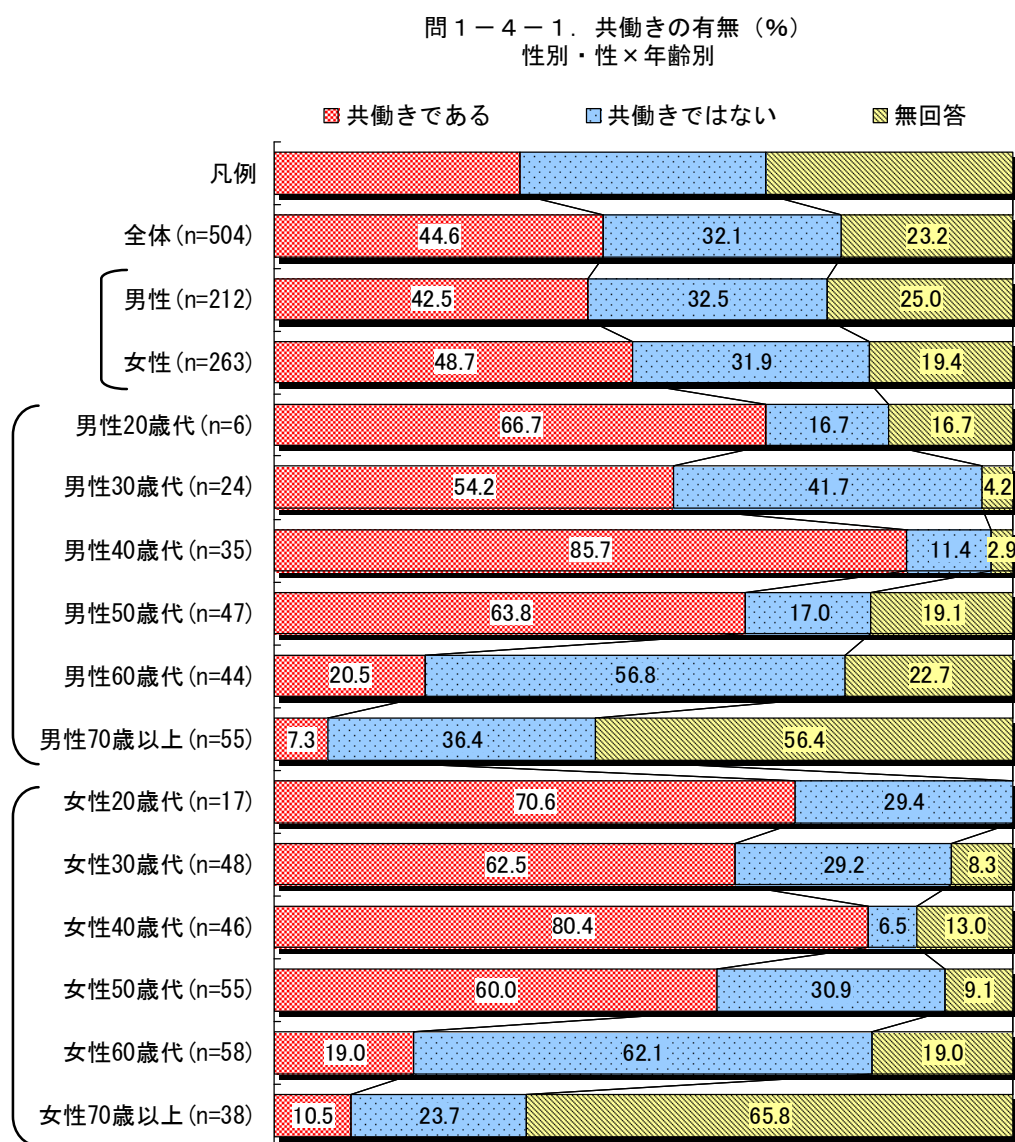
配偶者の有無は、「いる」が70.7%、「いない」が26.1%となっている。

性別では、女性に比べ男性で配偶者の「いる」割合がやや高い。性×年齢別では、男女とも20歳代で配偶者の「いない」割合が多くなっている。



5. 共働きの有無

共働きの有無は、「共働きである」が44.6%、「共働きではない」が32.1%となっている。
性×年齢別でみると、男女とも40歳代で「共働きである」割合が多い。

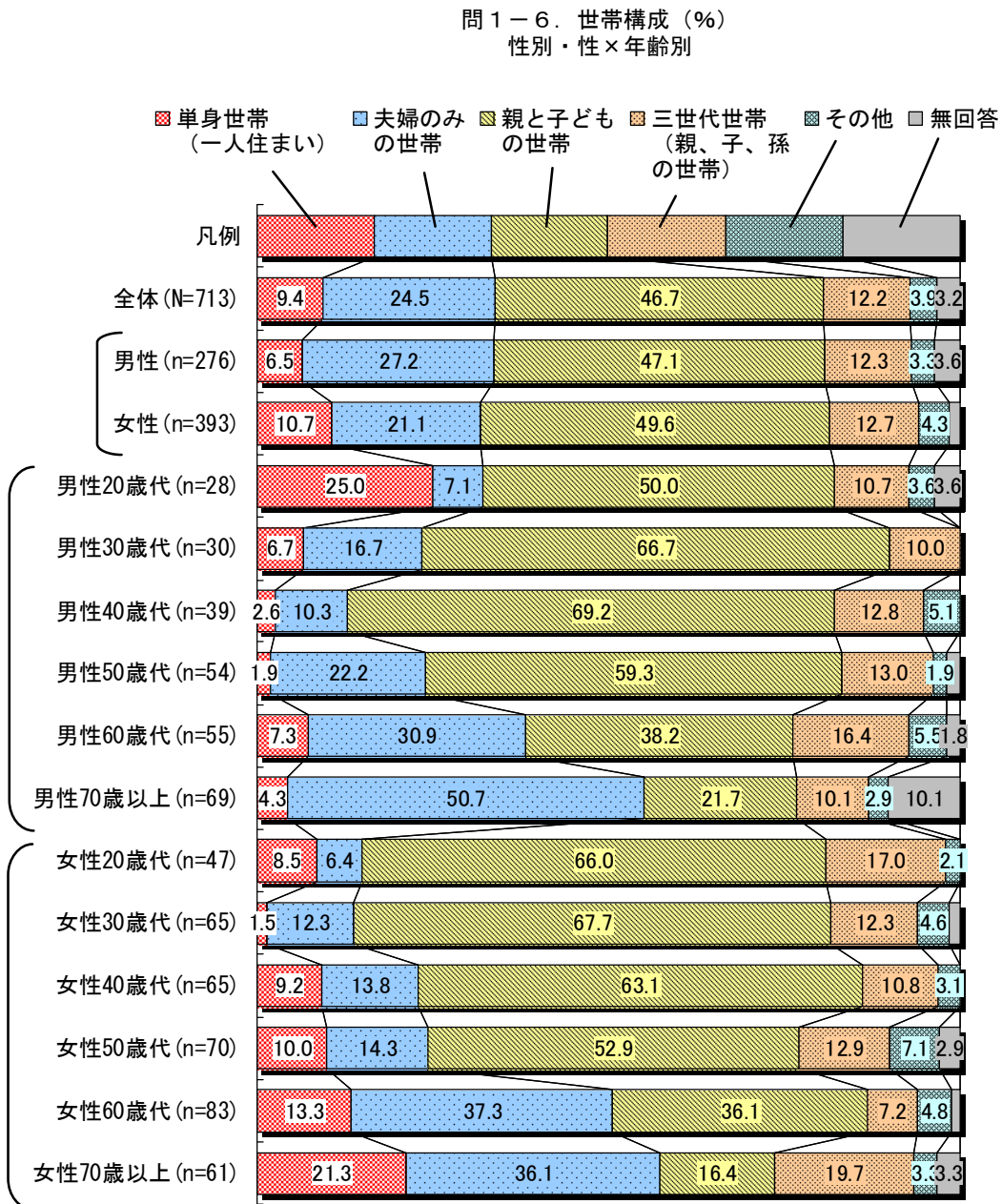


注:「男性20歳代」については該当件数(n)が少ないため、参考値として参照してください。

6. 世帯構成

世帯構成は、「親と子どもの世帯」が46.7%で最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」(24.5%)、「三世帯世帯(親、子、孫の世帯)」(12.2%)の順となっている。

性×年齢別でみると、男女とも30～50歳代で「親と子どもの世帯」の占める割合が多く、年齢が上がるにつれて「夫婦のみの世帯」の割合が多くなる傾向がみられる。また、男性20代と女性70歳以上で「単身世帯(一人住まい)」の割合が比較的多くなっている。



Ⅲ 調査結果

1. 男女共同参画に関する言葉の認知状況

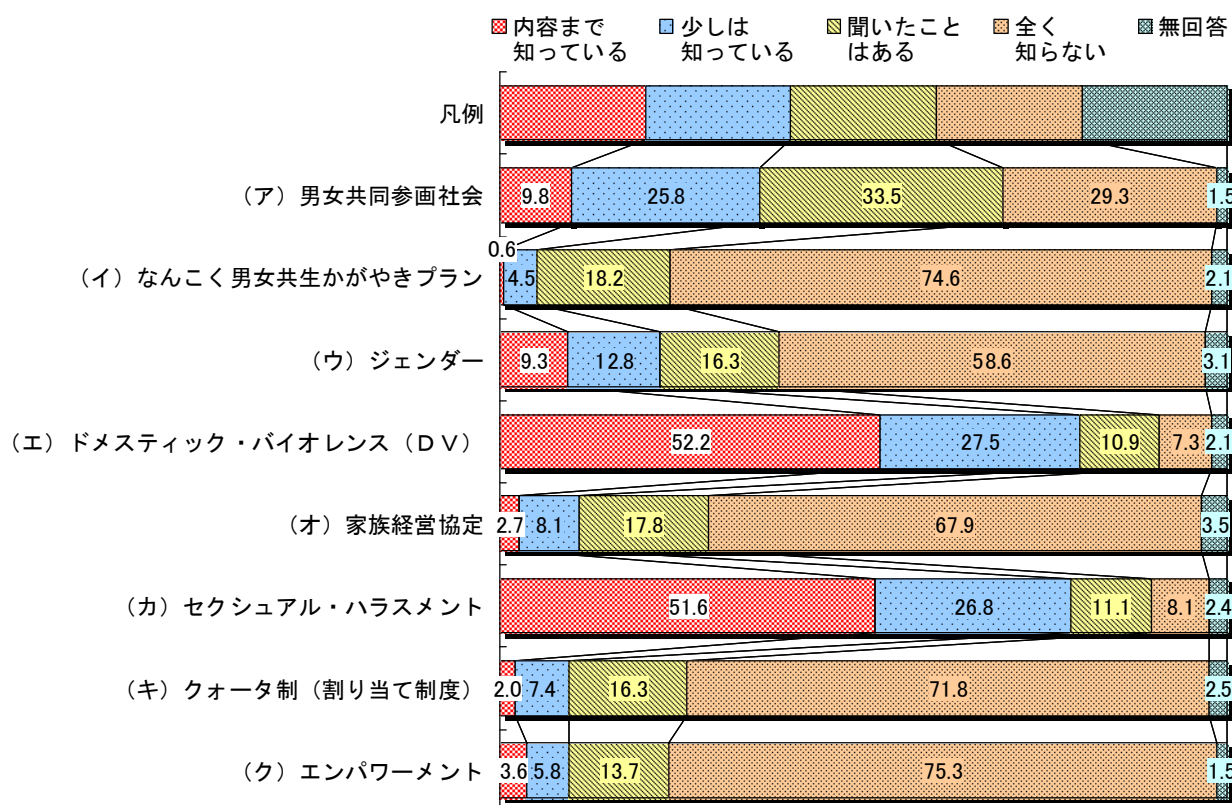
問 2 あなたは、次にあげる男女共同参画に関する次の言葉をご存じですか。（○は言葉ごとに1つ）

男女共同参画に関する言葉の認知状況について、「内容まで知っている」割合の多い言葉は、「(エ) ドメスティック・バイオレンス (DV)」(52.2%)、「(カ) セクシュアル・ハラスメント」(51.6%)であり、「少しは知っている」割合まで合わせると、どちらも 8 割近くとなっている。

一方、「全く知らない」割合の多い言葉は、「(ク) エンパワメント」(75.3%)、「(イ) なんこく男女共生かがやきプラン」(74.6%)、「(キ) クォータ制 (割り当て制度)」(71.8%)、「(オ) 家族経営協定」(67.9%)、「(ウ) ジェンダー」(58.6%)である。

各項目を属性別にみると、「(エ) ドメスティック・バイオレンス (DV)」と「(カ) セクシュアル・ハラスメント」は男女とも年齢が若くなるほど認知している割合が多くなっている。

問 2. 男女共同参画に関する言葉の認知状況 (%)
全体 (N=713)

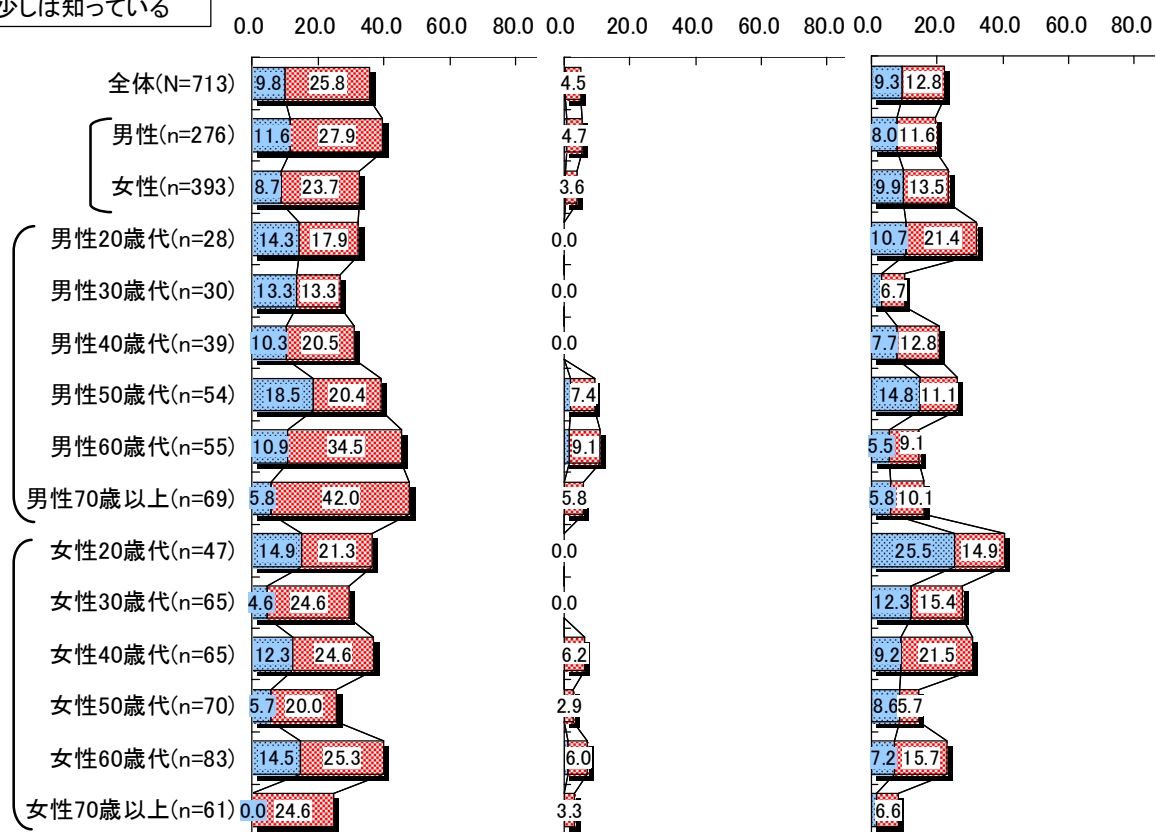


■ 内容まで知っている
■ 少しは知っている

問2(ア) 男女共同参画社会

問2(イ) なんこく男女共生
かがやきプラン

問2(ウ) ジェンダー

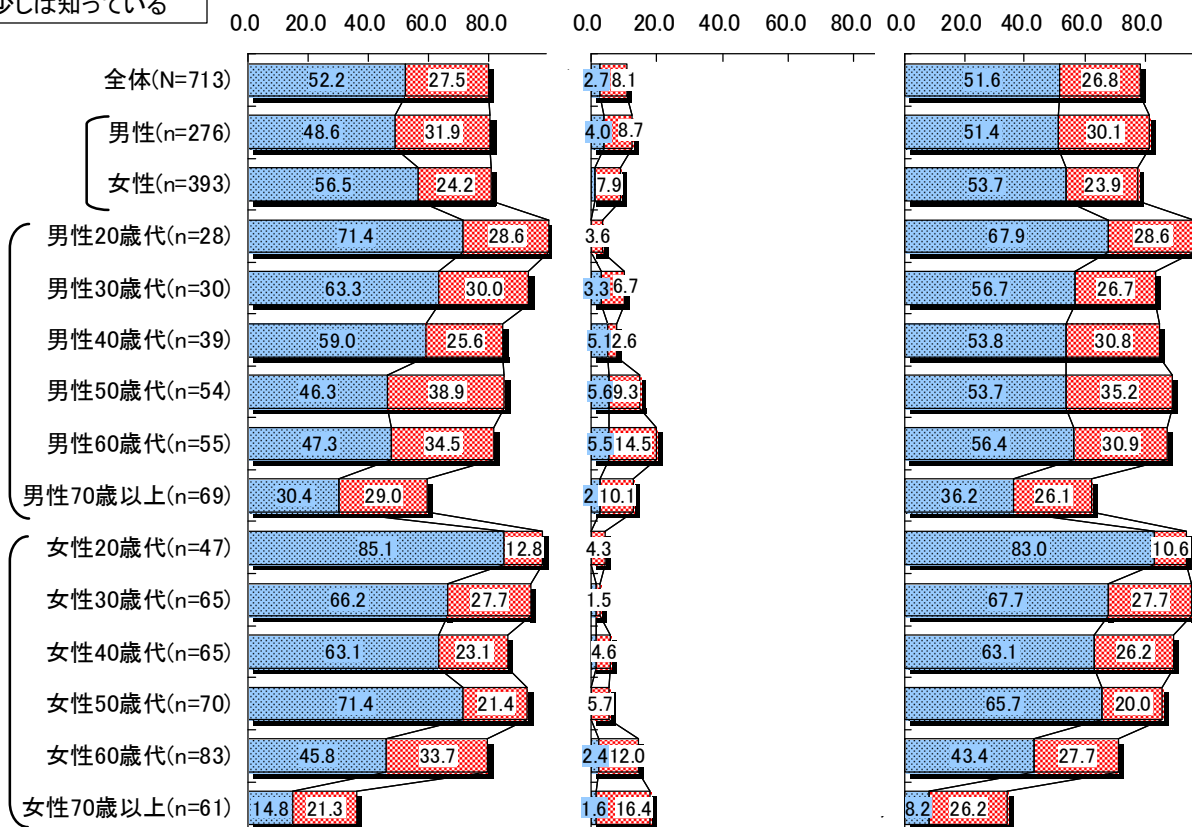


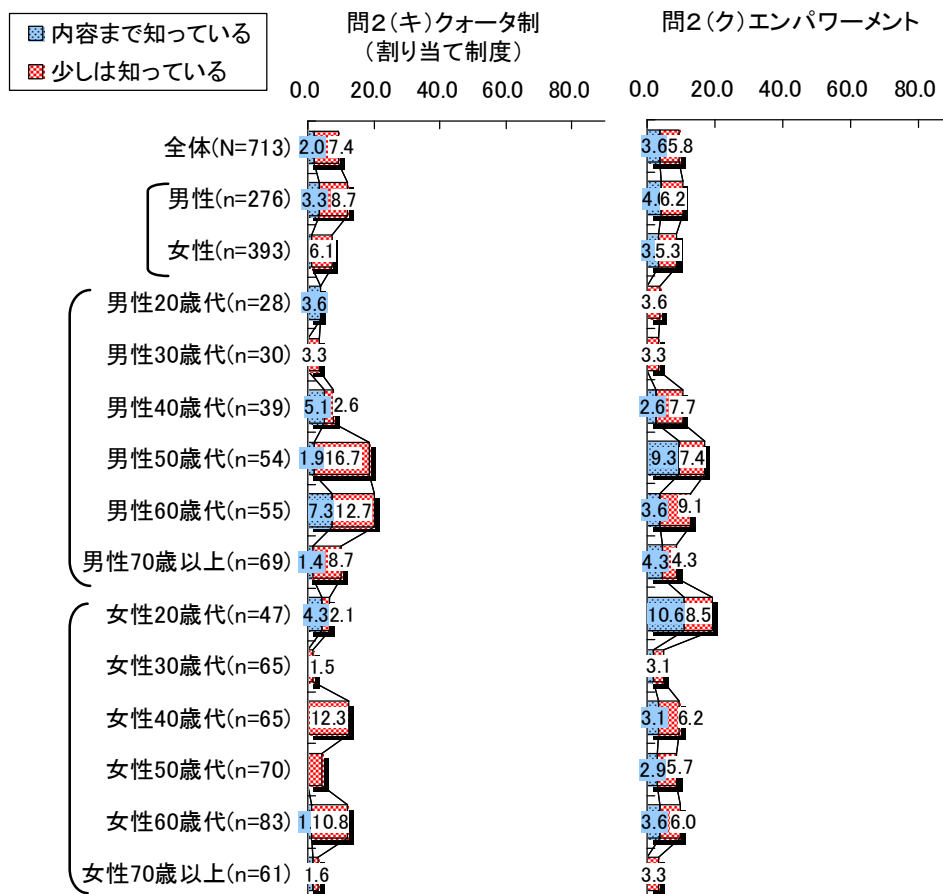
■ 内容まで知っている
■ 少しは知っている

問2(エ) ドメスティック・
バイオレンス(DV)

問2(オ) 家族経営協定

問2(カ) セクシュアル・
ハラスメント





2. 日常生活における男女の差別的慣習等について

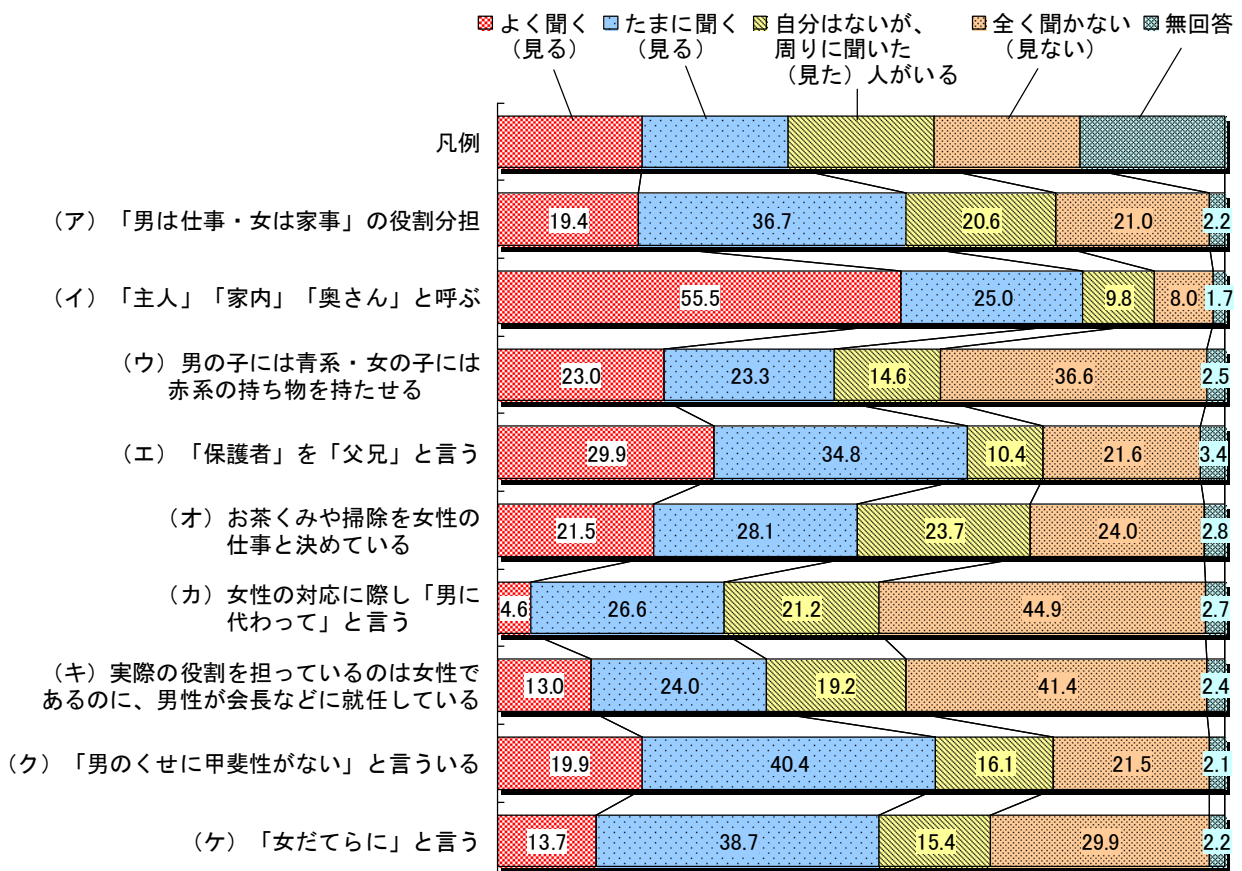
問 3 あなたの周りでは、次にあげることを聞いたり、見たりすることがありますか。(〇は項目ごとに1つ)

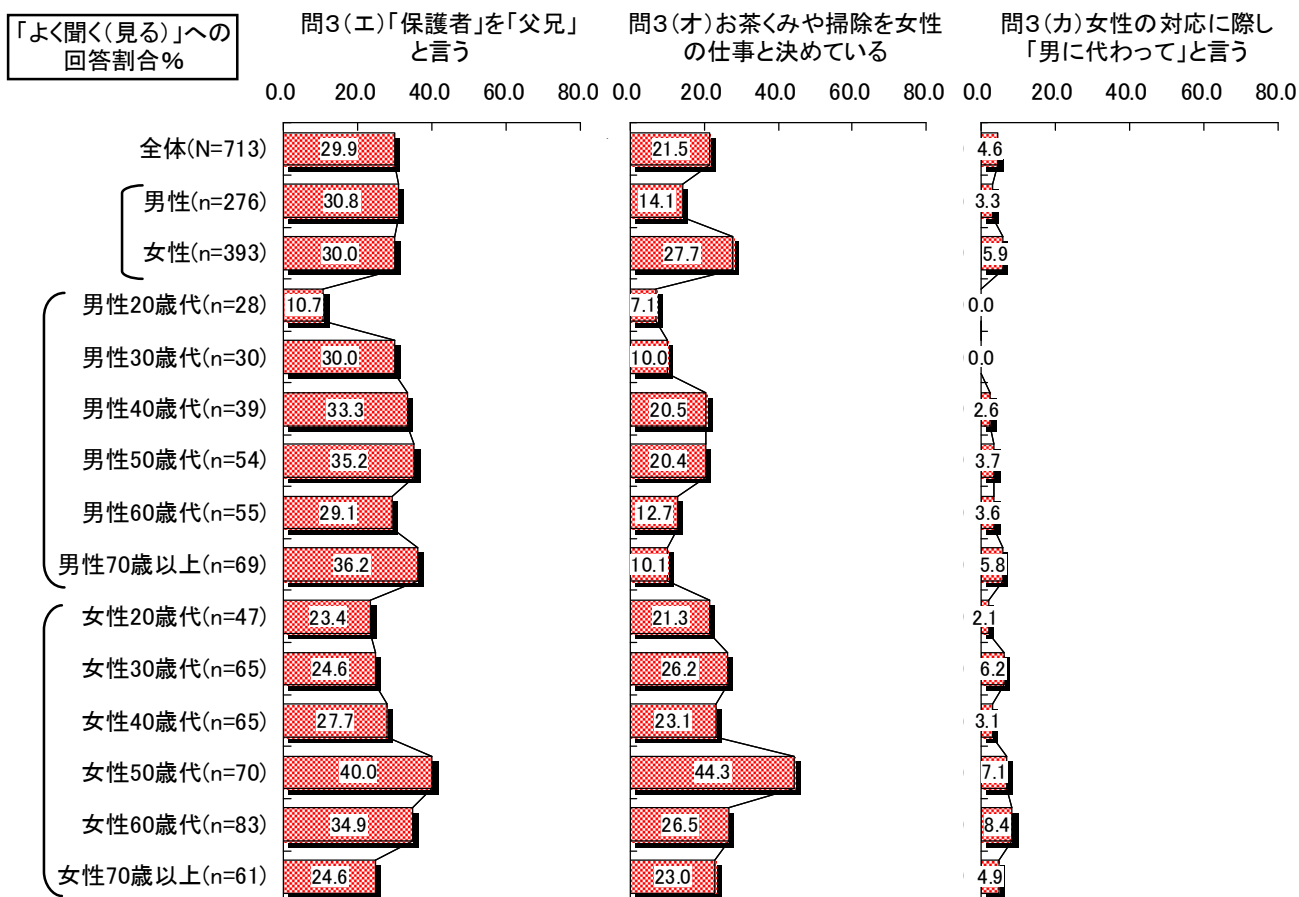
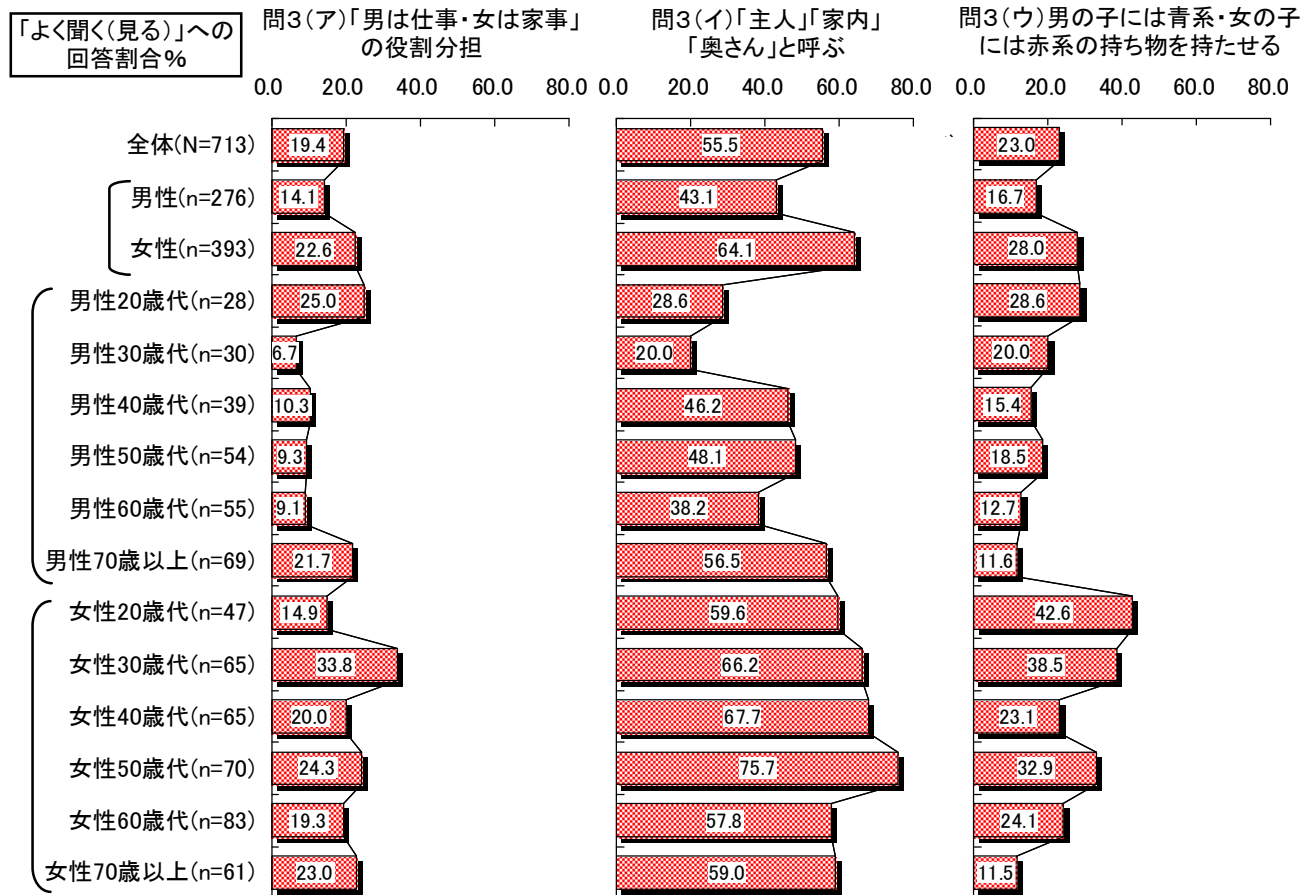
日常生活における男女の差別的慣習等について、「よく聞く(見る)」割合の多い項目は、「(イ)「主人」「家内」「奥さん」と呼ぶ」が55.5%と突出しており、次いで「(エ)「保護者」を「父兄」と言う」(29.9%)、「(ウ)男の子には青系・女の子には赤系の持ち物を持たせる」(23.0%)、「(オ) お茶くみや掃除を女性の仕事と決めている」(21.5%) の順となっている。

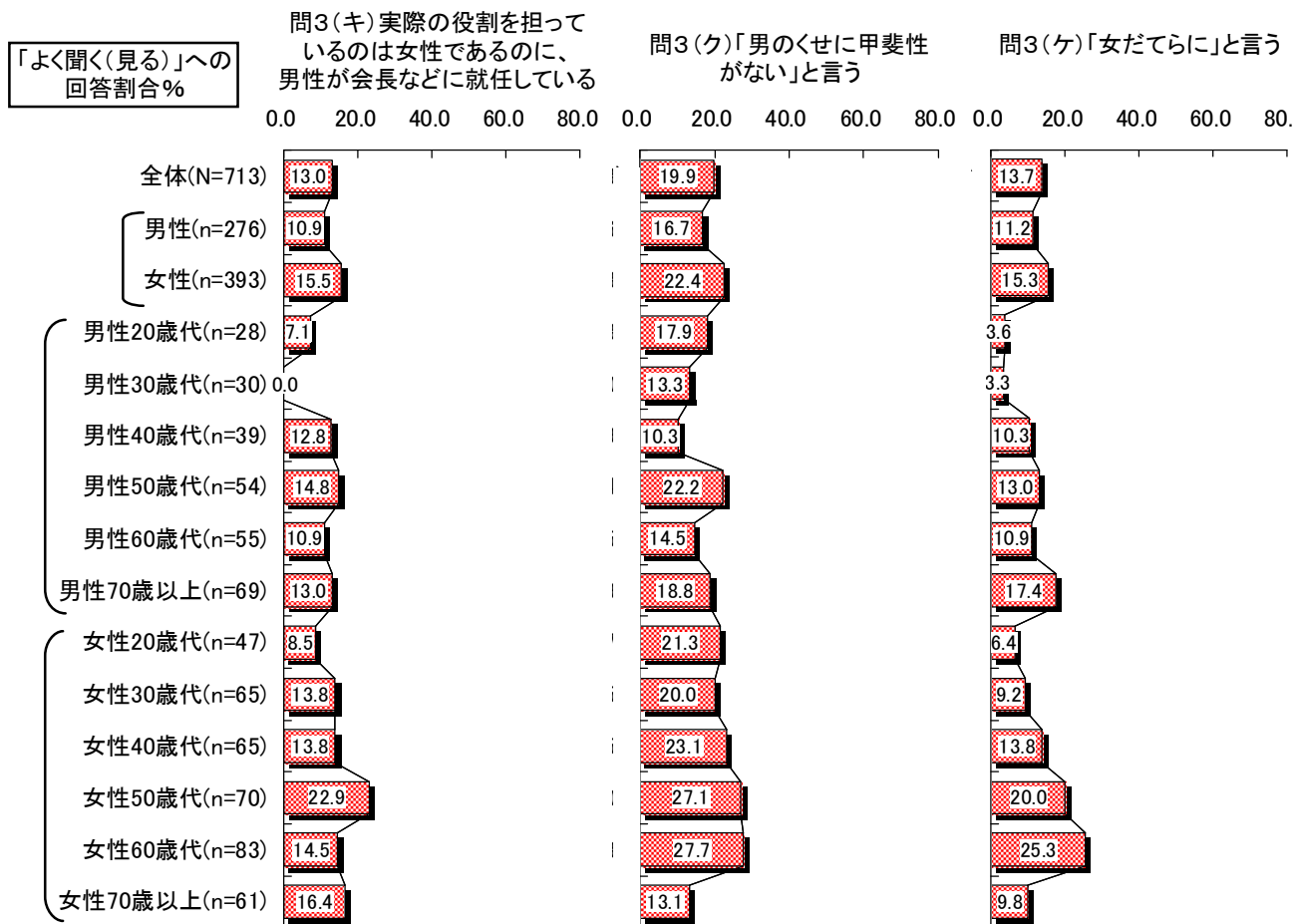
一方、「全く聞かない(見ない)」割合の多い項目は、「(カ) 女性の対応に際し「男に代わって」と言う」(44.9%)、「(キ) 実際の役割を担っているのは女性であるのに、男性が会長などに就任している」(41.4%) である。

各項目を属性別にみると、全般的に女性の方が「よく聞く(見る)」割合が多くなっており、「(イ)「主人」「家内」「奥さん」と呼ぶ」や「(オ) お茶くみや掃除を女性の仕事と決めている」は女性50歳代でとくに多い。また、「(ウ) 男の子には青系・女の子には赤系の持ち物を持たせる」は女性で年齢が若くなるほど「よく聞く(見る)」割合が多くなる傾向がみられる。

問 3. 日常生活における男女の差別的慣習等について (%)
全体 (N=713)





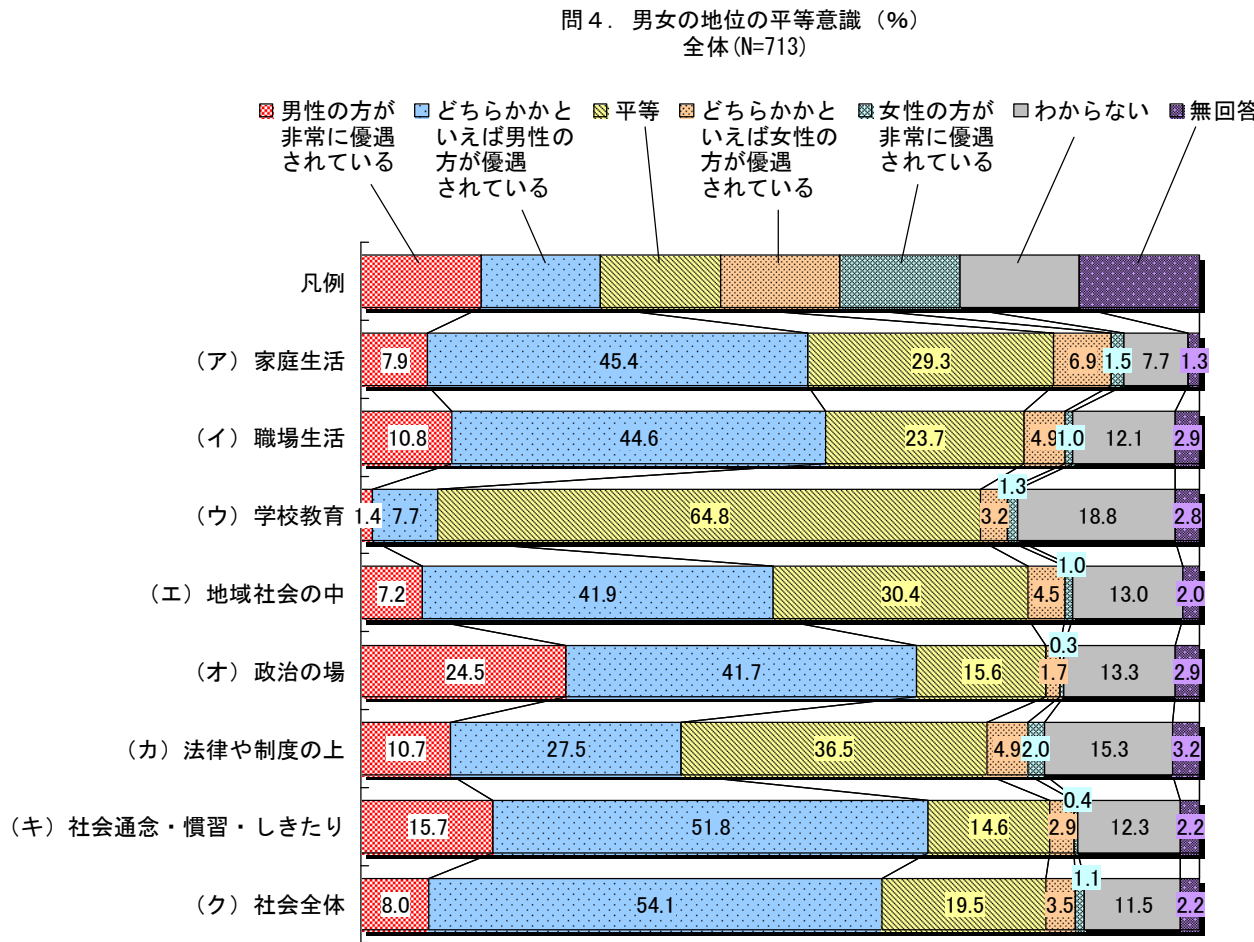


3. 男女の地位の平等意識

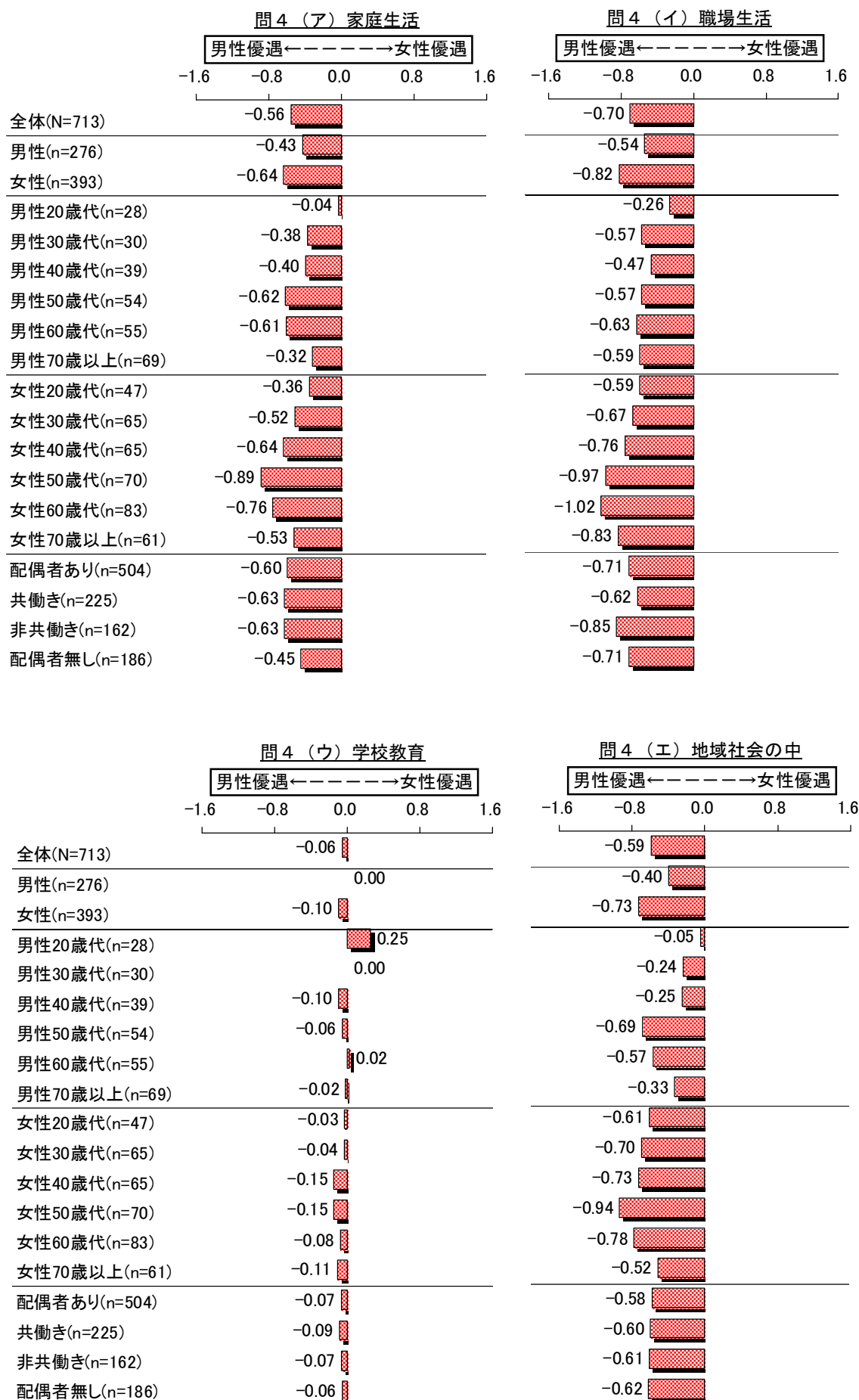
問4 次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(〇は分野ごとに1つ)

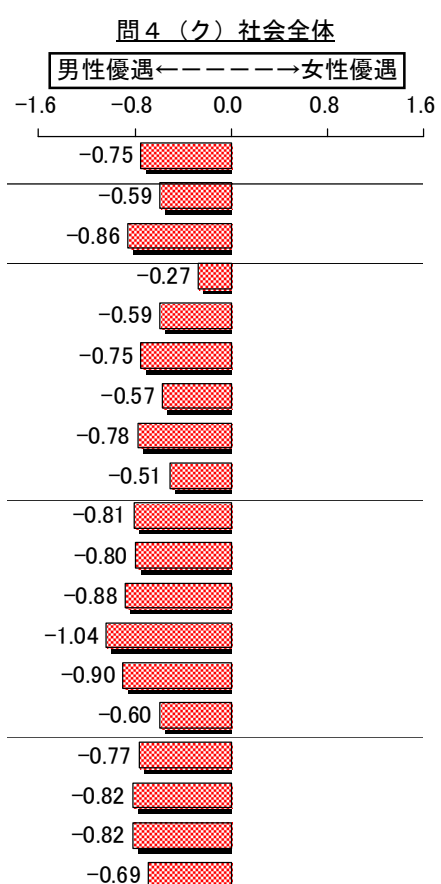
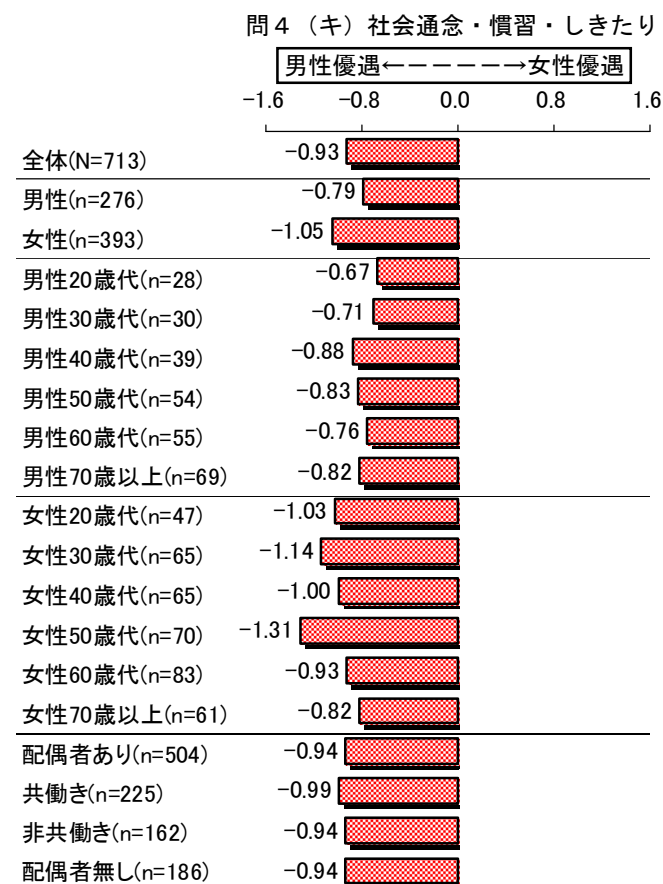
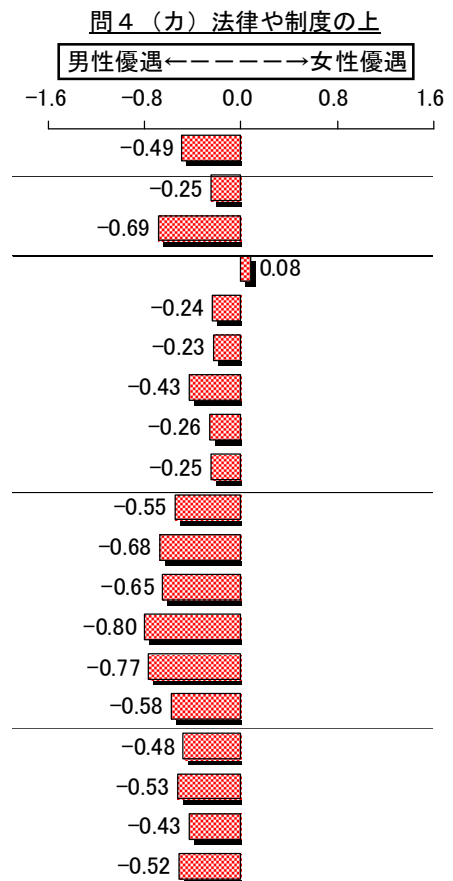
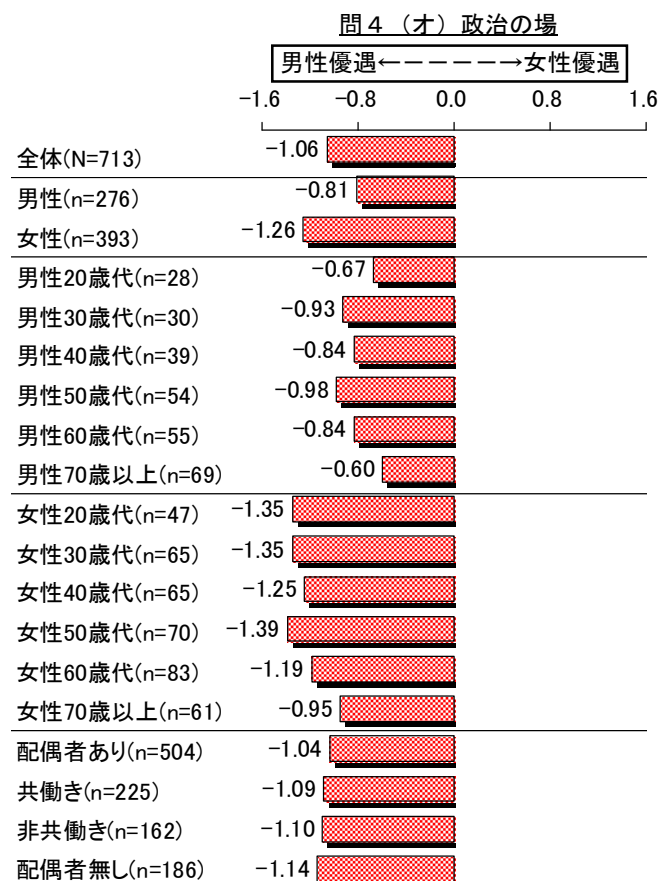
男女の地域の平等意識については、全般的に男性の方が優遇されている割合が多く、とくに「(オ) 政治の場」で「男性の方が非常に優遇されている」割合が24.5%となっている。一方、「(ウ) 学校教育」については「平等」の割合が64.8%と比較的多くなっている。

各項目を属性別にみると、全般的に女性の方が「男性優遇」の意識が高く、とくに女性 50 歳代の「男性優遇」意識が高い傾向がみられる。一方、「(ウ) 学校教育」は属性別にみても「平等」意識が高い。



※次ページ以降に掲げる、属性別の図表における数値は「加重平均値」です。「加重平均値」とは「1. 男性の方が非常に優遇されている」の回答件数に「-2 点」、「2. どちらかといえば男性の方が優遇されている」に「-1 点」、「3. 平等」に「0 点」、「4. どちらかといえば女性の方が優遇されている」に「1 点」、「5. 女性の方が非常に優遇されている」に「2 点」のウェイトを乗じ、加重平均して算出したもので、-2 点に近いほど「男性優遇」、2 点に近いほど「女性優遇」、0 点に近いほど「平等」を示す「指標」です。また、この数値はあくまでも「指標」であり、マイナス、プラスによって優劣を判定するものではありません。





4. 日常的な家庭での仕事分担の理想と現実

問5 日常的な家庭での仕事分担について伺います。

(A) 表は、あなたの考える理想の役割分担に一番近いものを、全員の方がお答えください。

(B) 表は、実際の分担に一番近いものを、配偶者のいる方のみお答えください。

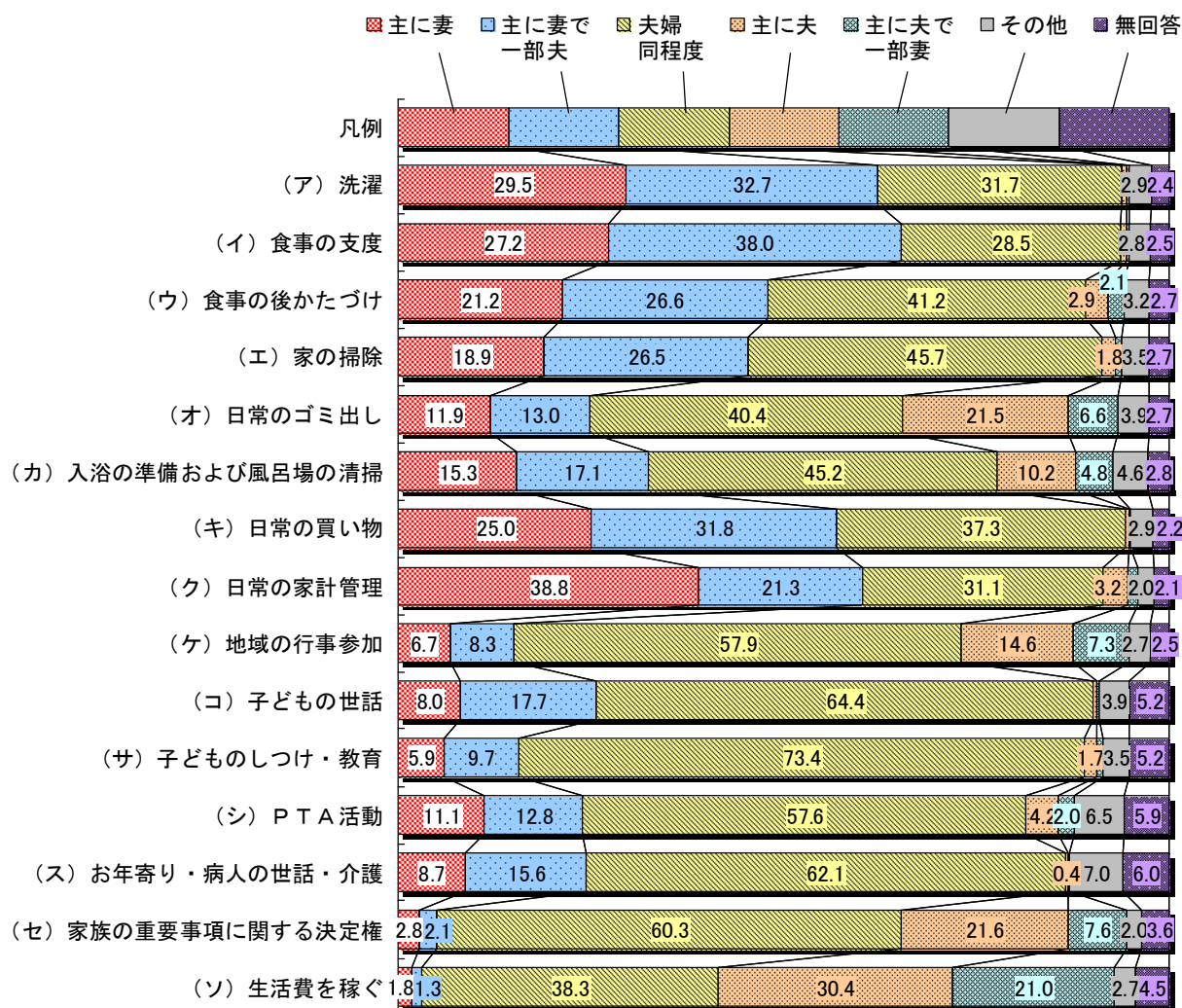
(○はA・B表で項目ごとに1つ)

(A) 理想の役割分担

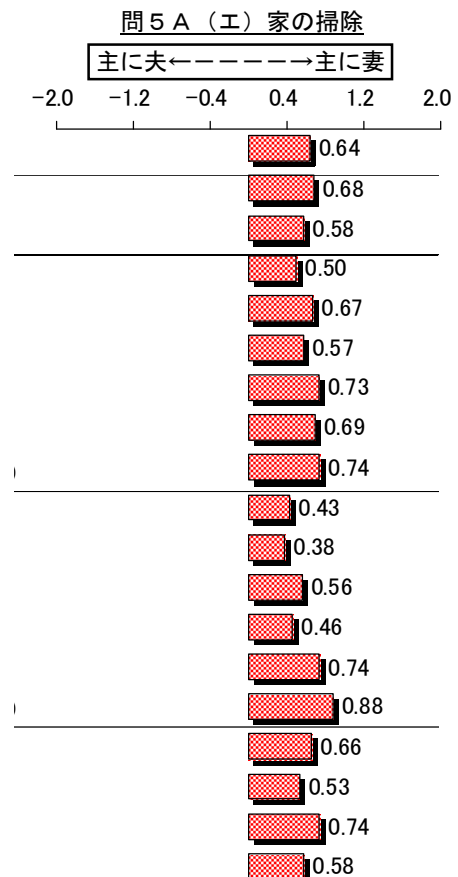
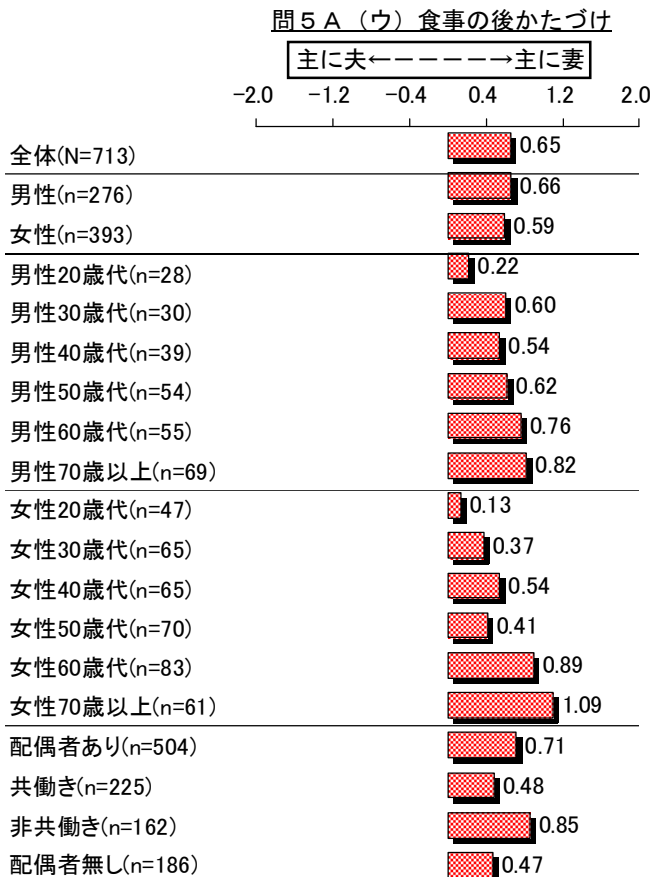
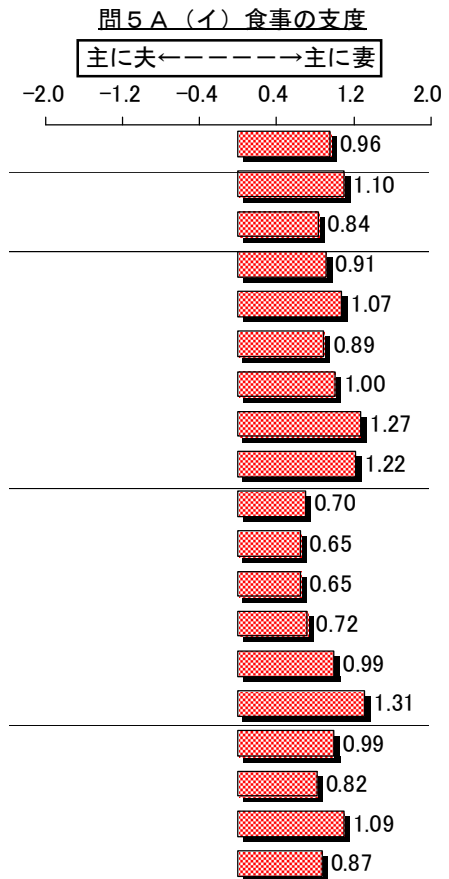
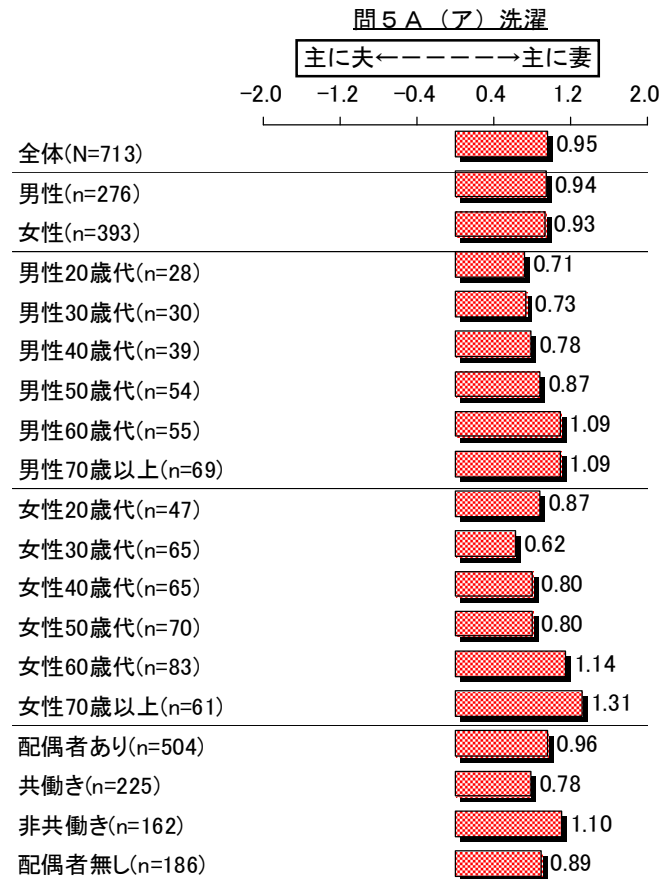
日常的な家庭での仕事分担に関する理想の役割分担について、「主に妻」の割合が多い項目は、「(ク) 日常の家計管理」(38.8%)、「(ア) 洗濯」(29.5%)、「(イ) 食事の支度」(27.2%)、「(キ) 日常の買物」(25.0%)であり、「主に夫」の割合が多い項目は、「(ソ) 生活費を稼ぐ」(30.4%)、「(セ) 家族の重要事項に関する決定権」(21.6%)、「(オ) 日常のゴミ出し」(21.5%)である。また、「夫婦同等程度」の割合の多い項目は、「(サ) 子どものしつけ・教育」(73.4%)、「(コ) 子どもの世話」(64.4%)、「(ス) お年寄り・病人の世話・介護」(62.1%)である。

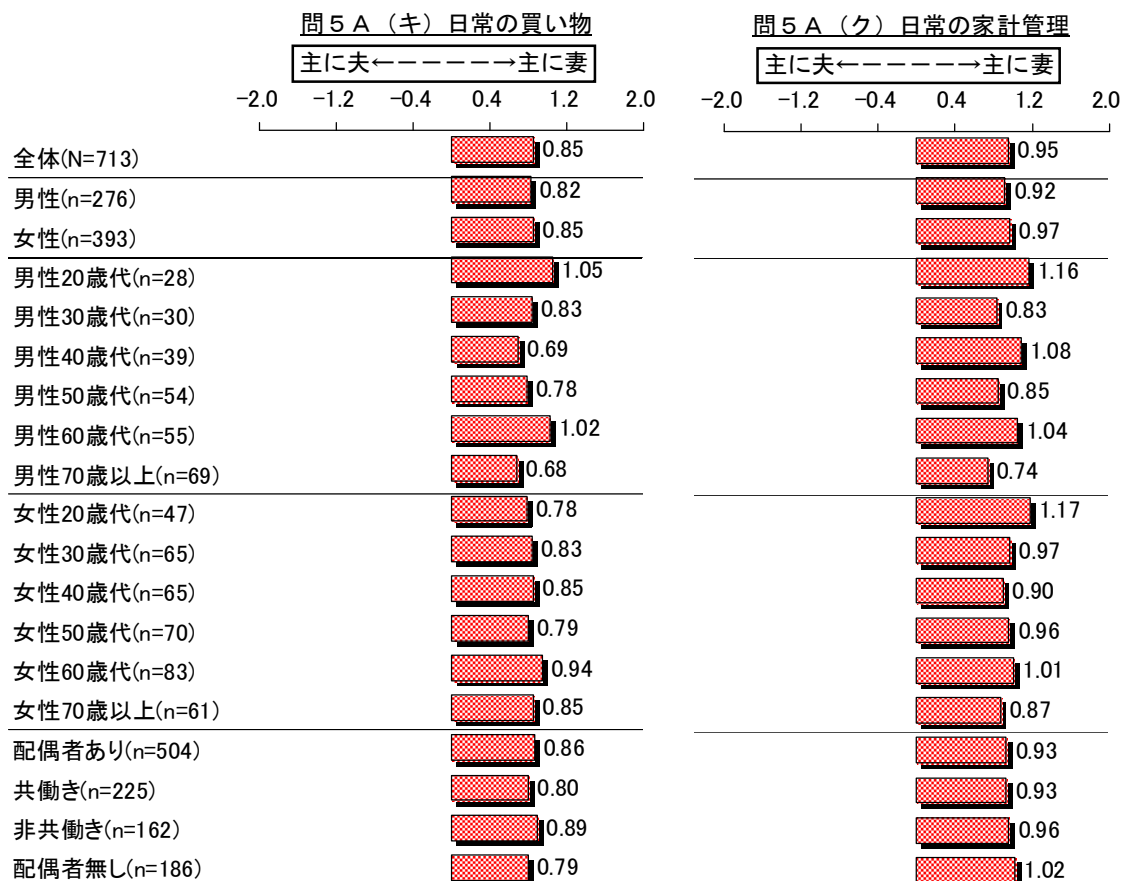
各項目を属性別にみると、「(ア) 洗濯」、「(イ) 食事の支度」、「(ウ) 食事の後かたづけ」、「(エ) 家の掃除」は、男女とも年齢が上がるにつれて「主に妻」が理想として担うべき役割であると回答する傾向が強い。

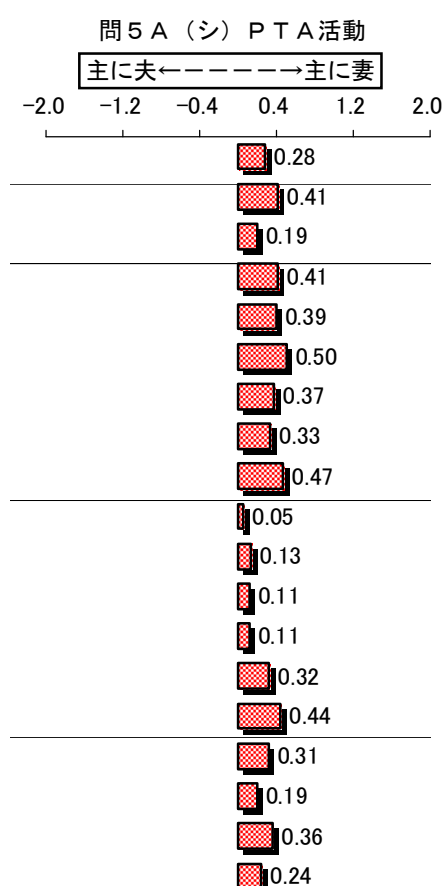
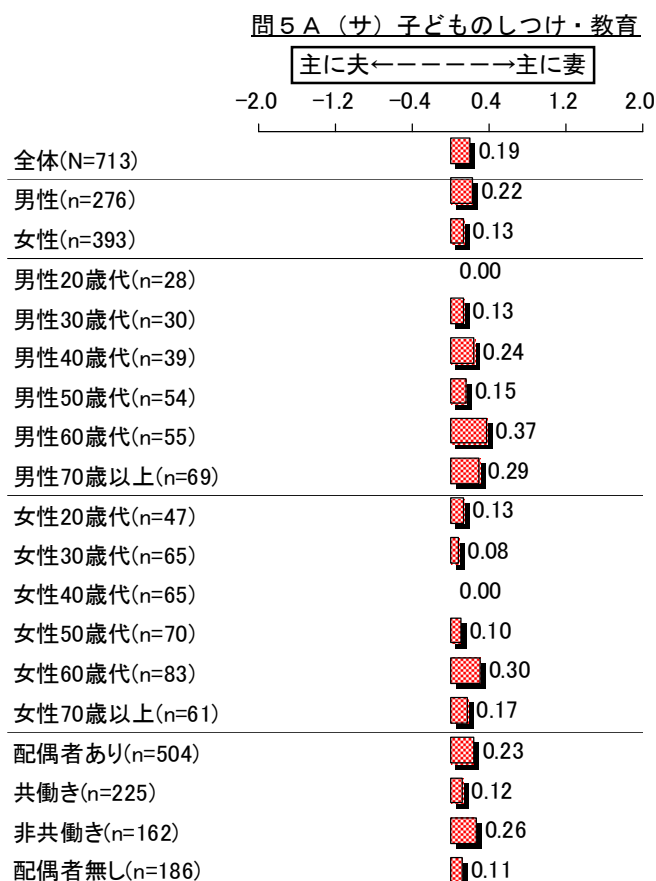
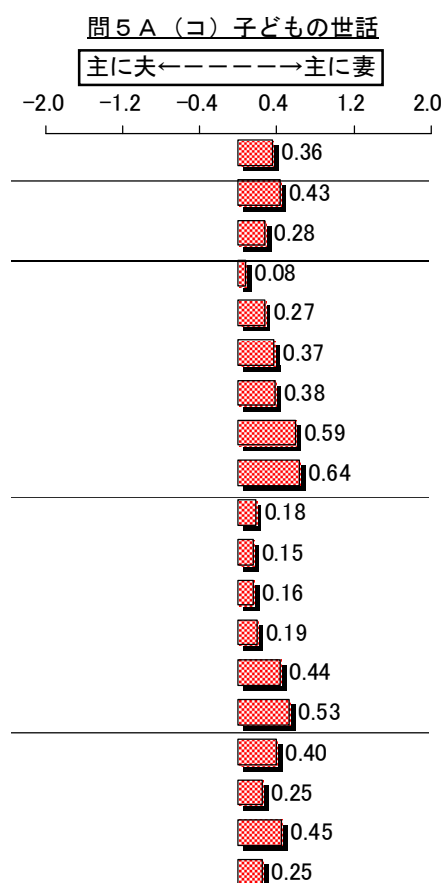
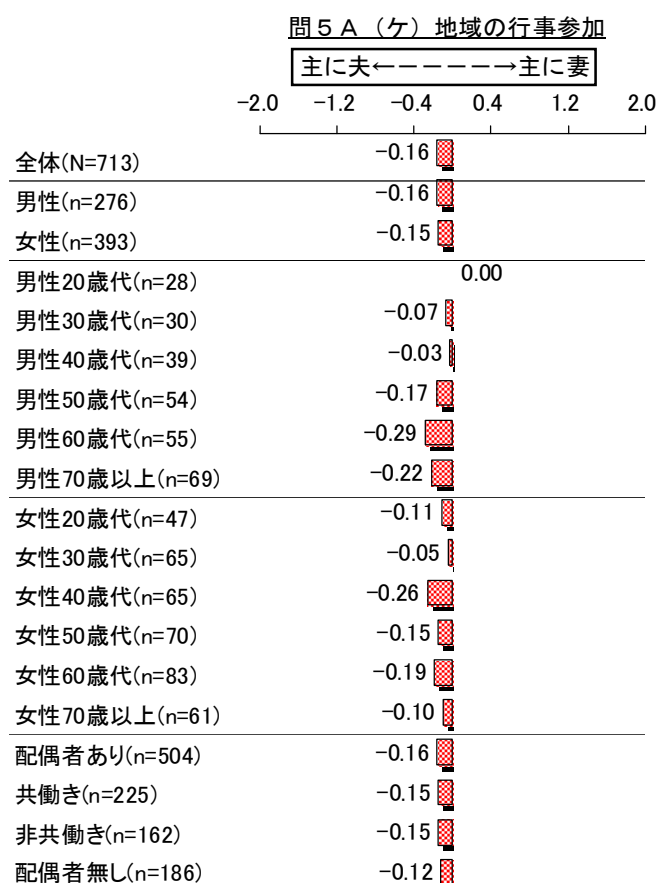
問5 A. 理想の役割分担 (%)
全体 (N=713)

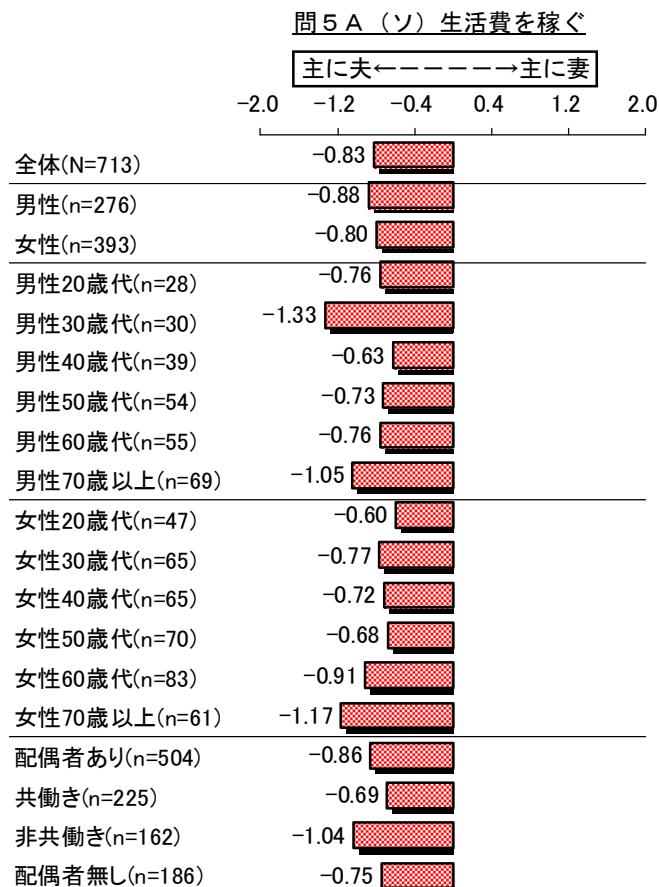
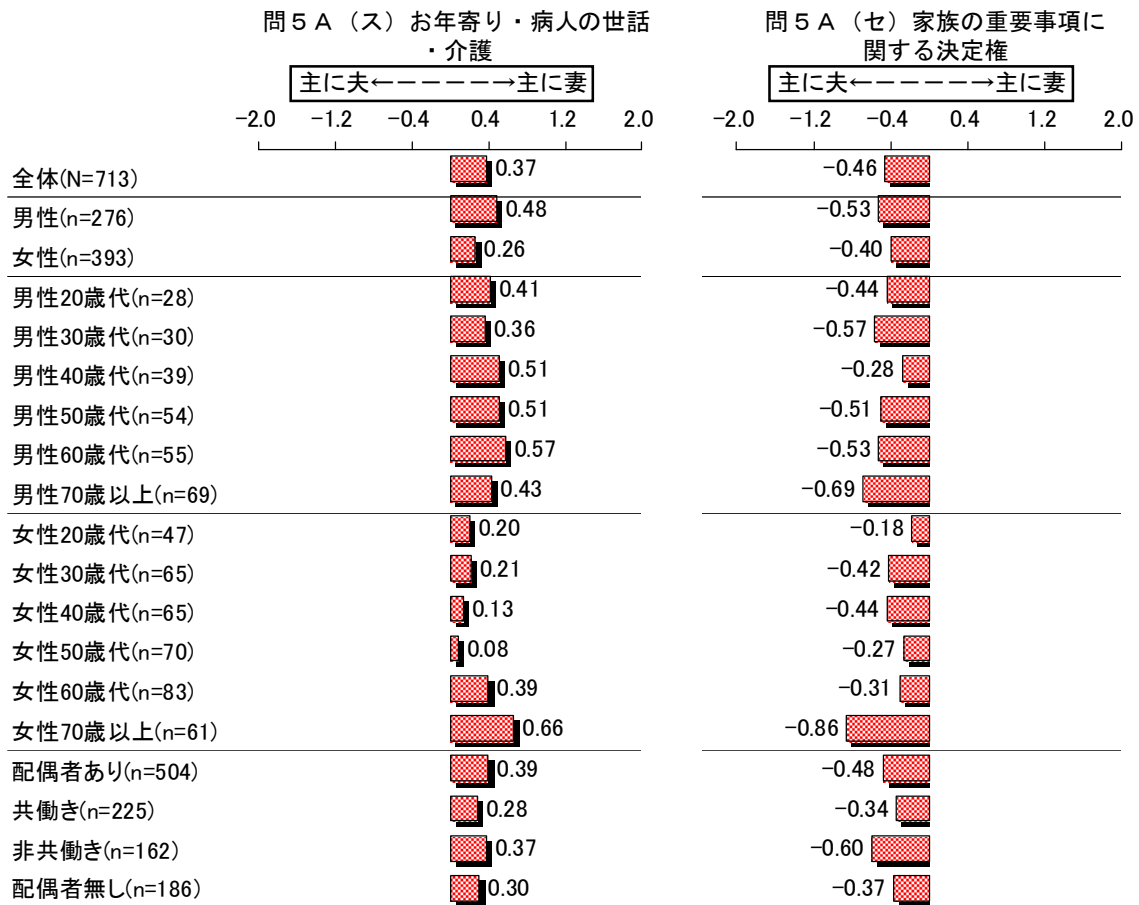


注: 数値は「加重平均値」です(15 ページ※参照)。





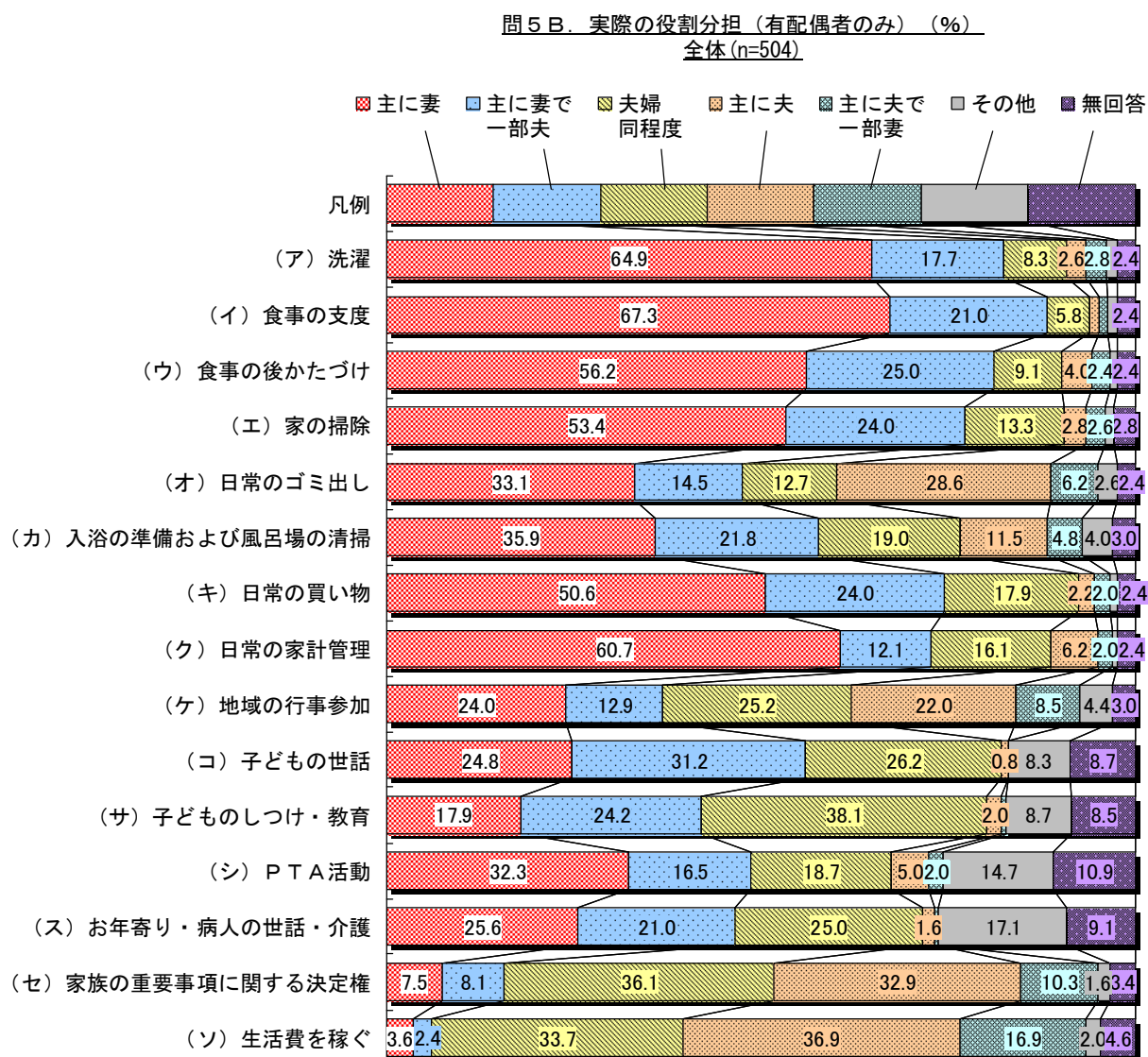




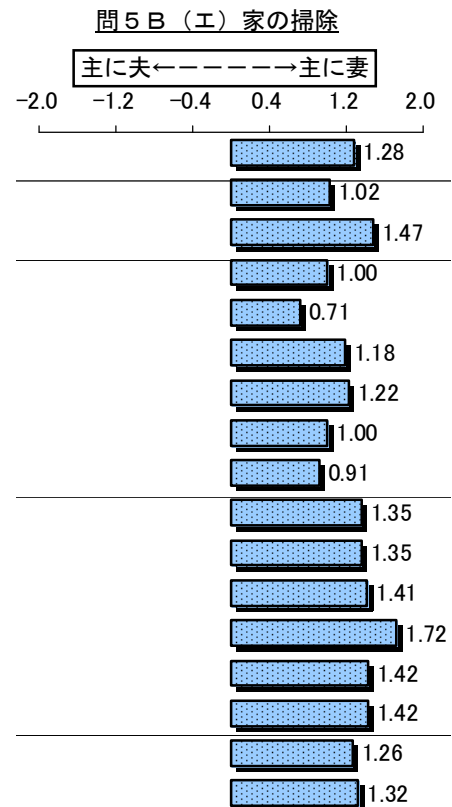
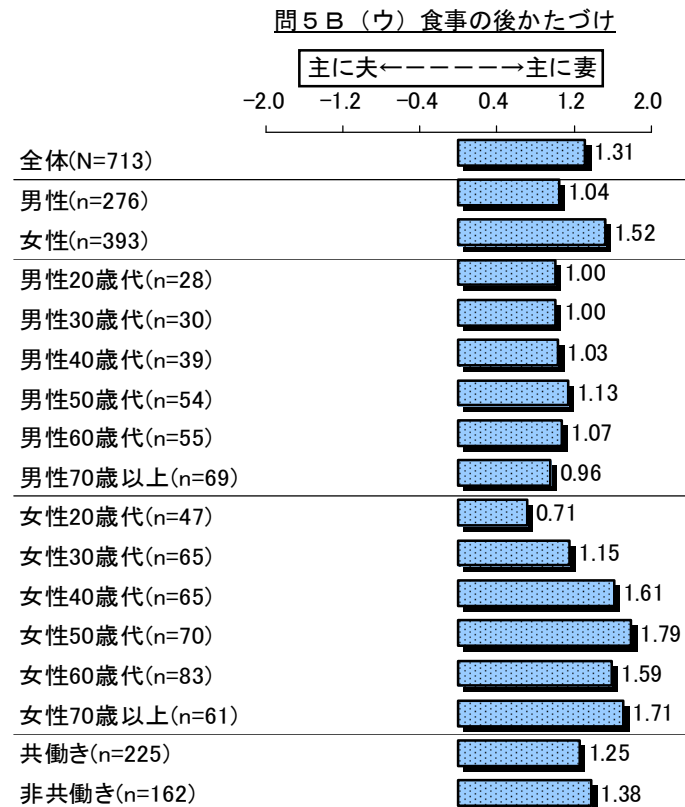
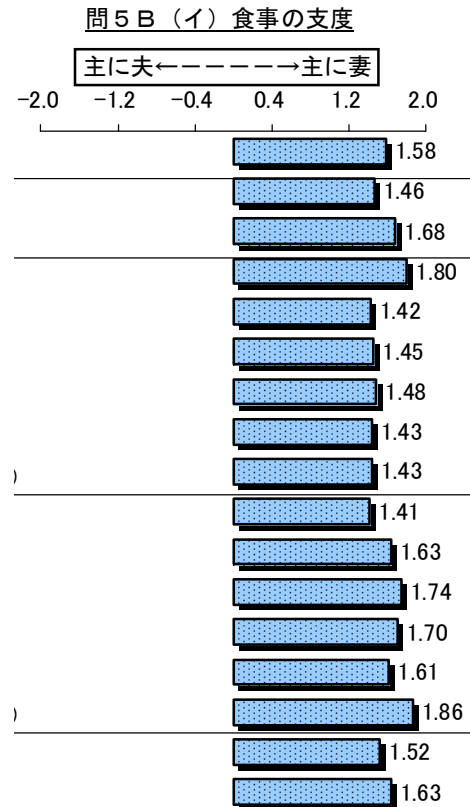
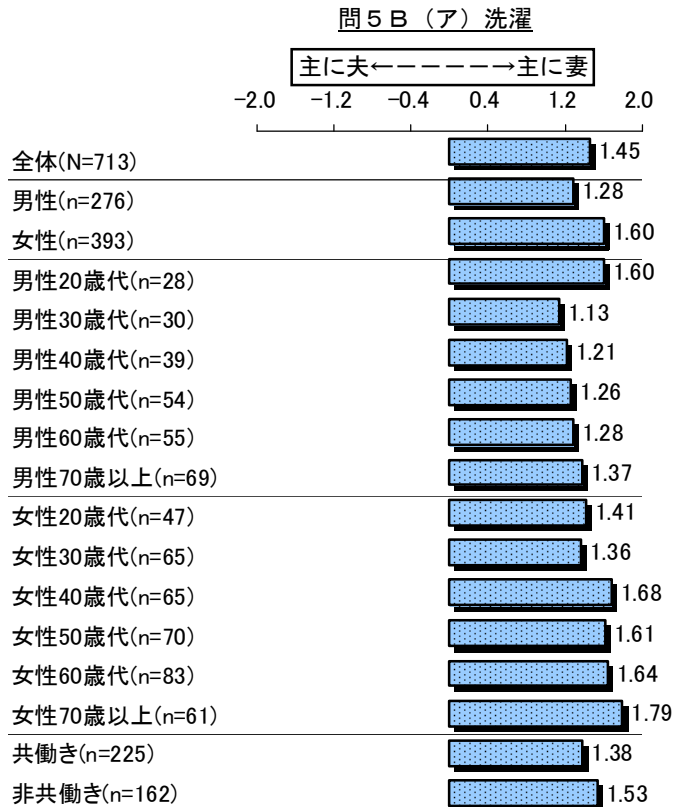
(B) 実際の役割分担

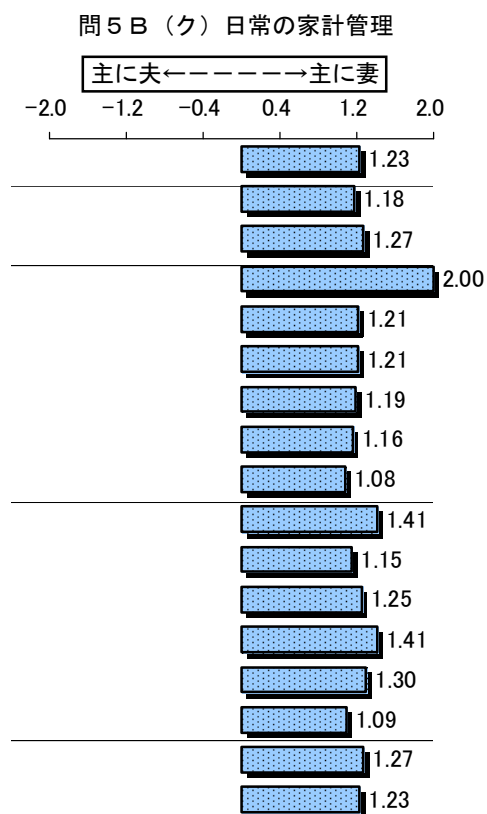
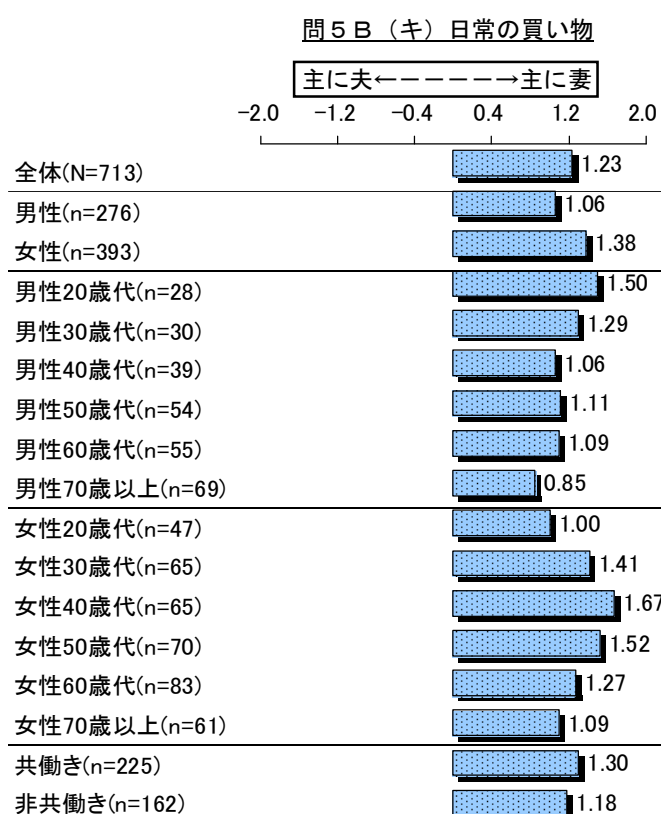
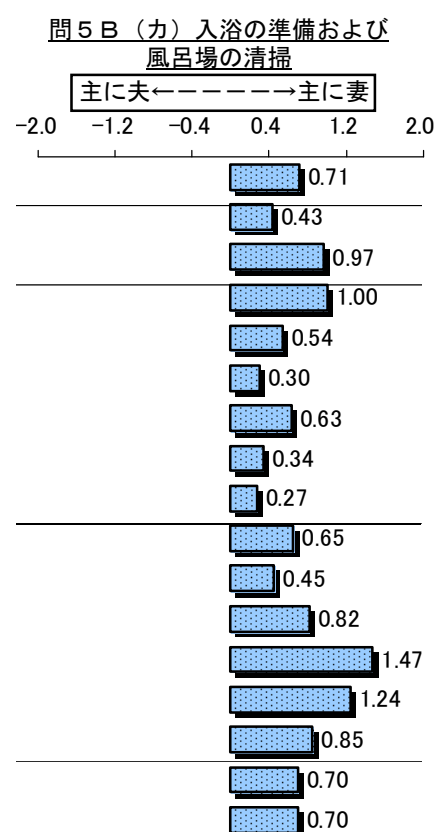
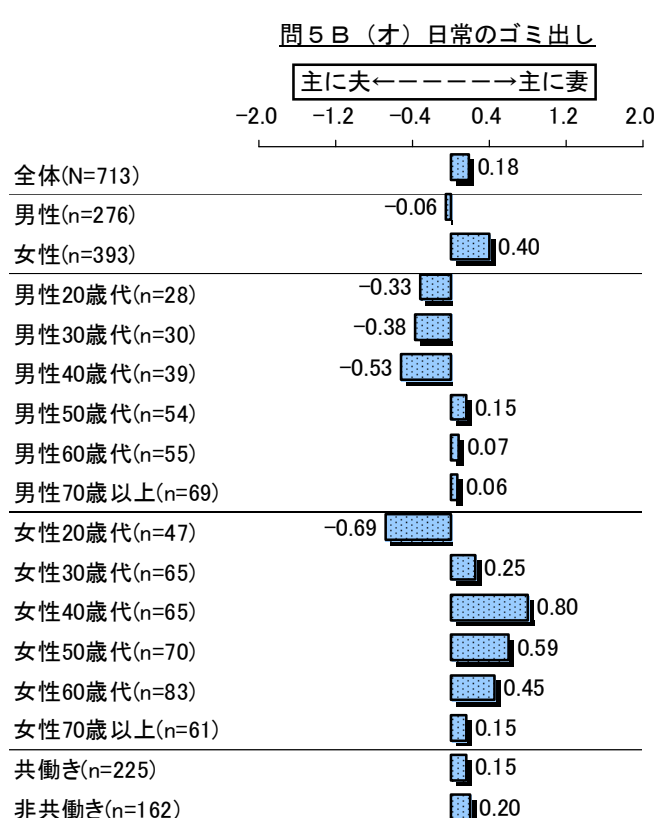
日常的な家庭での仕事分担に関する実際の役割分担については、「主に妻」の割合が多い項目は、「(イ) 食事の支度」(67.3%)、「(ア) 洗濯」(64.9%)、「(ク) 日常の家計管理」(60.7%)、「(イ) 食事の後かたづけ」(56.2%)、「(エ) 家の掃除」(53.4%)、「(キ) 日常の買物」(50.6%)であり、「主に夫」の割合が多い項目は、「(ソ) 生活費を稼ぐ」(36.9%)、「(セ) 家族の重要事項に関する決定権」(32.9%)、「(オ) 日常のゴミ出し」(28.6%)である。他方、「夫婦同等程度」の割合は、「(サ) 子どものしつけ・教育」(38.1%)が最も多く、「主に夫」でも多かった「(セ) 家族の重要事項に関する決定権」(36.1%)や「(ソ) 生活費を稼ぐ」(33.7%)も「夫婦同等程度」である割合が比較的多い。

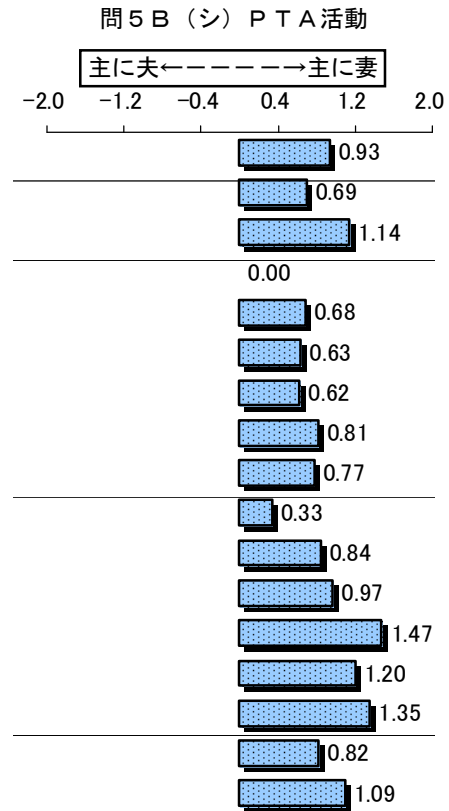
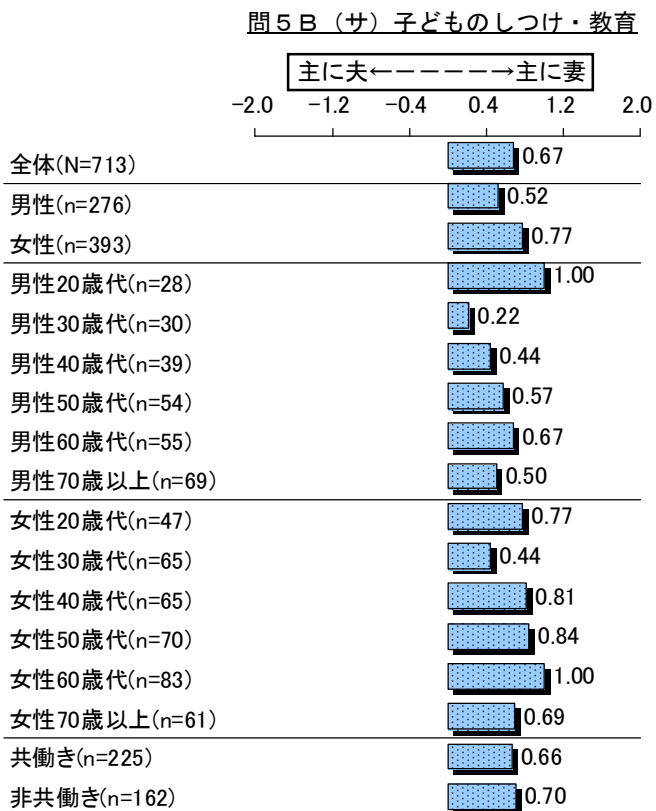
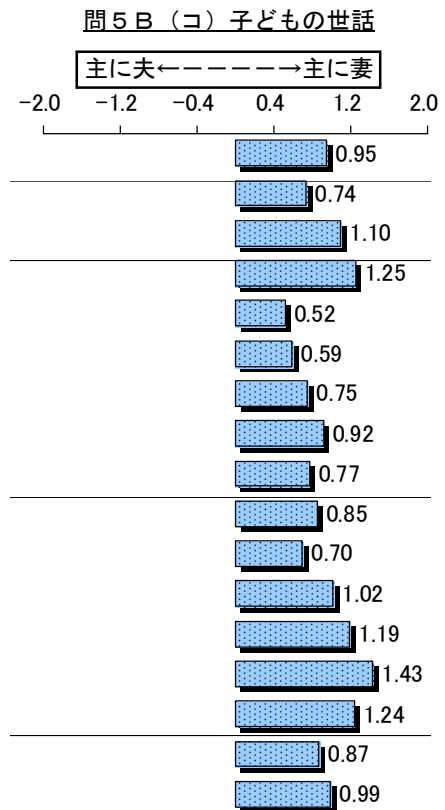
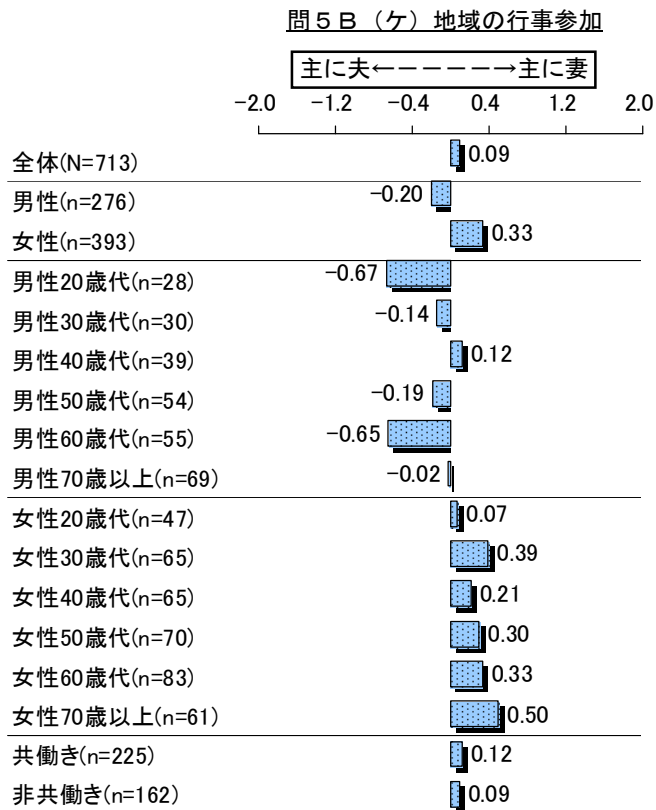
各項目を属性別にみると、「(ア) 洗濯」、「(イ) 食事の支度」、あるいは「(コ) 子どもの世話」、「(サ) 子どものしつけ・教育」、「(シ) PTA活動」、「(ス) お年寄り・病人の世話・介護」は、男女とも年齢が上がるにつれて「主に妻」が実際に担っている役割であると回答する傾向が強い。

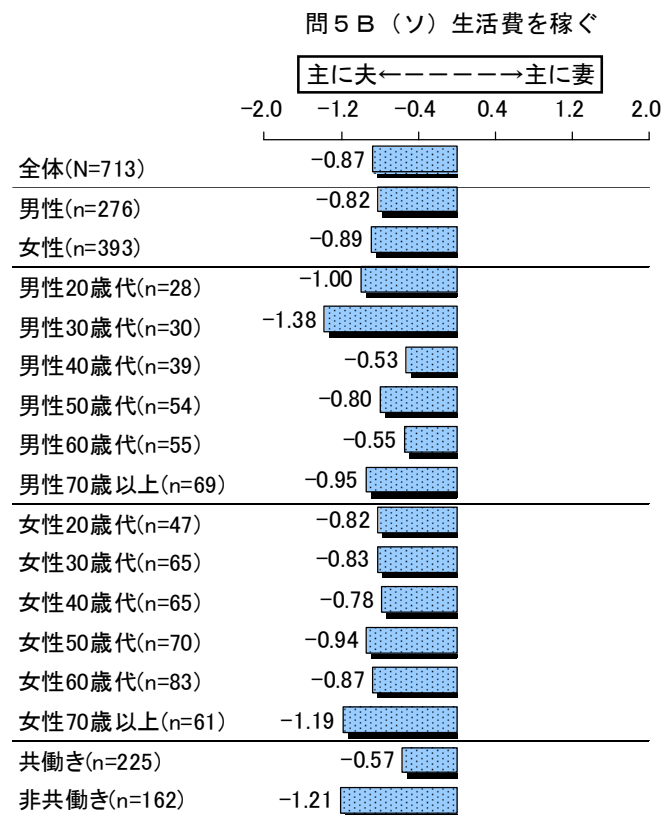
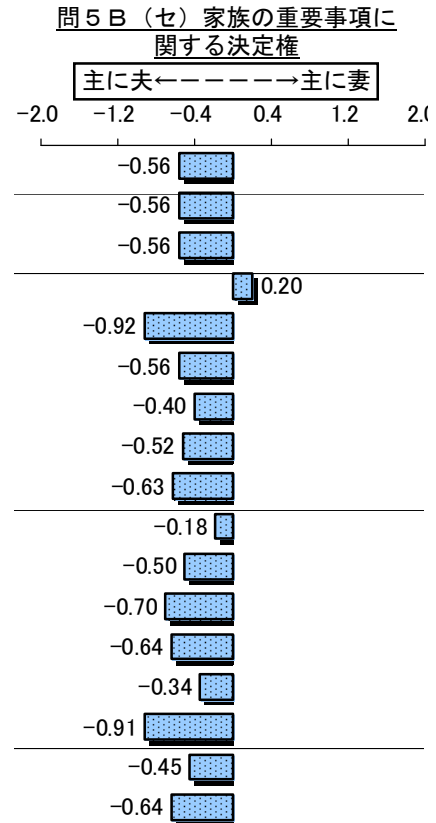
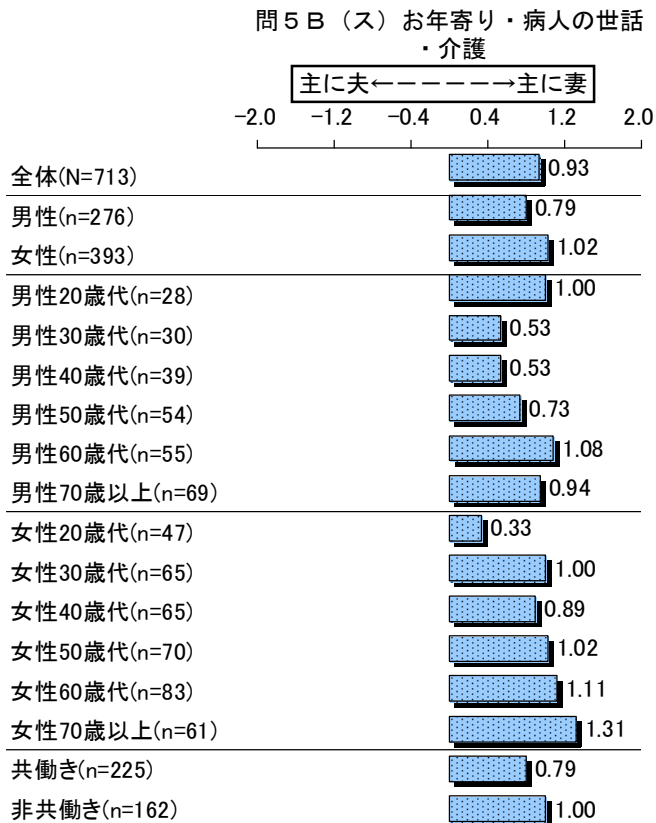


注: 数値は「加重平均値」です(15 ページ※参照)。







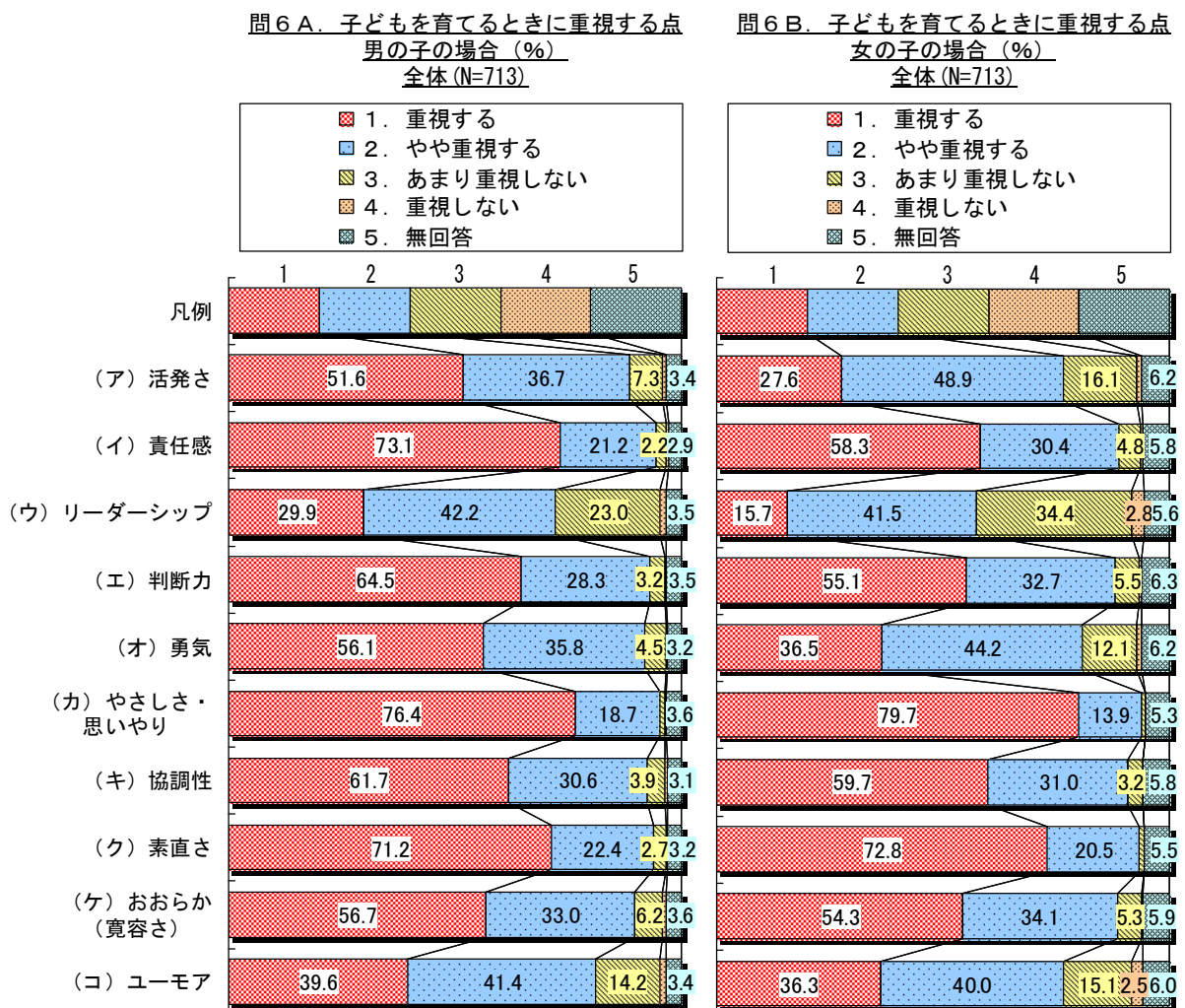


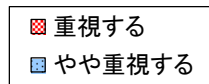
5. 子どもを育てるときに重視する点

問6 子どもを育てるとき、あなたはなにを重視しますか。子どものいない方は「いる」と仮定してお答えください。(〇はA・B表で項目ごとに1つ)

子どもを育てるときに重視する点について、男の子の場合では「(カ) やさしさ・思いやり」(76.4%)、「(イ) 責任感」(73.1%)、「(ク) 素直さ」(71.2%)、女の子の場合では、「(カ) やさしさ・思いやり」(79.7%)、「(ク) 素直さ」(72.8%)、「(キ) 協調性」(59.7%)の順に多く、「(カ) やさしさ・思いやり」、「(ク) 素直さ」は、男の子・女の子共通して重視されている。一方、「(ア) 活発さ」、「(オ) 勇気」、「(イ) 責任感」については、とくに男の子の場合で「重視する」割合が多い項目となっている。

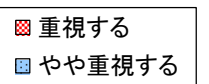
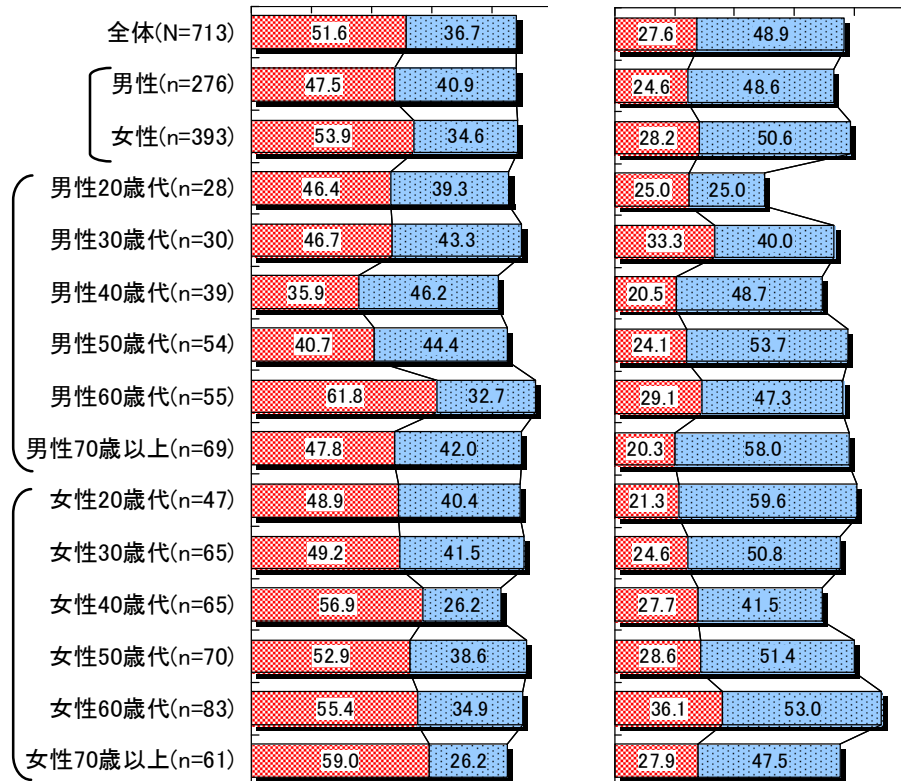
各項目を属性別にみると、「(カ) やさしさ・思いやり」は、女の子の場合でどの属性別でも「重視する」割合が多い一方、男の子の場合では男女とも年齢が上がるにつれて「重視する」割合が少なくなる傾向がみられる。





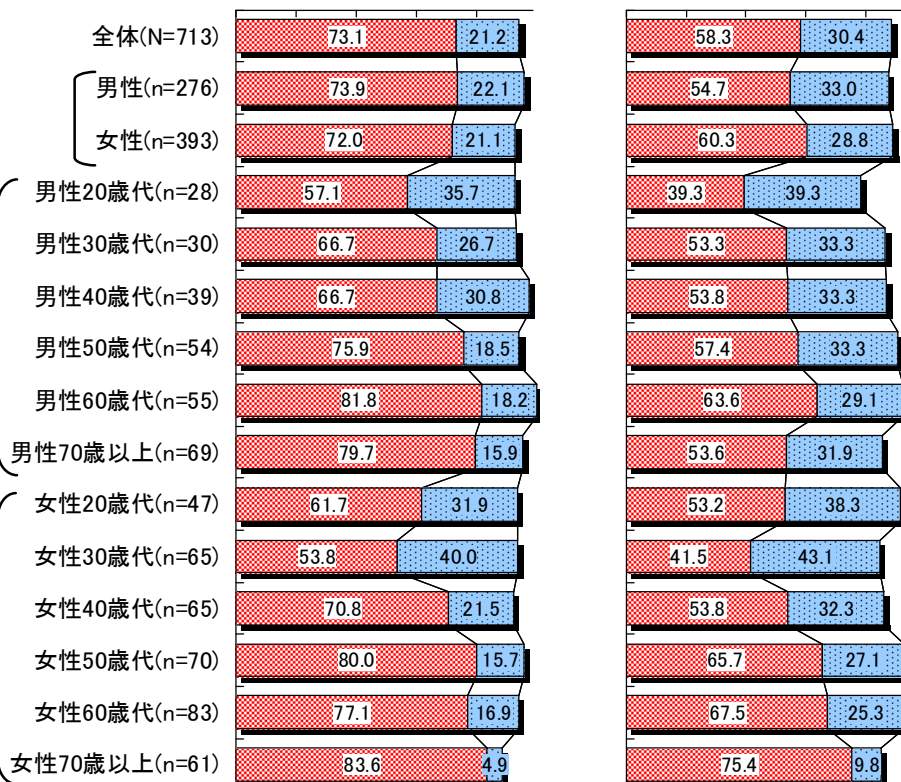
問6A男の子
(ア)活発さ

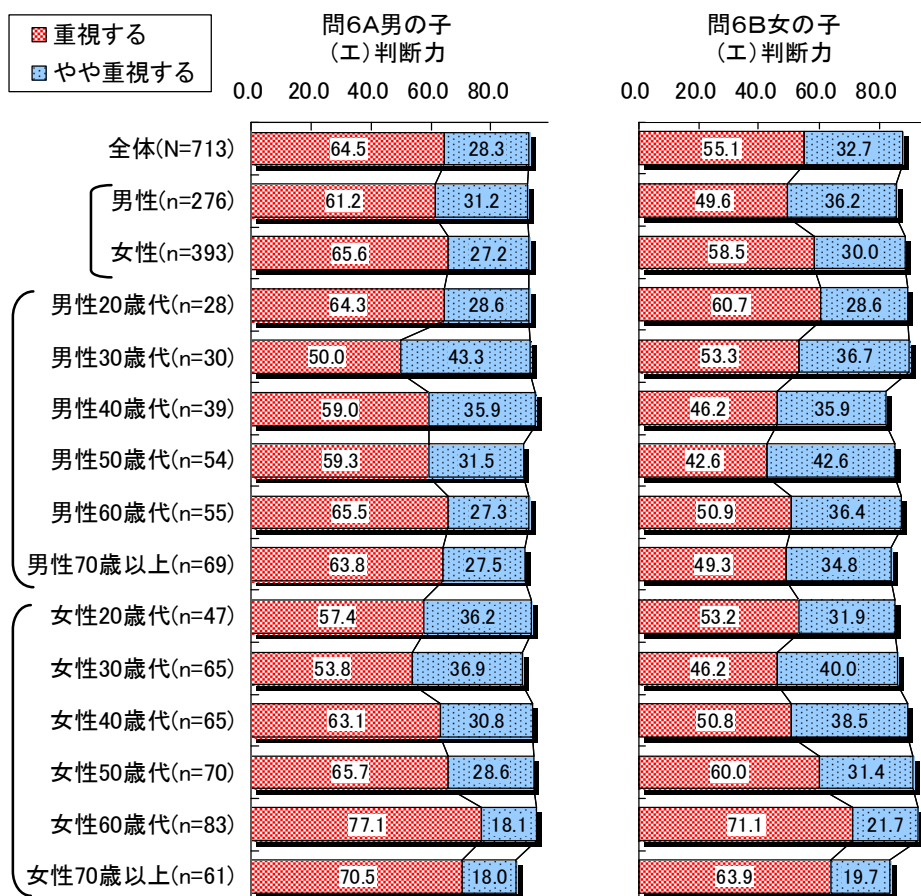
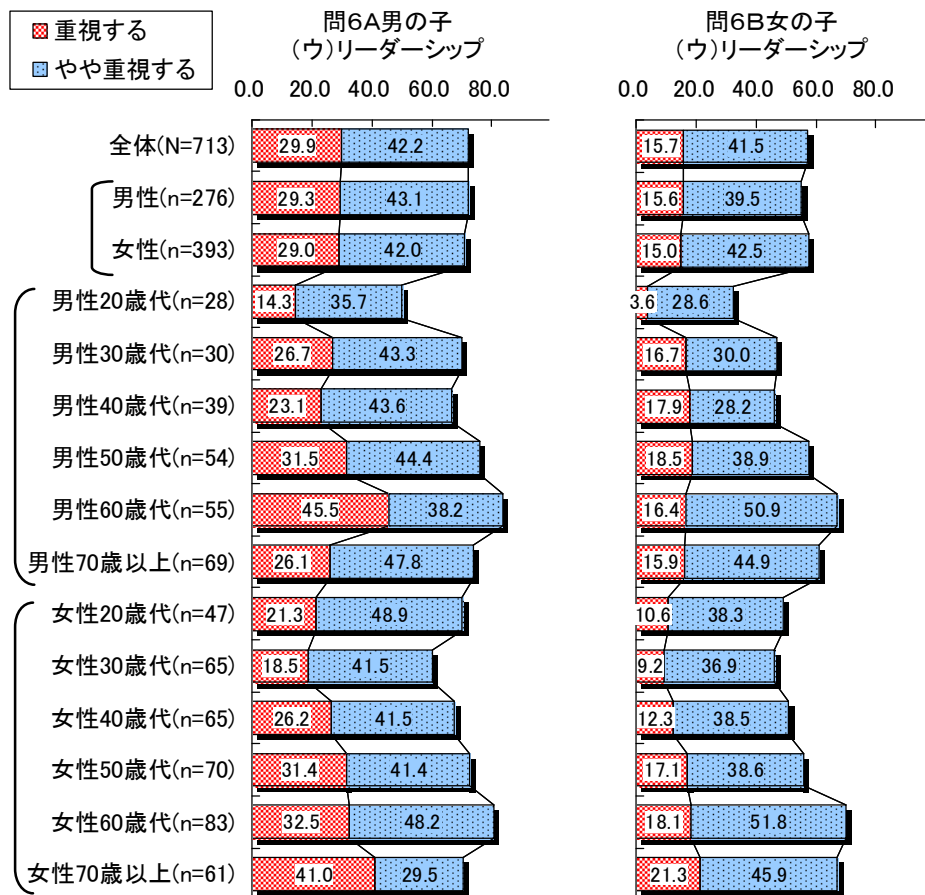
問6B女の子
(ア)活発さ

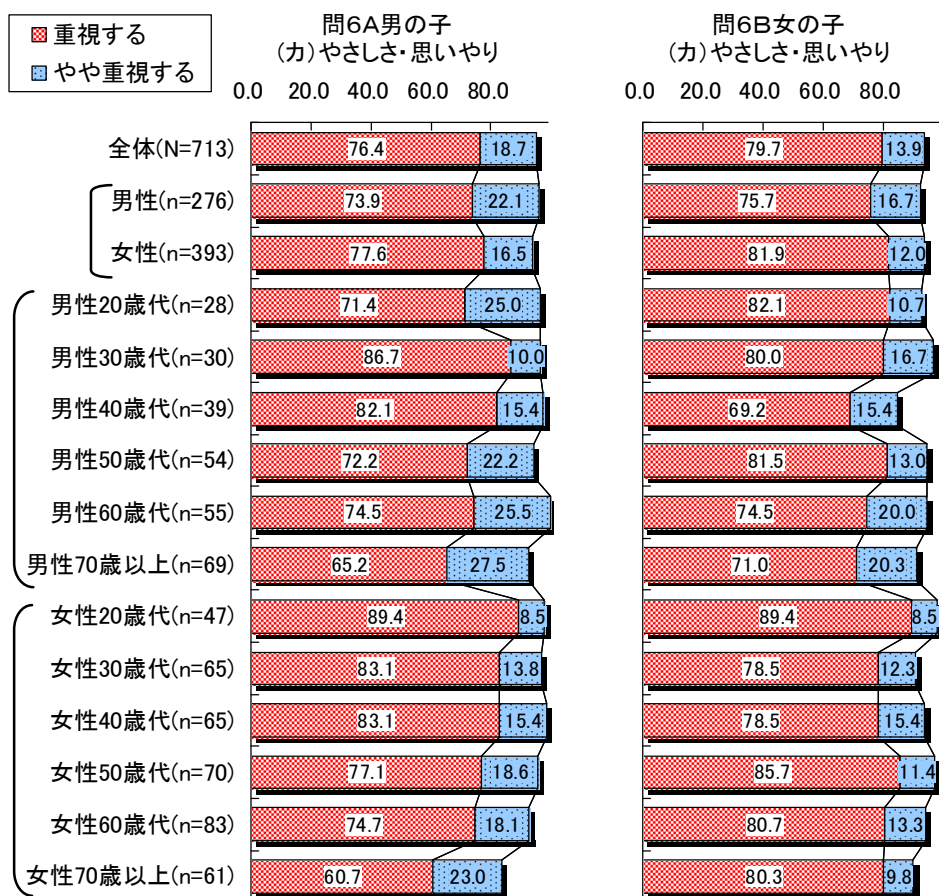
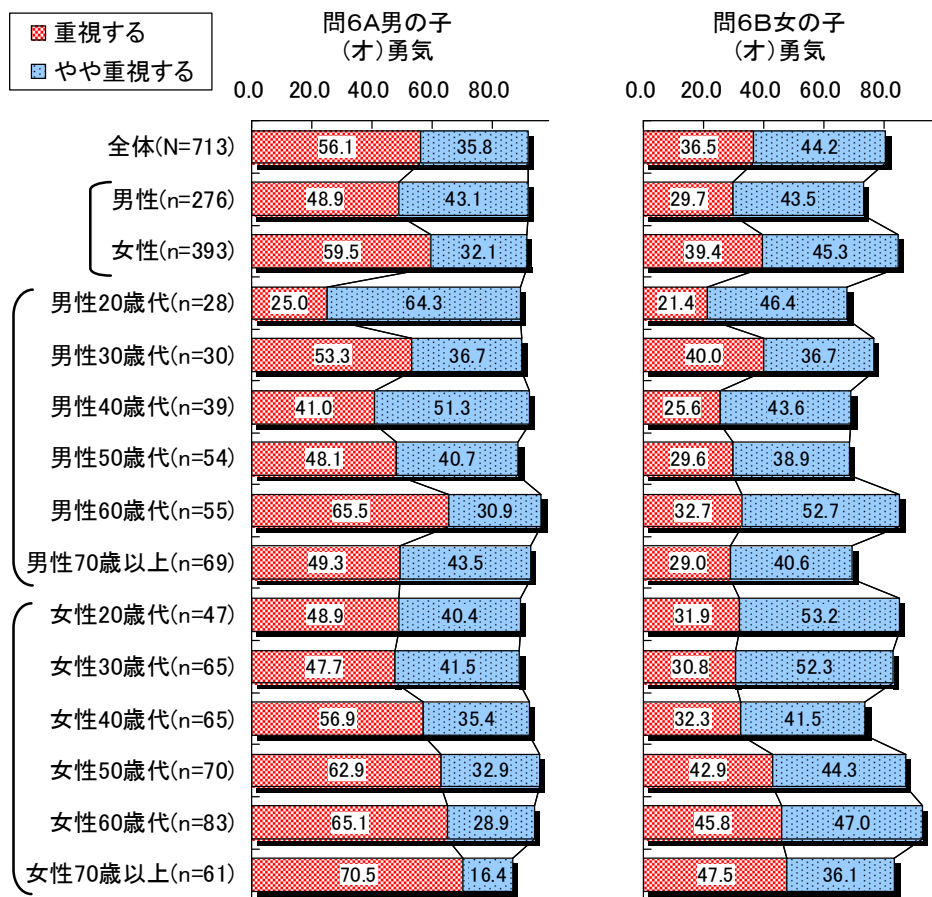


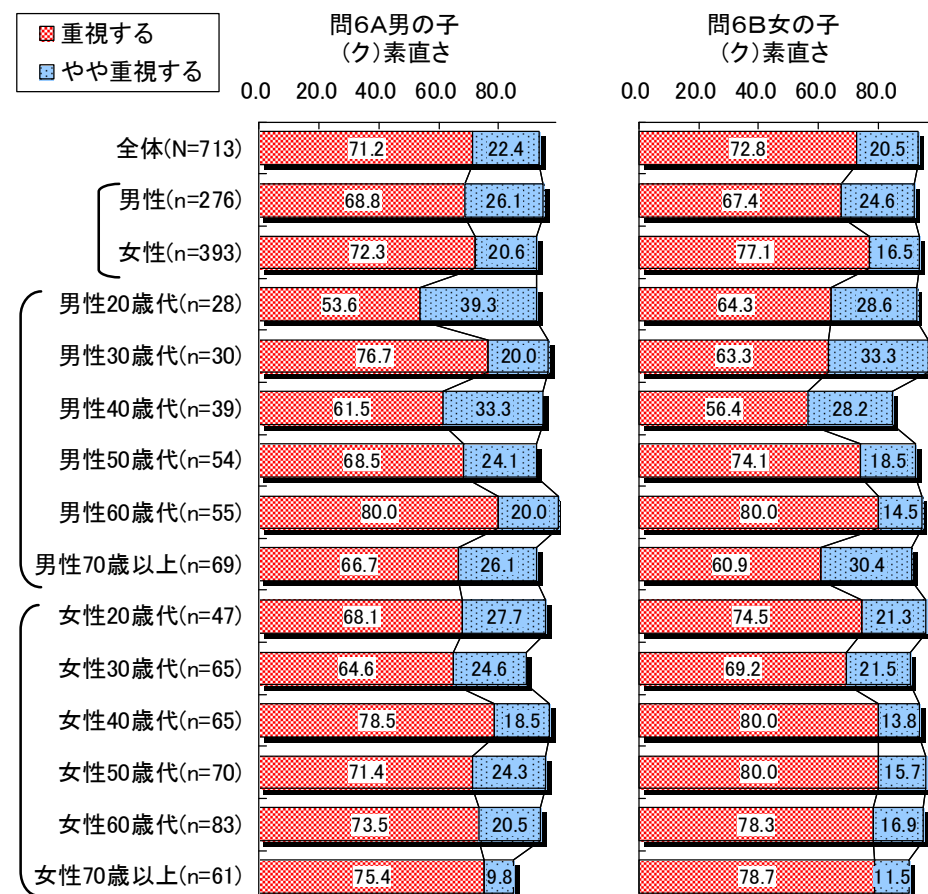
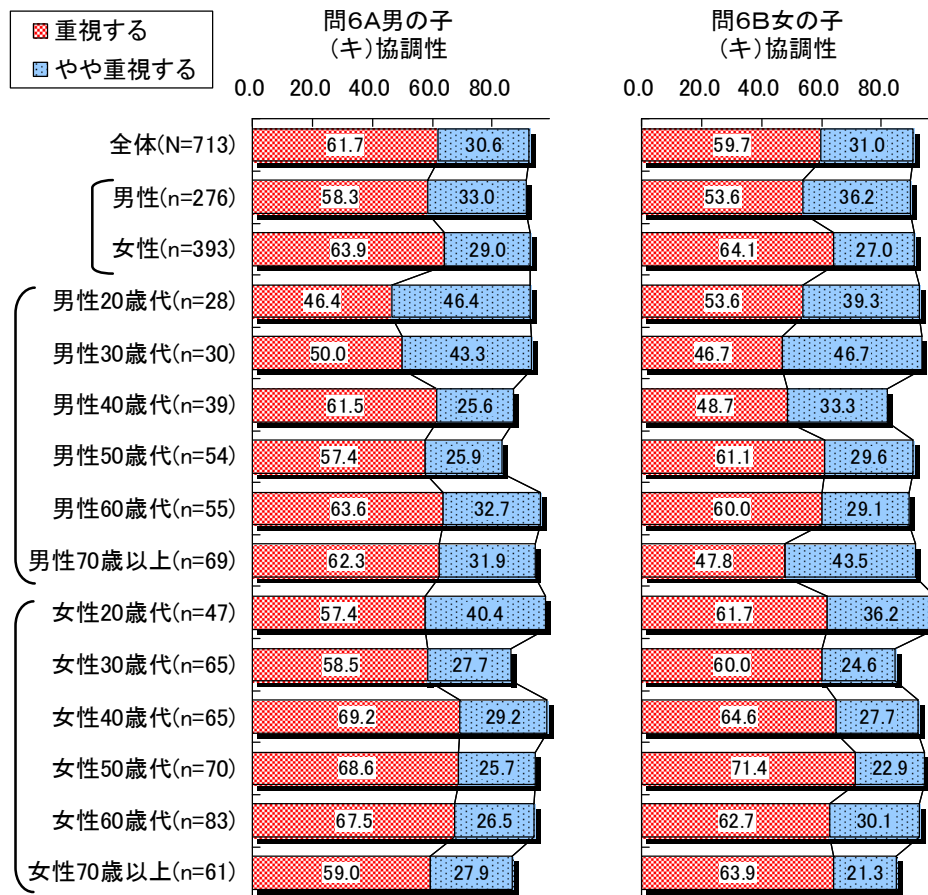
問6A男の子
(イ)責任感

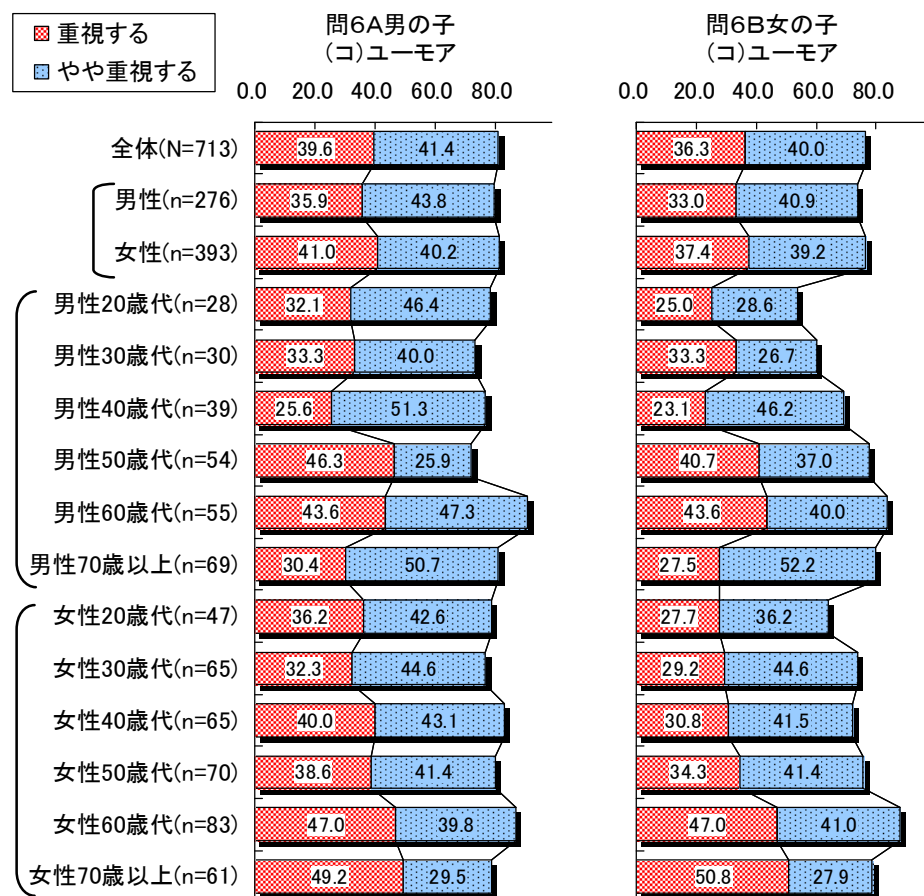
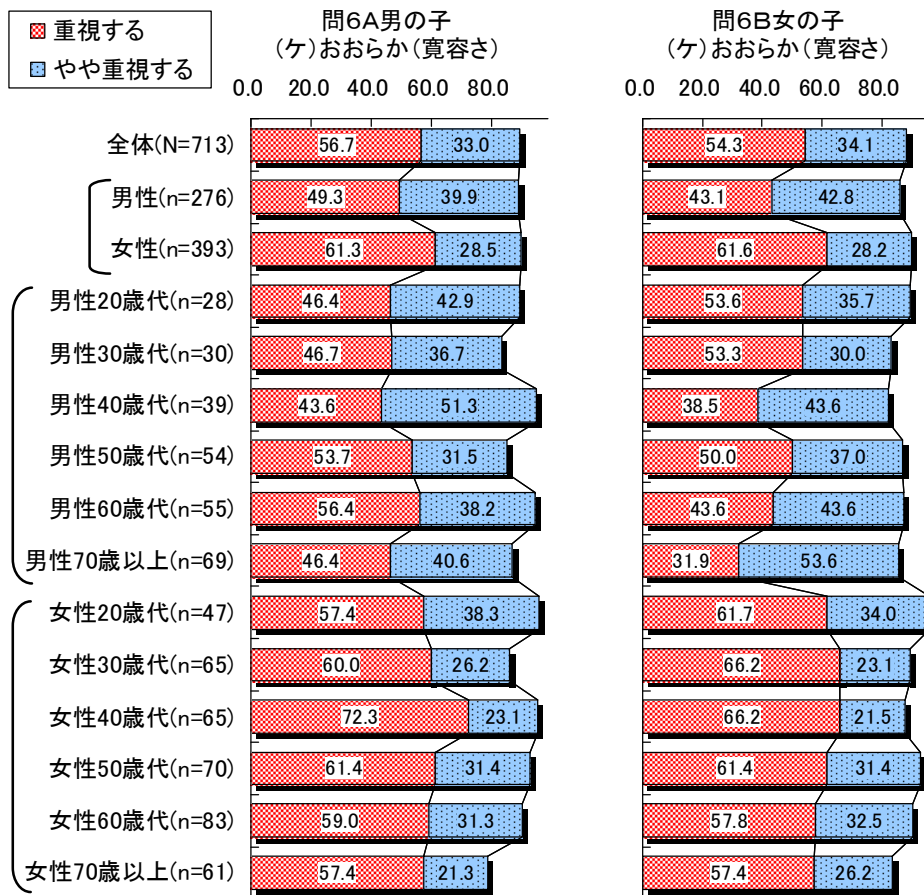
問6B女の子
(イ)責任感









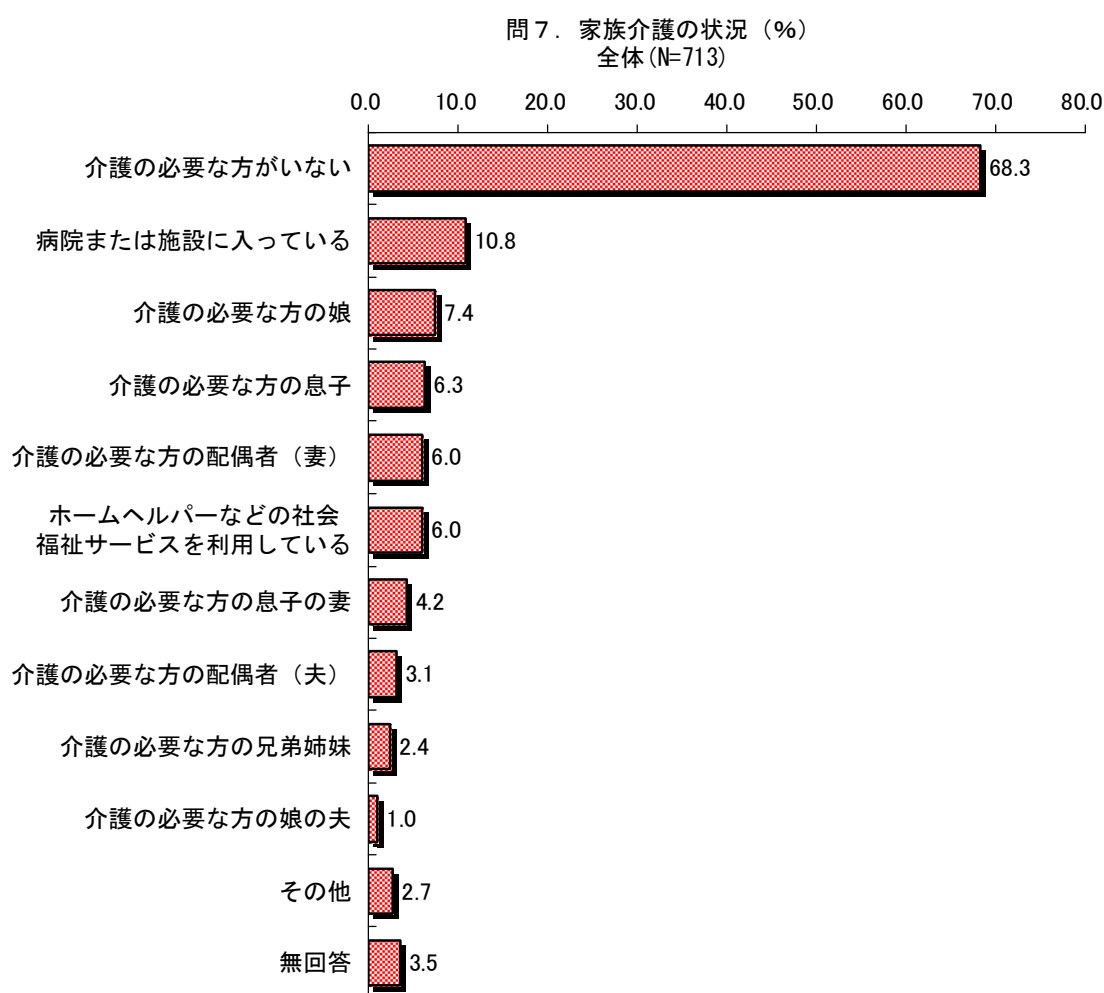


6. 家族介護の状況

問7 あなたの家庭では、日常生活において支援や介助を必要とする方を、誰が（どこで）介護していますか。（〇はいくつでも）

家族介護の状況について、「介護の必要な方がいない」が68.3%で最も多くなっており、家族介護が必要な場合では「病院または施設に入っている」が10.8%となっている。

性×年齢別では、女性50歳代で「病院または施設に入っている」（22.9%）、「介護の必要な方の娘」（14.3%）、男性50歳代で「ホームヘルパーなどの社会福祉サービスを利用している」、女性70歳以上で「介護の必要な方の配偶者」（14.8%）の割合が他の属性に比べて多くなっている。



問 7. 家族介護の状況／性別・性×年齢別（％）

	介護 の 必要 な 方 が い ない	入 院 ま た は 施 設 に 入 っ て い る	介 護 の 必 要 な 方 の 娘	子 介 護 の 必 要 な 方 の 息	偶 護 の 必 要 な 方 の 配 偶 者 （ 妻	ホ ー ム ヘル パー な ど の 社 会 福 祉 サ ー ビ ス を 利 用 し て い る	子 介 護 の 必 要 な 方 の 息	偶 護 の 必 要 な 方 の 配 偶 者 （ 夫	弟 姉 妹 の 介 護 の 必 要 な 方 の 兄	の 夫 の 介 護 の 必 要 な 方 の 娘	そ の 他
全体 (N=713)	68.3	10.8	7.4	6.3	6.0	6.0	4.2	3.1	2.4	1.0	2.7
男性 (n=276)	70.7	10.1	5.4	7.6	9.1	8.7	3.6	3.6	2.2	0.7	1.4
女性 (n=393)	66.2	12.2	9.4	5.9	4.1	4.1	4.8	2.3	2.5	1.0	3.8
男性20歳代 (n=28)	75.0	7.1	3.6	3.6	7.1	14.3	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0
男性30歳代 (n=30)	86.7	0.0	3.3	10.0	0.0	3.3	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0
男性40歳代 (n=39)	74.4	12.8	5.1	5.1	7.7	7.7	2.6	2.6	2.6	0.0	0.0
男性50歳代 (n=54)	64.8	9.3	3.7	9.3	13.0	20.4	7.4	1.9	1.9	1.9	1.9
男性60歳代 (n=55)	70.9	14.5	9.1	5.5	7.3	5.5	1.8	1.8	3.6	0.0	1.8
男性70歳以上 (n=69)	63.8	11.6	5.8	10.1	13.0	2.9	4.3	7.2	2.9	1.4	2.9
女性20歳代 (n=47)	76.6	4.3	12.8	8.5	0.0	6.4	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3
女性30歳代 (n=65)	75.4	9.2	6.2	1.5	1.5	4.6	4.6	0.0	0.0	0.0	4.6
女性40歳代 (n=65)	76.9	10.8	3.1	3.1	1.5	3.1	4.6	3.1	3.1	0.0	6.2
女性50歳代 (n=70)	54.3	22.9	14.3	11.4	2.9	4.3	11.4	2.9	2.9	2.9	4.3
女性60歳代 (n=83)	63.9	14.5	10.8	4.8	3.6	2.4	2.4	0.0	4.8	0.0	2.4
女性70歳以上 (n=61)	54.1	8.2	8.2	6.6	14.8	3.3	4.9	8.2	3.3	1.6	1.6

注：表中の「網掛け」は、各クロス集計（性別、年齢別など）において最も高い割合を示しています。

（例／性別の場合、男性と女性を比べて高い方に網掛け。）

但し、回答割合が10%未満の項目、及びn数が10未満の項目については網掛けは除外しています。

また「無回答」は表記から除外しています。

本報告書においては、以下同様とします。

7. ドメスティック・バイオレンス（DV）について

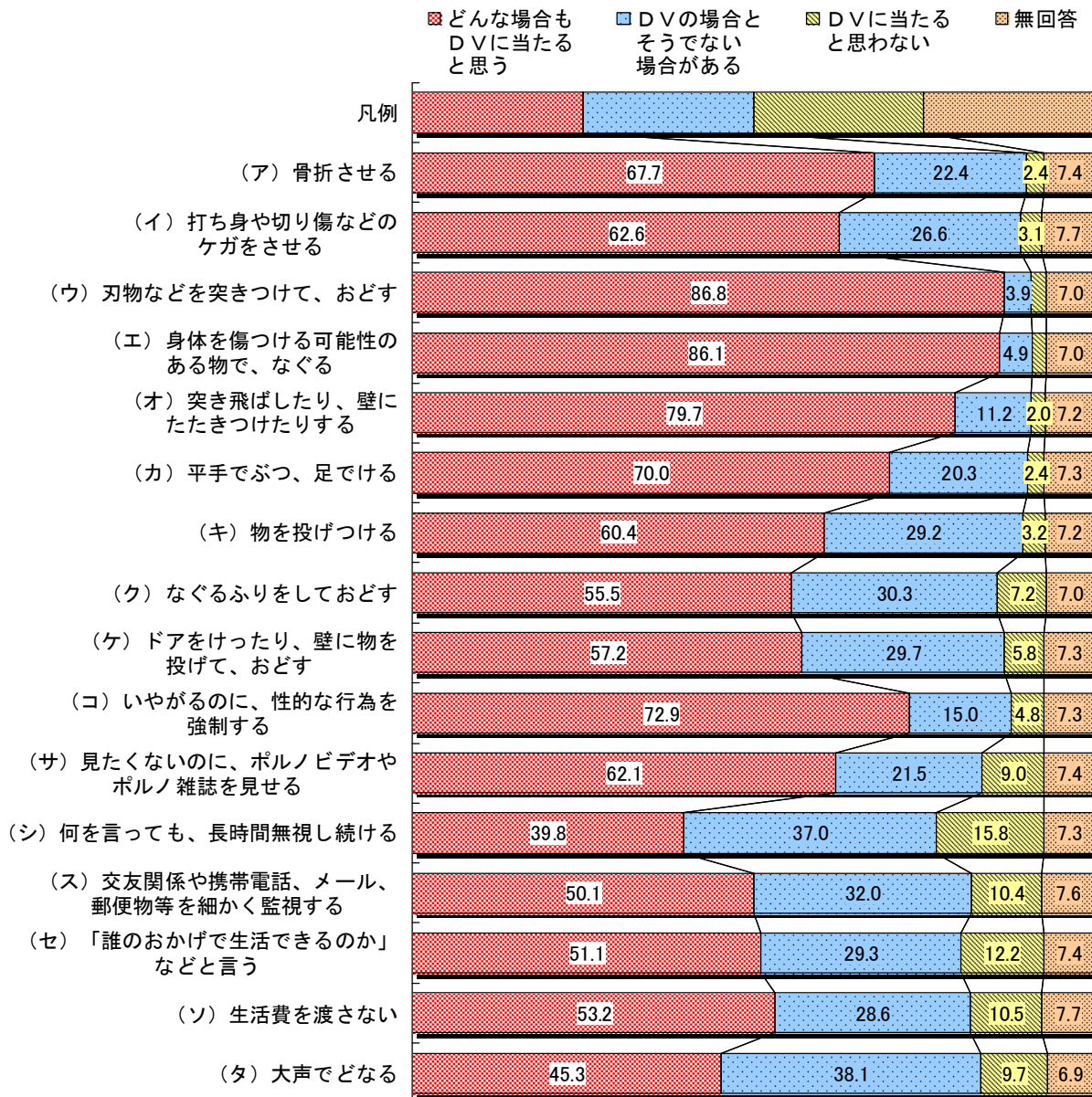
問8 あなたは、配偶者や恋人があなたに対して、次のようなことをした場合、それをDV（ドメスティック・バイオレンス：配偶者や恋人など、親密な関係にあるパートナーから受ける暴力・虐待のこと）だと思いますか。また、次のようなことをしたこと、またはされたことはありますか。（○はA・B・C表で項目ごとに1つ）

（A）DVに当たる行為について

DVに当たる行為について、「どんな場合もDVに当たると思う」割合が多い項目は、「（ウ）刃物などを突きつけて、おどす」（86.8%）、「（エ）身体を傷つける可能性のあるもので、なぐる」（86.1%）、「（オ）突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする」（79.7%）、「（コ）いやがるのに、性的な行為を強制する」（72.9%）、「（カ）平手でぶつ、足でける」（70.0%）である。

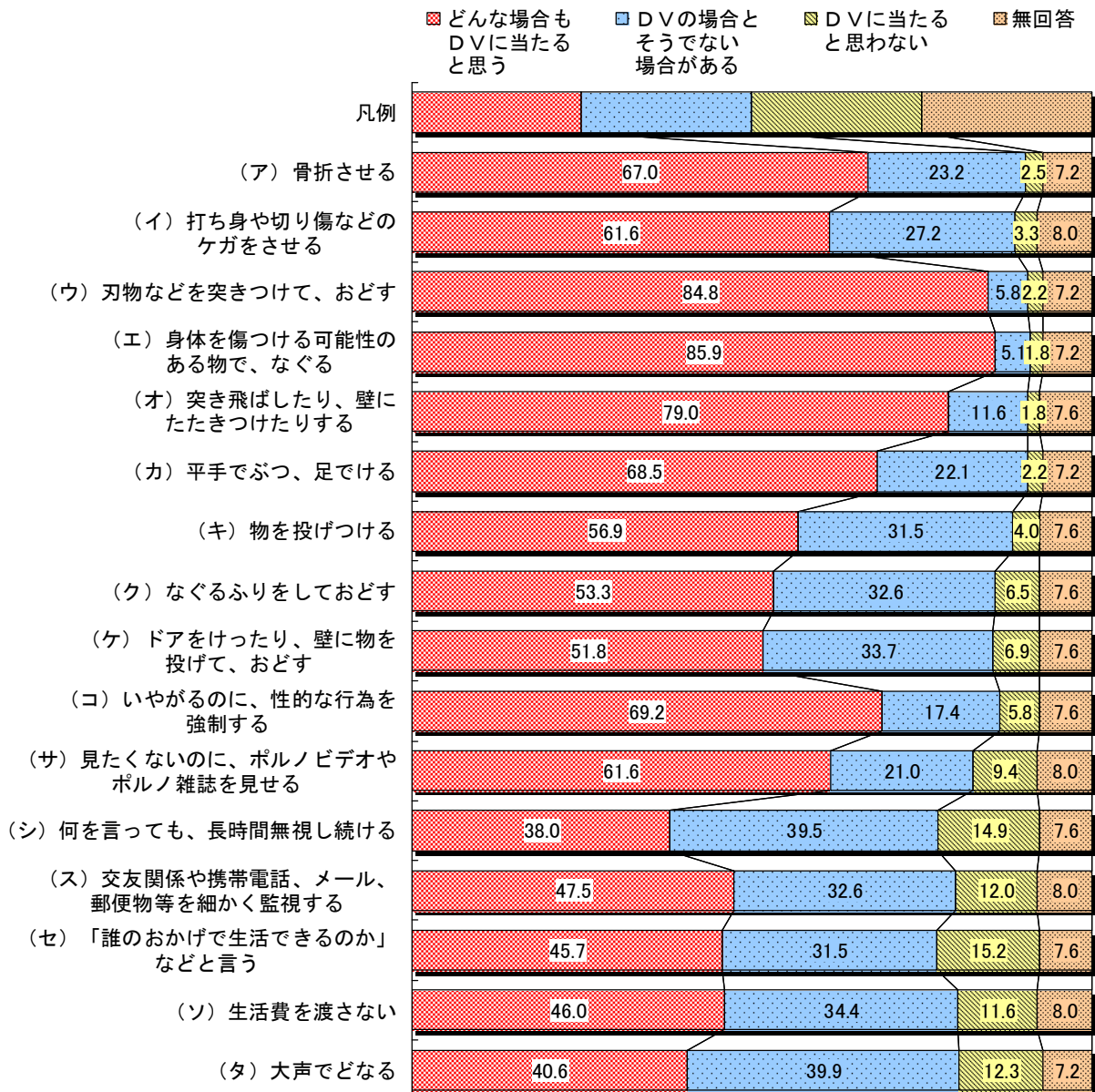
各項目を性別にみると、すべての項目で女性の「どんな場合もDVに当たる」と回答した割合は男性の割合を上回っており、とくに「（ソ）生活費を渡さない」、「（ケ）ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす」、「（セ）「誰のおかげで生活できるのかな」と言う」、「（タ）大声でどなる」、「（コ）いやがるのに、性的な行為を強制する」は、女性で「どんな場合もDVに当たると思う」と回答した割合が多くなっている。

問8 A. DVに当たる行為について (%)
全体(N=713)



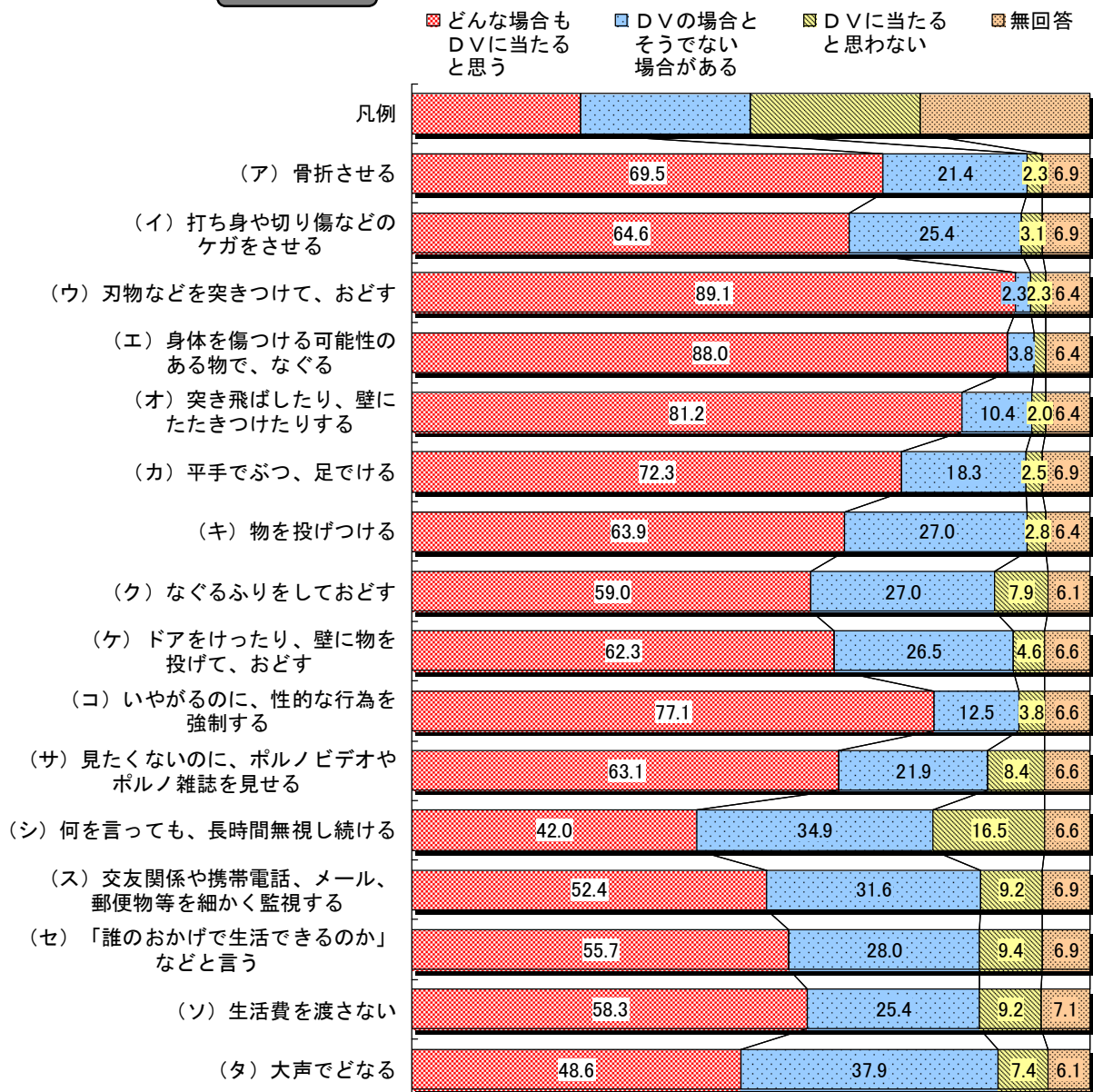
男 性

問 8 A. DVに当たる行為について (%)
男性 (n=276)



女 性

問 8 A. DVに当たる行為について (%)
女性 (n=393)

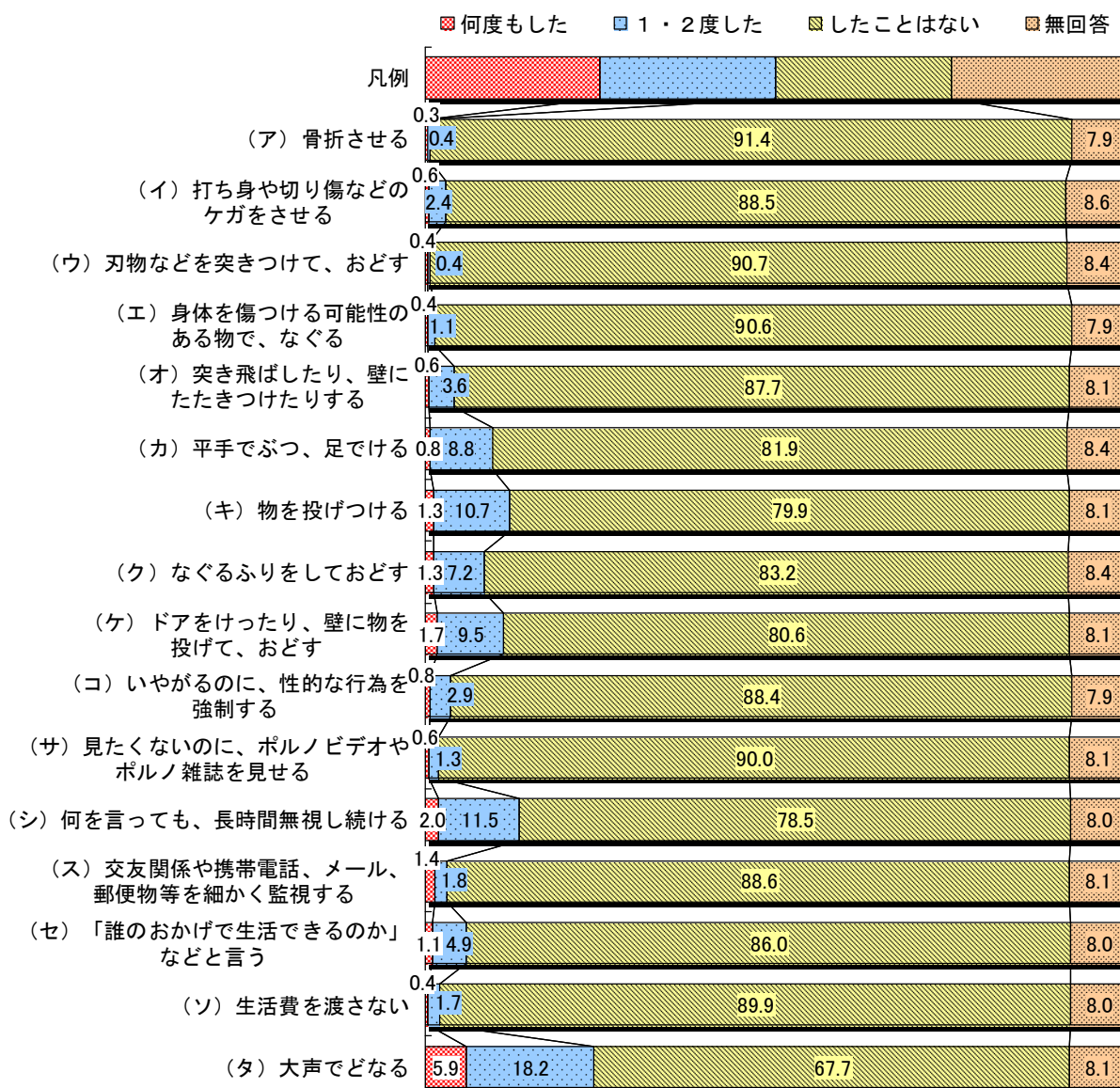


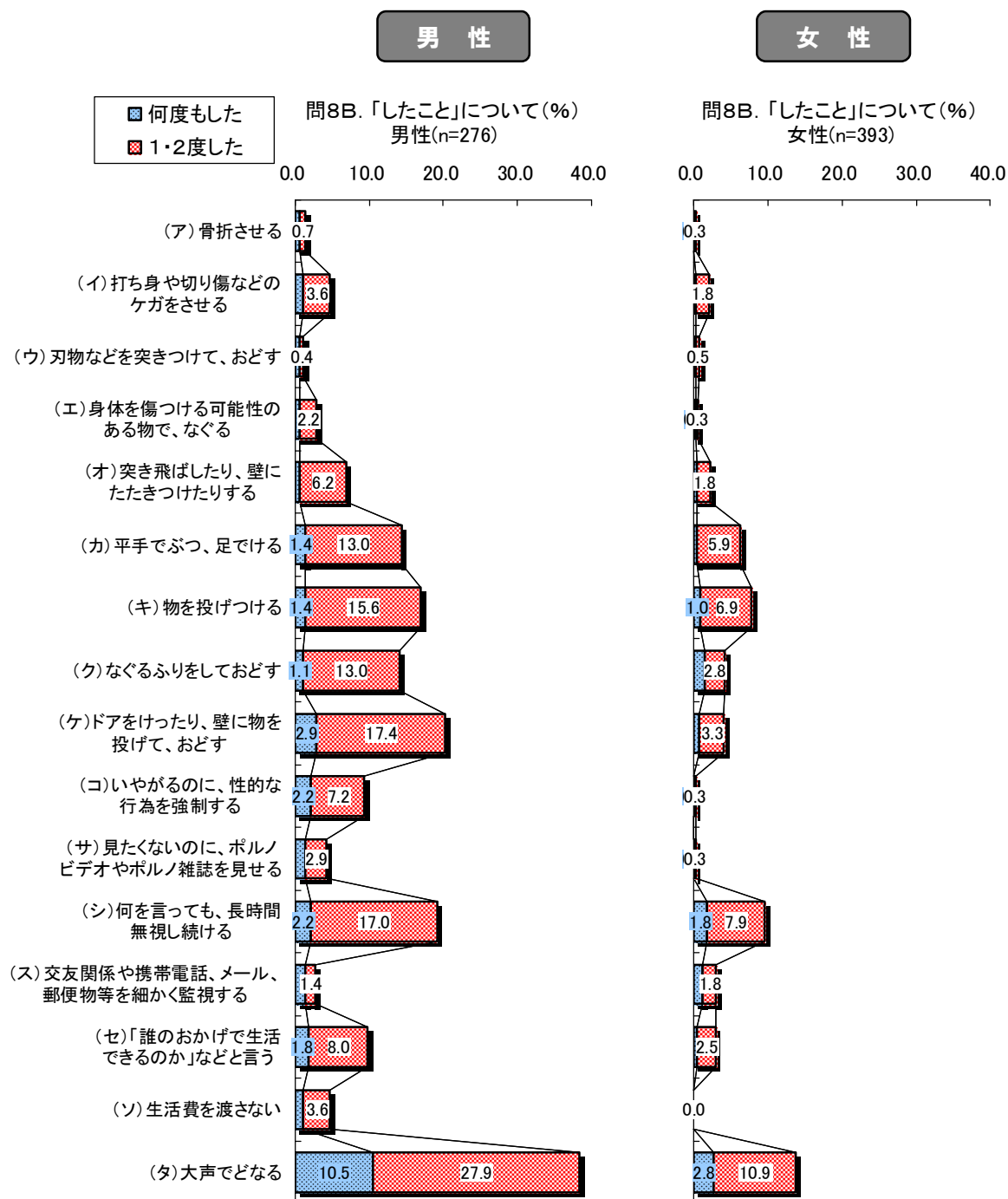
(B) DV をしたことについて

DV をしたことについて、「何度もした」と「1・2度した」を合わせた「DV 経験」の割合が多い項目は、「(タ) 大声でどなる」(24.1%)、「(シ) 何を言っても、長時間無視し続ける」(13.5%)、「(キ) 物を投げつける」(12.0%)、「(ケ) ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす」(11.2%) である。

各項目を性別にみると、ほぼすべての項目で男性の「DV 経験」の割合が女性の割合を上回っており、とくに「(タ) 大声でどなる」(38.4%)、「(ケ) ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす」(20.3%) は、男性の「DV 経験」として割合が多くなっている。

問 8 B. 「したこと」について (%)
全体 (N=713)



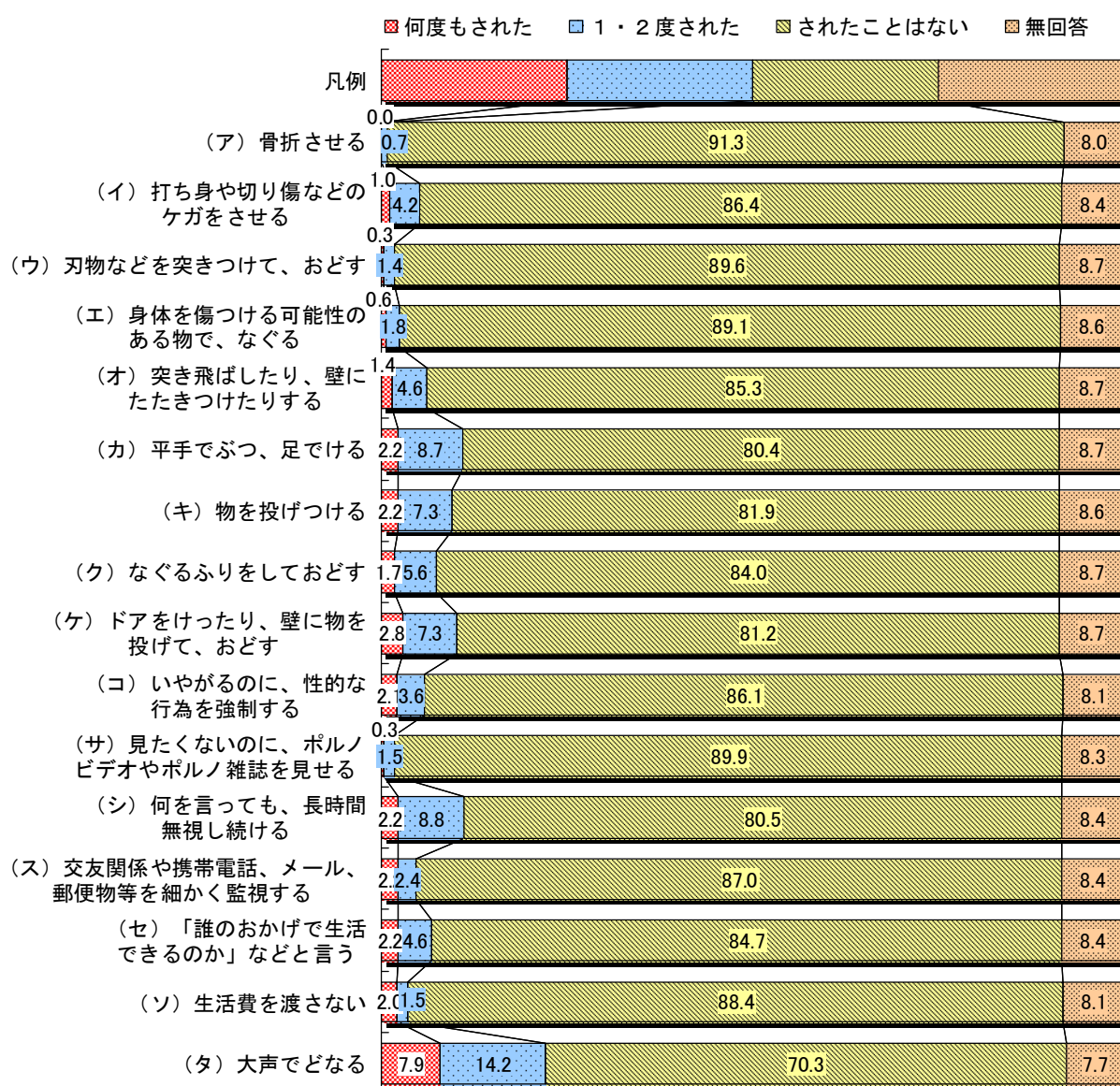


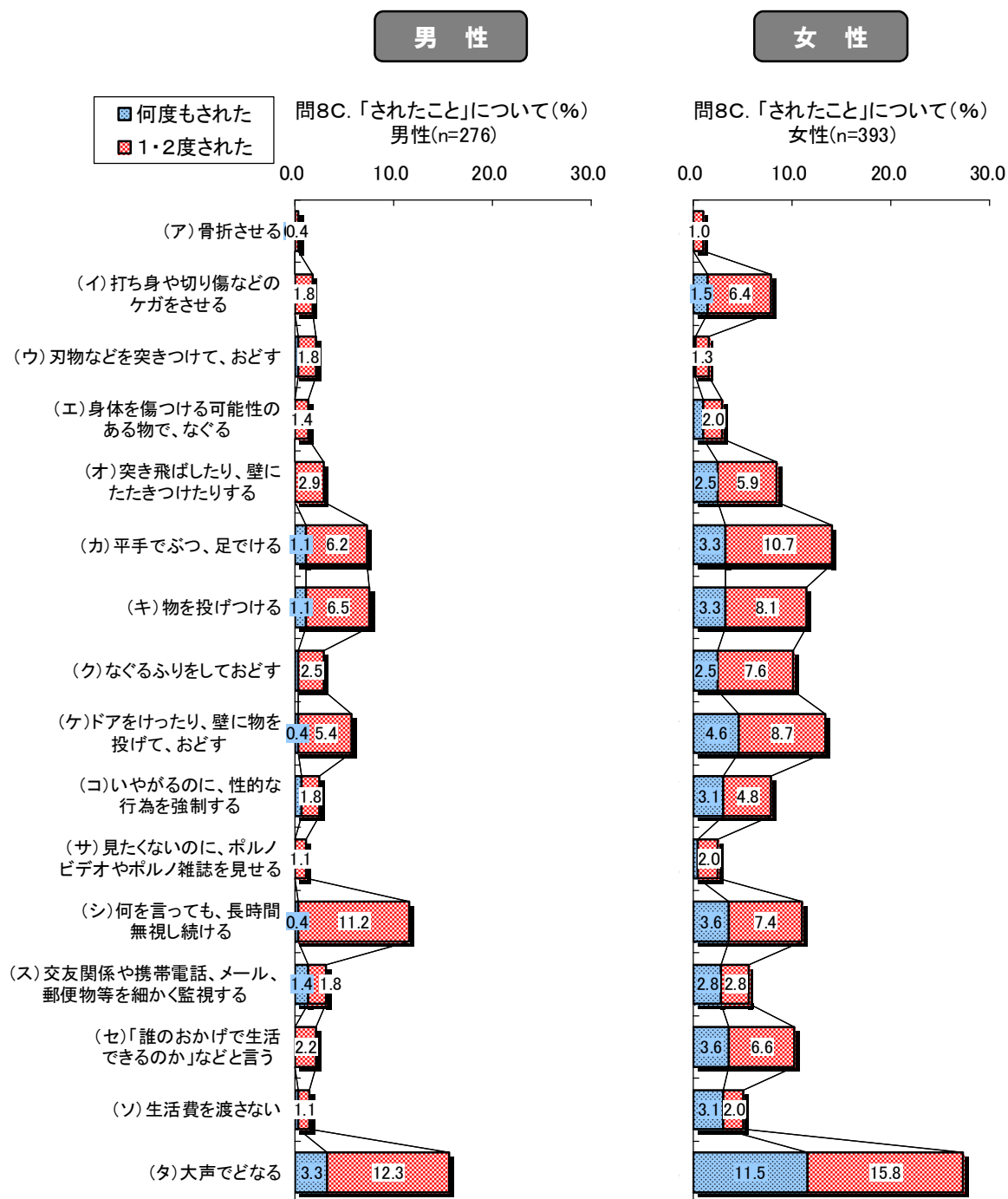
(C) DV をされたことについて

DV をされたことについて、「何度もされた」と「1・2度された」を合わせた「DV 被経験」の割合が多い項目は、「(タ) 大声でどなる」(22.1%)、「(シ) 何を言っても、長時間無視し続ける」(11.0%)、「(キ) 物を投げつける」(12.0%)、「(カ) 平手でぶつ、足でける」(10.9%)、「(ケ) ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす」(10.1%)である。

各項目を性別にみると、ほぼすべての項目で女性の「DV 被経験」の割合が男性の割合を上回っており、とくに「(タ) 大声でどなる」(27.3%)は、女性の「DV 被経験」として割合が多くなっている。

問 8 C. 「されたこと」について (%)
全体 (N=713)



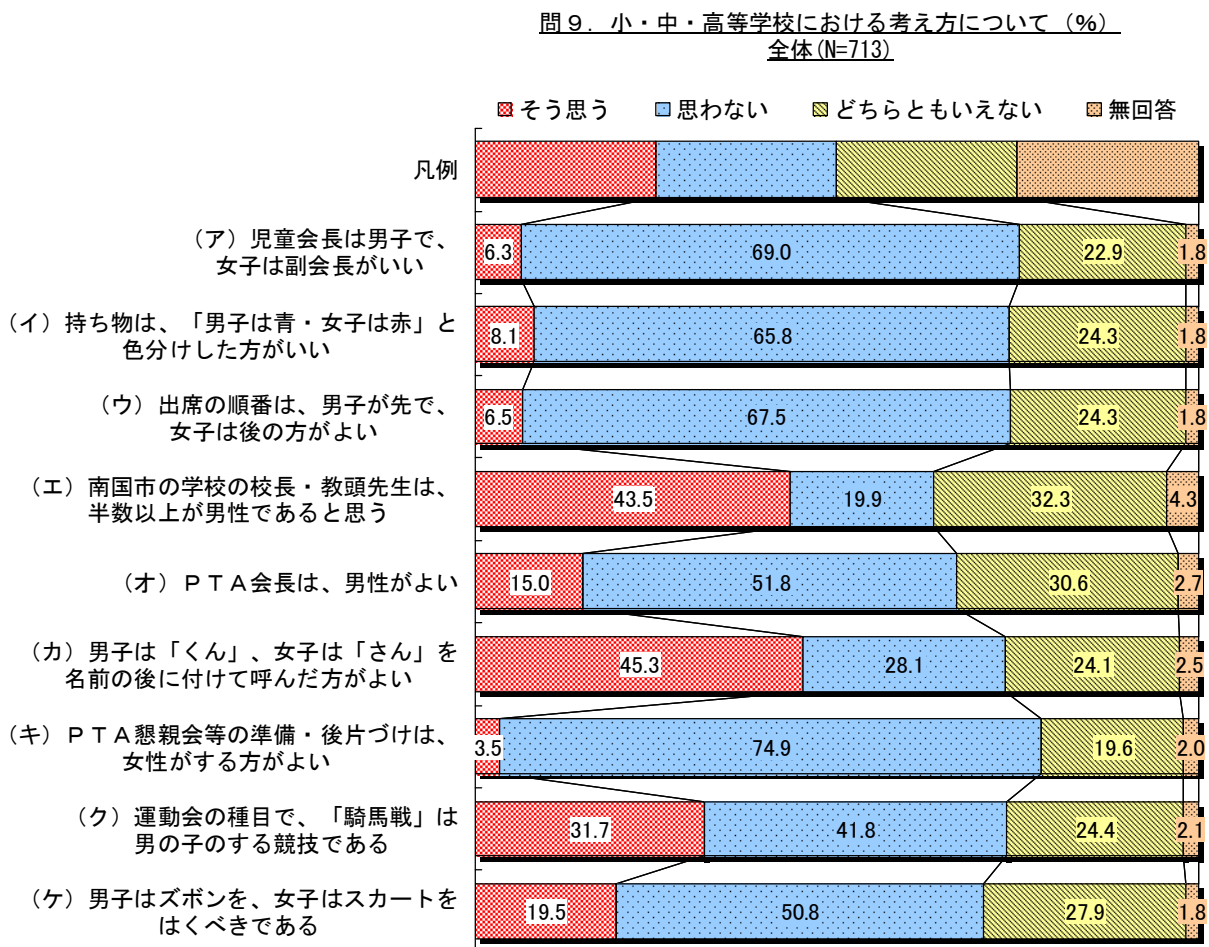


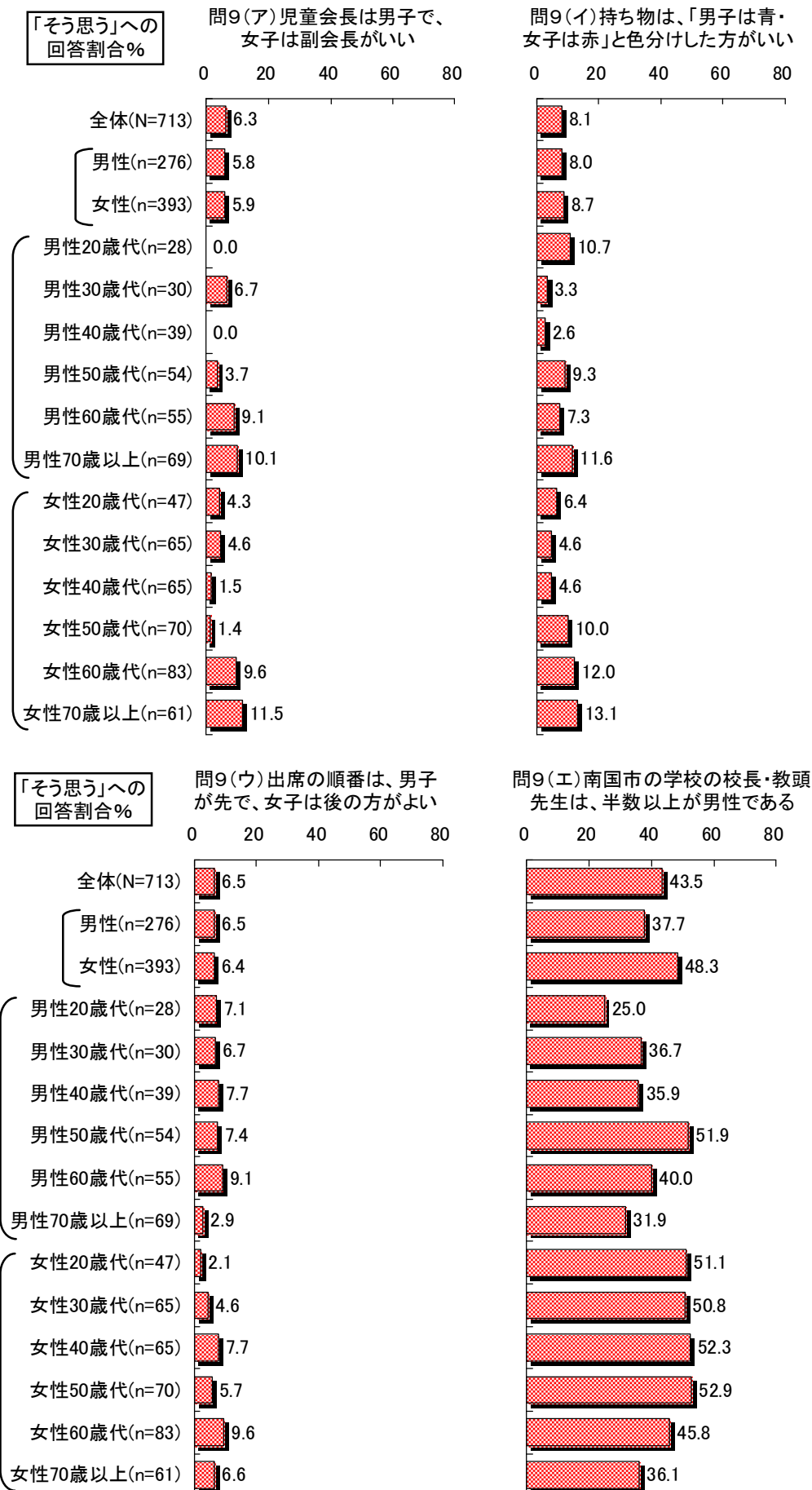
8. 小・中・高等学校における考え方について

問 9 小・中・高等学校における、次のような考え方をどのように思いますか。(○は項目ごとに1つ)

小・中・高等学校における考え方について、「そう思う」割合が多い項目は、「(カ) 男子は「くん」、女子は「さん」を名前の後に付けて呼んだ方がよい」(45.3%)、「(エ) 南国市の学校の校長・教頭先生は、半数以上が男性であると思う」(43.5%)、「(ク) 運動会の種目で、「騎馬戦」は男の子のする競技である」(31.7%)である。一方、「思わない」割合が多い項目は、「(キ) PTA 懇親会等の準備・後片づけは、女性がする方がよい」(74.9%)、「(ア) 児童会長は男子で、女子は副会長がいい」(69.0%)、「(ウ) 出席の順番は、男子が先で、女子は後の方がよい」(67.5%)、「(イ) 持ち物は、「男子は青・女子は赤」を色分けしたほうがよい」(65.8%)である。

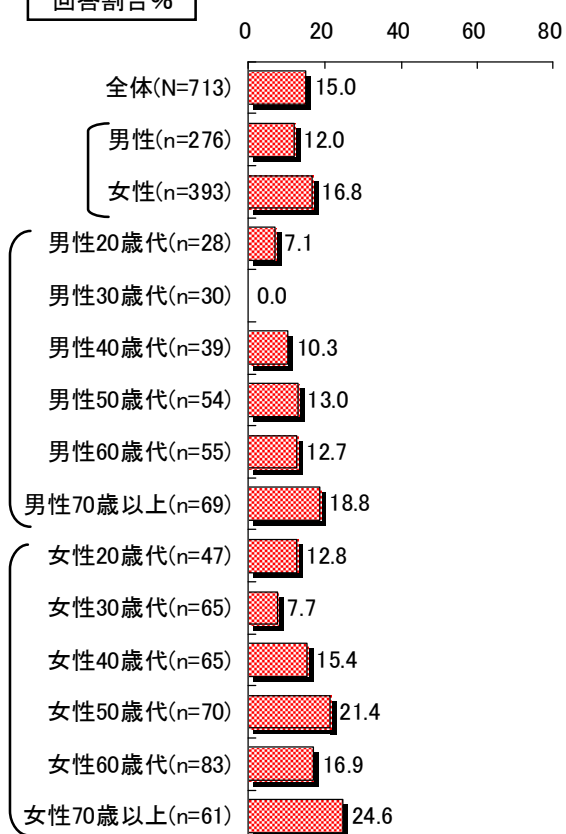
各項目を性別にみると、男女とも年齢が上がるにつれて、「(カ) 男子は「くん」、女子は「さん」を名前の後に付けて呼んだ方がよい」を回答する割合がおおむね高くなる傾向がみられる。



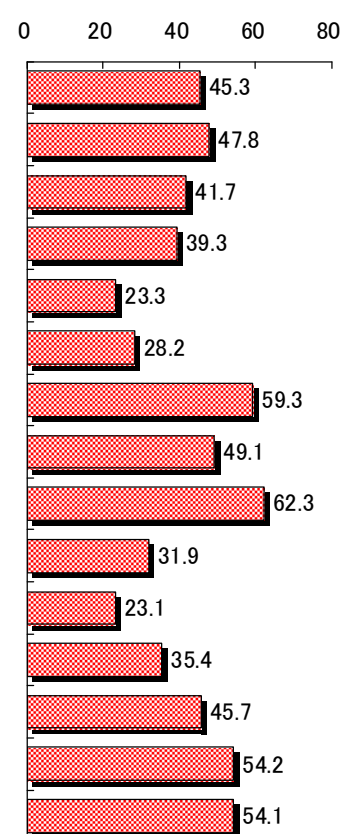


「そう思う」への
回答割合%

問9(オ)PTA会長は、男性がよい

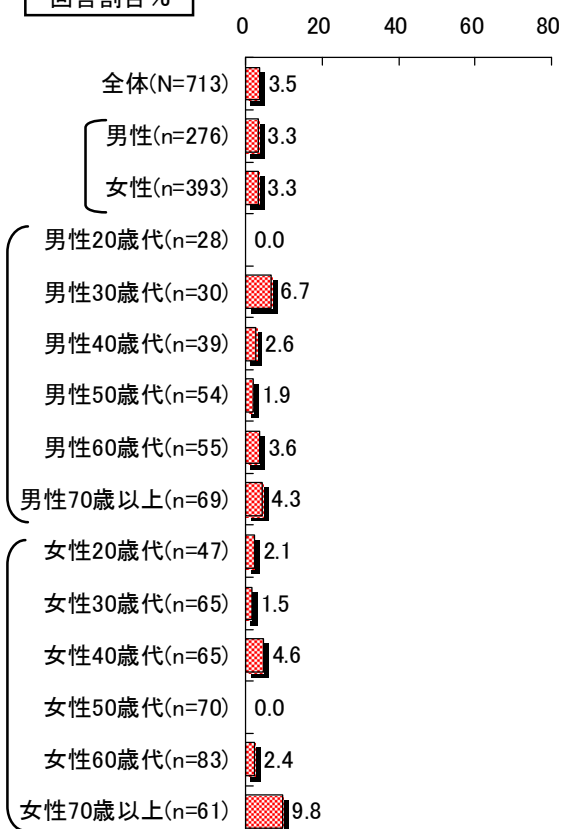


問9(カ)男子は「くん」、女子は「さん」を
名前の後に付けて呼んだ方がよい

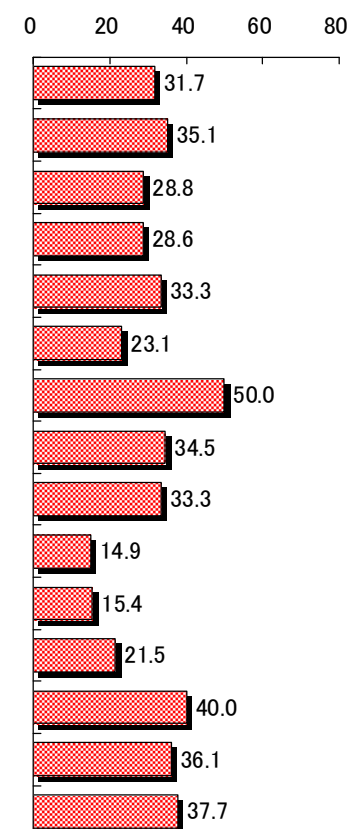


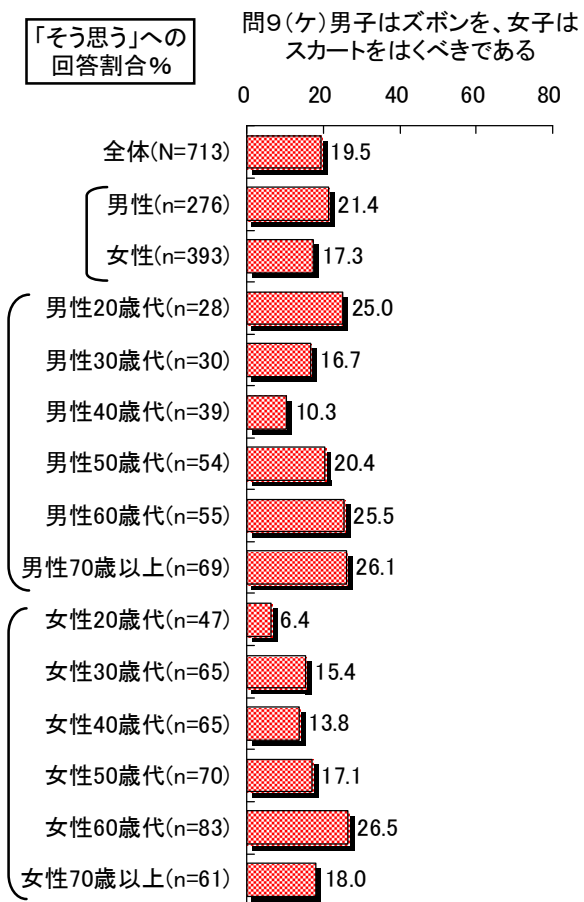
「そう思う」への
回答割合%

問9(キ)PTA懇親会等の準備・
後片づけは、女性がする方がよい



問9(ク)運動会の種目で、「騎馬戦」
は男の子のする競技である



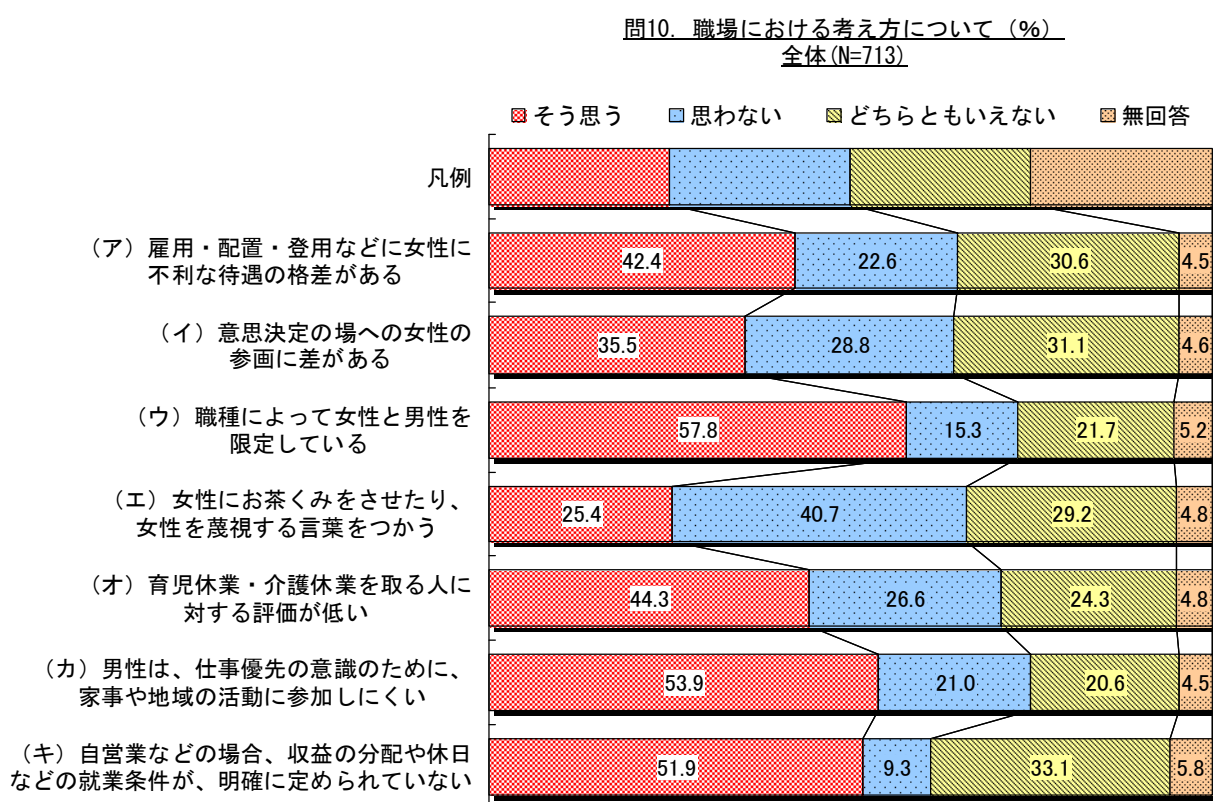


9. 職場における考え方について

問 10 職場における、次のような考え方をどのように思いますか。(○は項目ごとに1つ)

職場における考え方について、「そう思う」割合が多い項目は、「(ウ) 職種によって女性と男性を限定している」(57.8%)、「(カ) 男性は、仕事優先の意識のために、家事や地域の活動に参加しにくい」(53.9%)、「(キ) 自営業などの場合、収益の分配や休日などの就業条件が、明確に定められていない」(51.9%)であり、一方、「思わない」割合が多い項目は、「(エ) 女性にお茶くみをさせたり、女性を蔑視する言葉をつかう」(40.7%)である。

各項目を性別にみると、「(エ) 女性にお茶くみをさせたり、女性を蔑視する言葉をつかう」は女性で「そう思う」と回答した割合が多く、男女間で認識の差が大きいことがわかる。

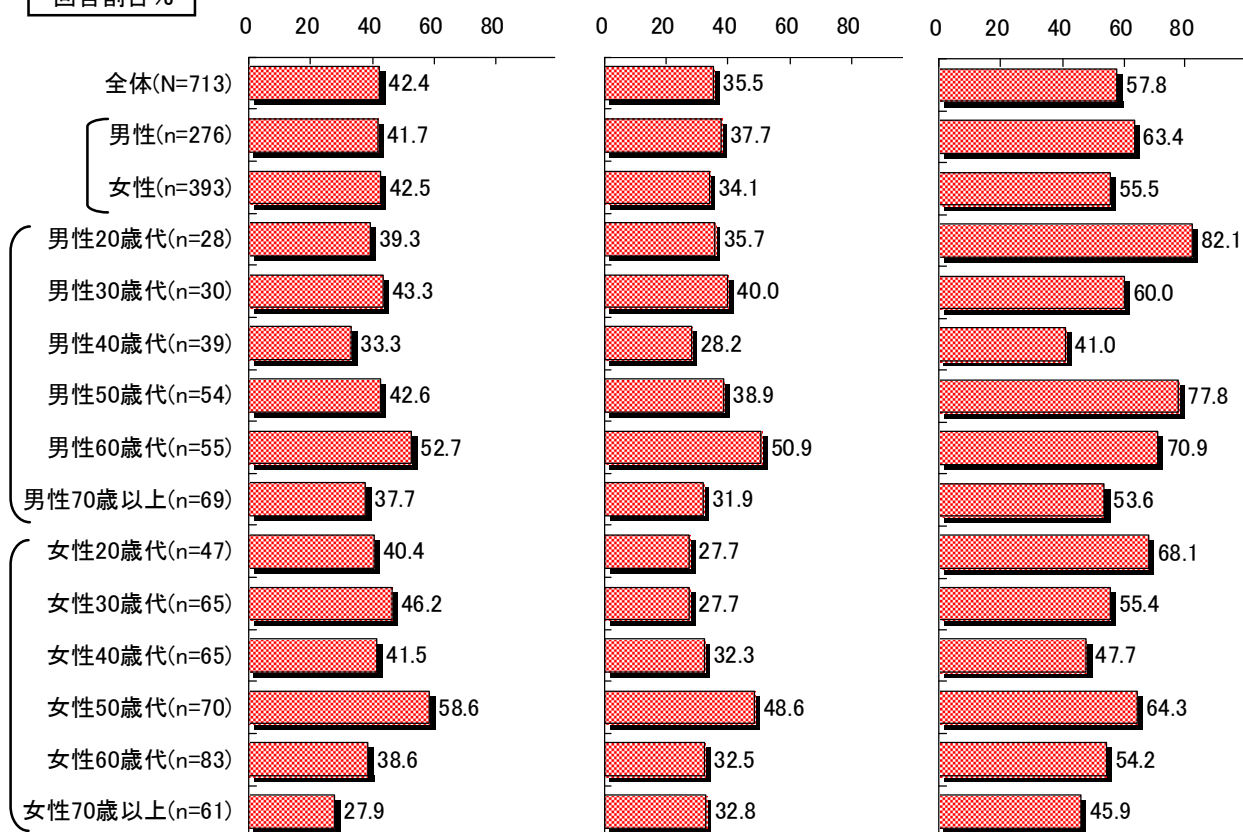


「そう思う」への
回答割合%

問10(ア)雇用・配置・登用などに
女性に不利な待遇の格差がある

問10(イ)意思決定の場合への
女性の参画に差がある

問10(ウ)職種によって女性と
男性を限定している

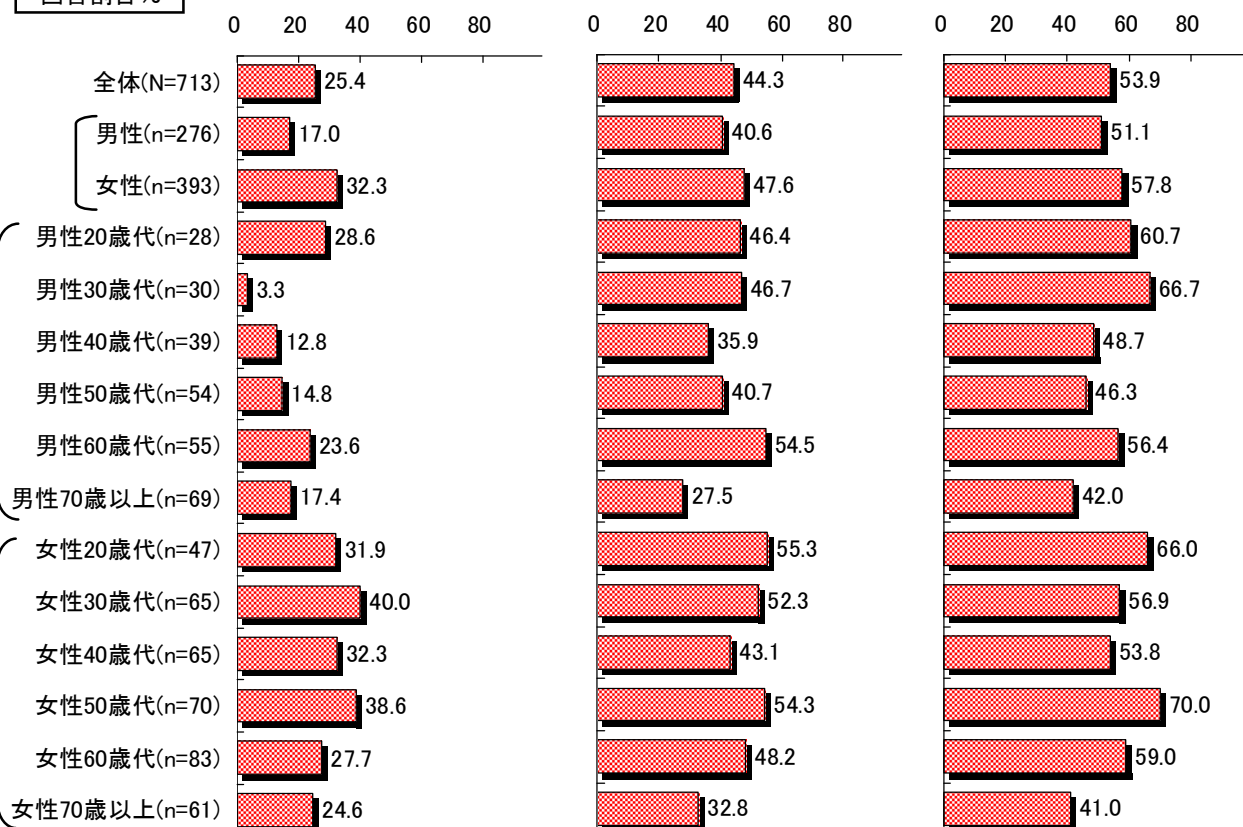


「そう思う」への
回答割合%

問10(エ)女性にお茶くみをさせたり、
女性を蔑視する言葉をつかう

問10(オ)育児休業・介護休業を
取る人に対する評価が低い

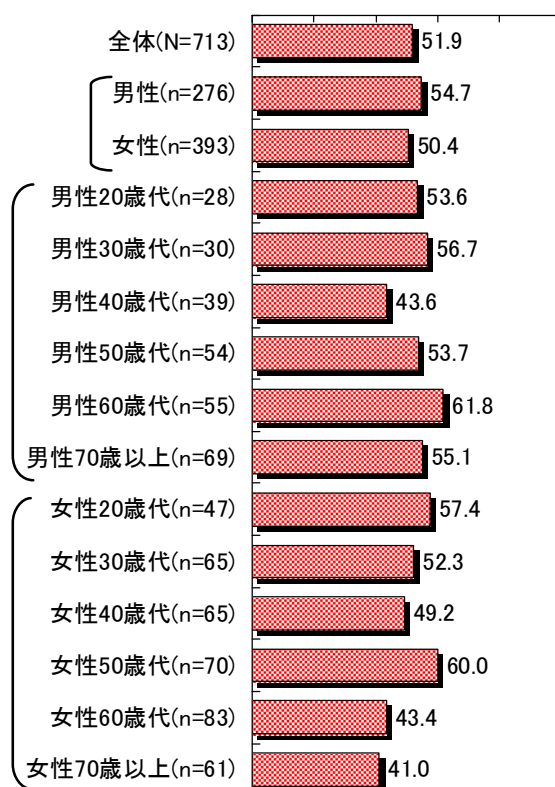
問10(カ)男性は、仕事優先の意識のため
に、家事や地域の活動に参加しにくい



「そう思う」への
回答割合%

問10(キ)自営業などの場合、収益の分配
や休日などの就業条件が明確でない

0 20 40 60 80



10. 育児休業・介護休業について

問 11 配偶者のいる方で、夫婦共にお勤めの方にうかがいます。

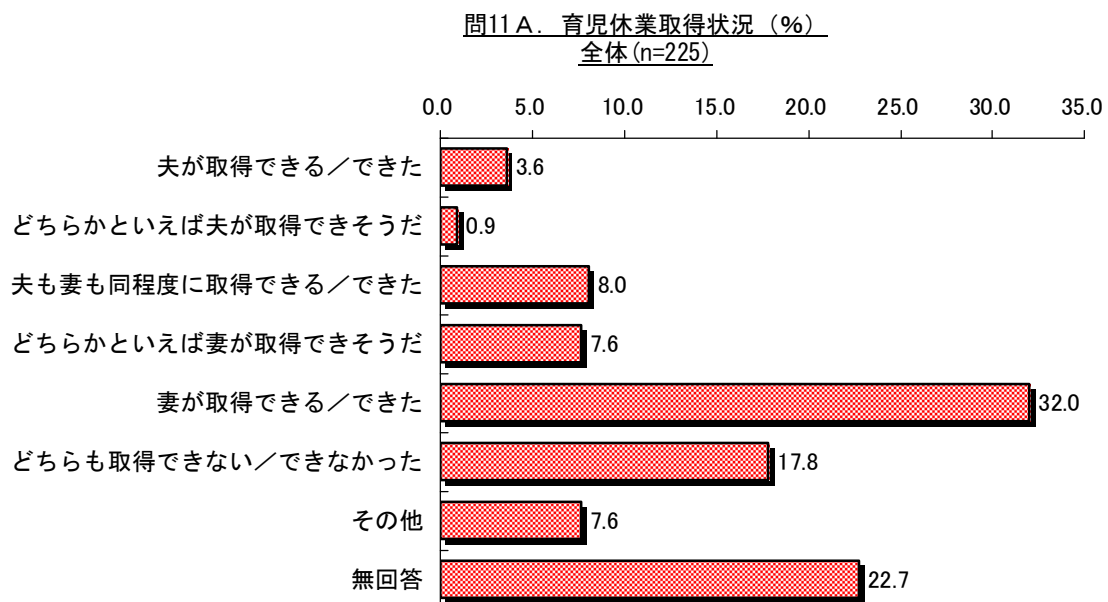
育児休業や介護休業を実際に取得することはできそうですか。または取得できましたか。

(○はA・B表で1つ)

(A) 育児休業取得状況

育児休業取得状況について、「妻が取得できる／できた」が32.0%、「どちらかといえば妻が取得できそうだ」が7.6%、一方、「夫が取得できる／できた」が3.6%、「どちらかといえば夫が取得できそうだ」が0.9%となっており、夫の育児休業取得状況は少ないことがわかる。

性別では、女性に比べて男性で「夫も妻も同程度に取得できる／できた」(12.2%)と回答した割合が多い。



問11A. 育児休業／性別・性×年齢別(%)

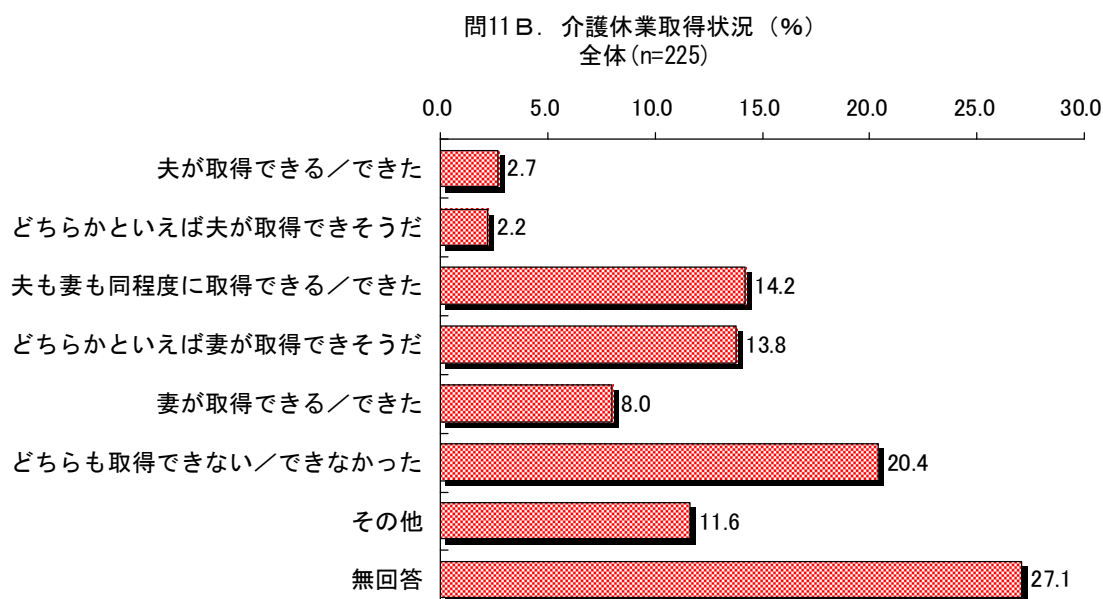
	夫が取得できる／	どちらかといえうだば夫	夫も妻も同程度に取得できる／	どちらかといえうだば妻	妻が取得できる／	どちらか取得できなかった	その他
全体 (n=225)	3.6	0.9	8.0	7.6	32.0	17.8	7.6
男性 (n=90)	5.6	0.0	12.2	8.9	27.8	17.8	6.7
女性 (n=128)	2.3	1.6	4.7	7.0	36.7	18.0	8.6
男性20歳代 (n=4)	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0
男性30歳代 (n=13)	7.7	0.0	15.4	7.7	38.5	23.1	0.0
男性40歳代 (n=30)	3.3	0.0	10.0	3.3	43.3	16.7	6.7
男性50歳代 (n=30)	10.0	0.0	13.3	16.7	13.3	23.3	10.0
男性60歳代 (n=9)	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	11.1	0.0
男性70歳以上 (n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性20歳代 (n=12)	0.0	0.0	0.0	16.7	66.7	16.7	0.0
女性30歳代 (n=30)	3.3	0.0	10.0	13.3	53.3	3.3	3.3
女性40歳代 (n=37)	5.4	2.7	5.4	0.0	29.7	24.3	10.8
女性50歳代 (n=33)	0.0	3.0	3.0	3.0	30.3	27.3	12.1
女性60歳代 (n=11)	0.0	0.0	0.0	9.1	18.2	18.2	18.2
女性70歳以上 (n=4)	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0

(B) 介護休業取得状況

介護休業取得状況について、「どちらも取得できない／できなかった」と回答した割合が20.4%となっている。

また、「妻が取得できる／できた」が8.0%、「どちらかといえば妻が取得できそうだ」が13.8%、一方、「夫が取得できる／できた」が2.7%、「どちらかといえば夫が取得できそうだ」が2.2%となっており、育児休業と同様に夫の介護休業取得状況は少ないことがわかる。

性別では、女性に比べて男性で「夫も妻も同程度に取得できる／できた」(17.8%)と回答した割合が多い。



問11B. 介護休業／性別・性×年齢別 (%)

	夫が取得できる／できた	どちらかといえば夫が取得できそうだ	夫も妻も同程度に取得できる／できた	どちらかといえば妻が取得できそうだ	妻が取得できる／できた	どちらも取得できない／できなかった	その他
全体 (n=225)	2.7	2.2	14.2	13.8	8.0	20.4	11.6
男性 (n=90)	4.4	2.2	17.8	14.4	5.6	21.1	11.1
女性 (n=128)	1.6	2.3	11.7	14.1	10.2	20.3	12.5
男性20歳代 (n=4)	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0
男性30歳代 (n=13)	23.1	0.0	15.4	23.1	7.7	15.4	0.0
男性40歳代 (n=30)	0.0	0.0	23.3	10.0	6.7	23.3	13.3
男性50歳代 (n=30)	3.3	3.3	16.7	20.0	3.3	30.0	13.3
男性60歳代 (n=9)	0.0	0.0	22.2	0.0	11.1	0.0	11.1
男性70歳以上 (n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性20歳代 (n=12)	0.0	0.0	16.7	25.0	16.7	16.7	8.3
女性30歳代 (n=30)	0.0	3.3	23.3	30.0	10.0	10.0	3.3
女性40歳代 (n=37)	5.4	2.7	10.8	8.1	8.1	21.6	8.1
女性50歳代 (n=33)	0.0	3.0	3.0	6.1	12.1	36.4	21.2
女性60歳代 (n=11)	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	9.1	36.4
女性70歳以上 (n=4)	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0

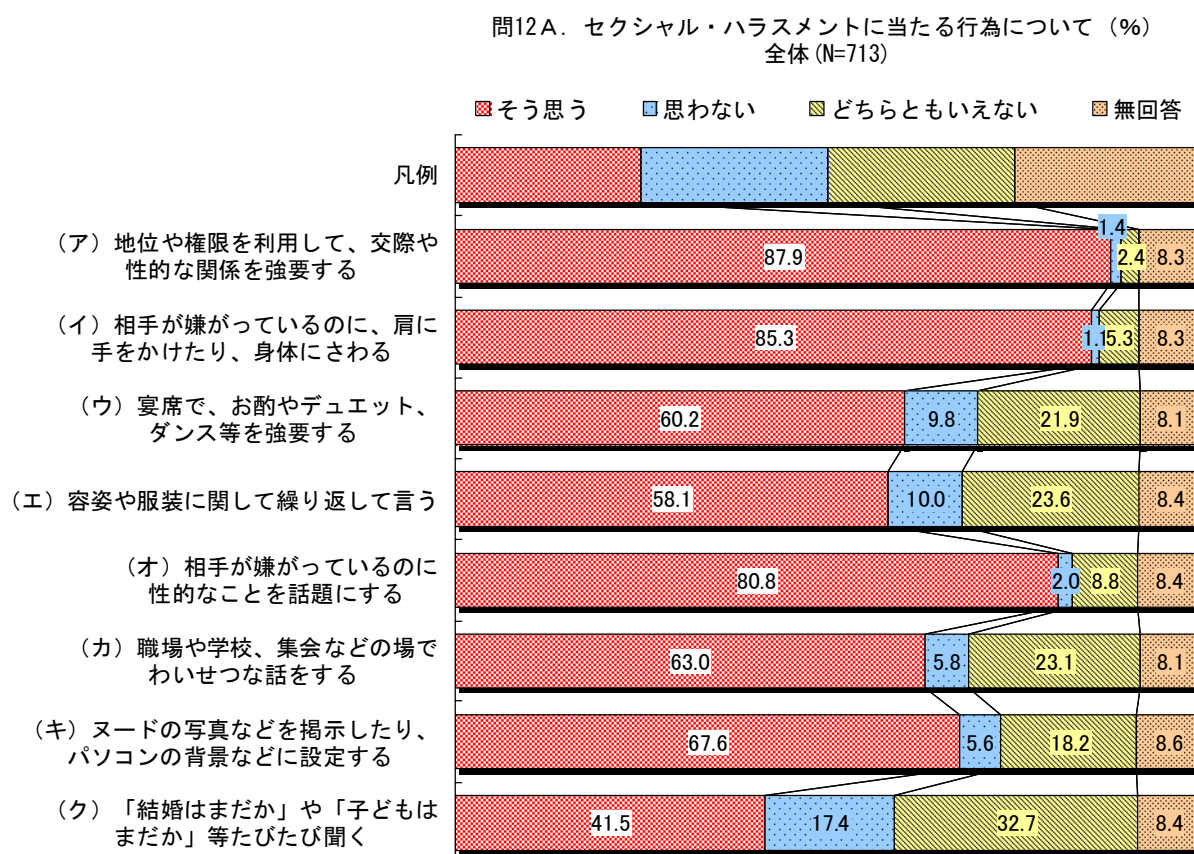
11. セクシュアル・ハラスメントについて

問 12 次の項目は、セクシュアル・ハラスメント（相手の意に反した不快な性的言動のこと）だと思いますか。また、そのようなことをしたこと、またはされたことはありますか。
（○はA・B・C表で項目ごとに1つ）

（A）セクシュアル・ハラスメントに当たる行為について

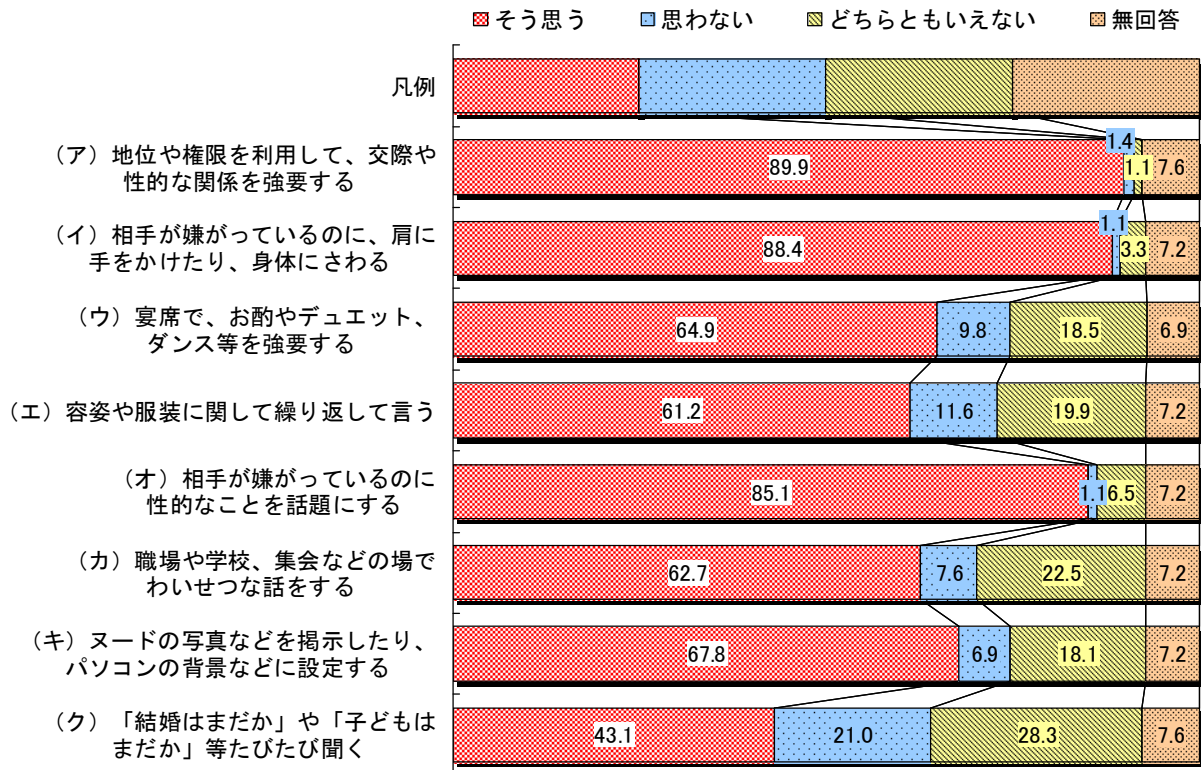
セクシュアル・ハラスメントに当たる行為について、「そう思う」割合が多い項目は、「（ア）地位や権限を利用して、交際や性的な関係を強要する」（87.9%）、「（イ）相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、身体にさわる」（85.3%）、「（オ）相手が嫌がっているのに性的なことを話題にする」（80.8%）である。

各項目を性別にみると、ほぼすべての項目で、男性の「そう思う」と回答した割合が女性の割合を上回っており、男性の方がセクシュアル・ハラスメントを意識していることがわかる。



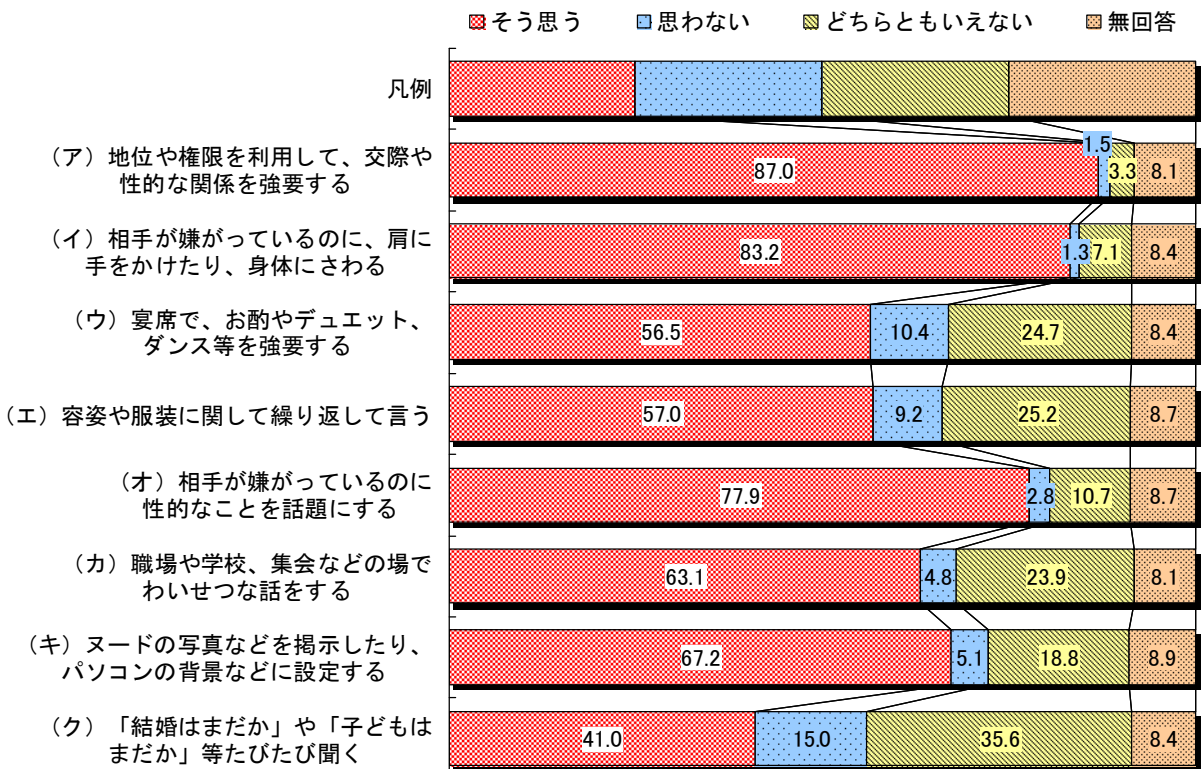
男 性

問12A. セクシャル・ハラスメントに当たる行為について (%)
男性 (n=276)



女 性

問12A. セクシャル・ハラスメントに当たる行為について (%)
女性 (n=393)

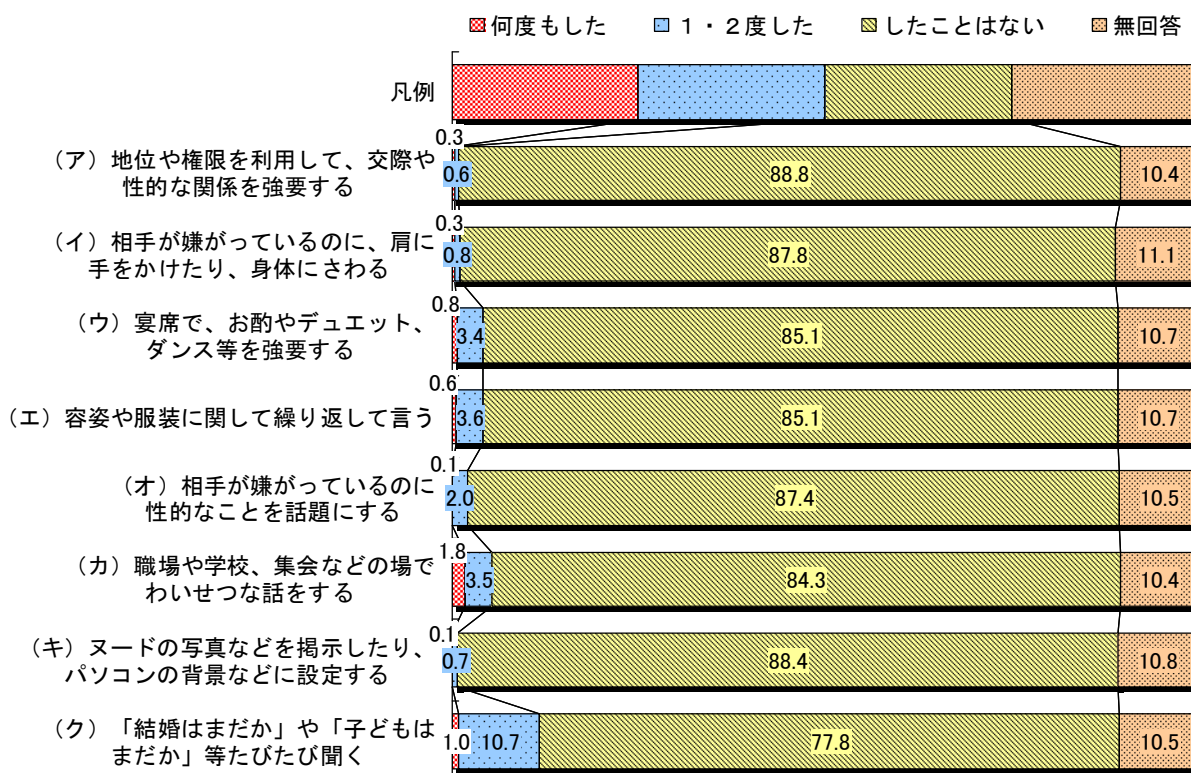


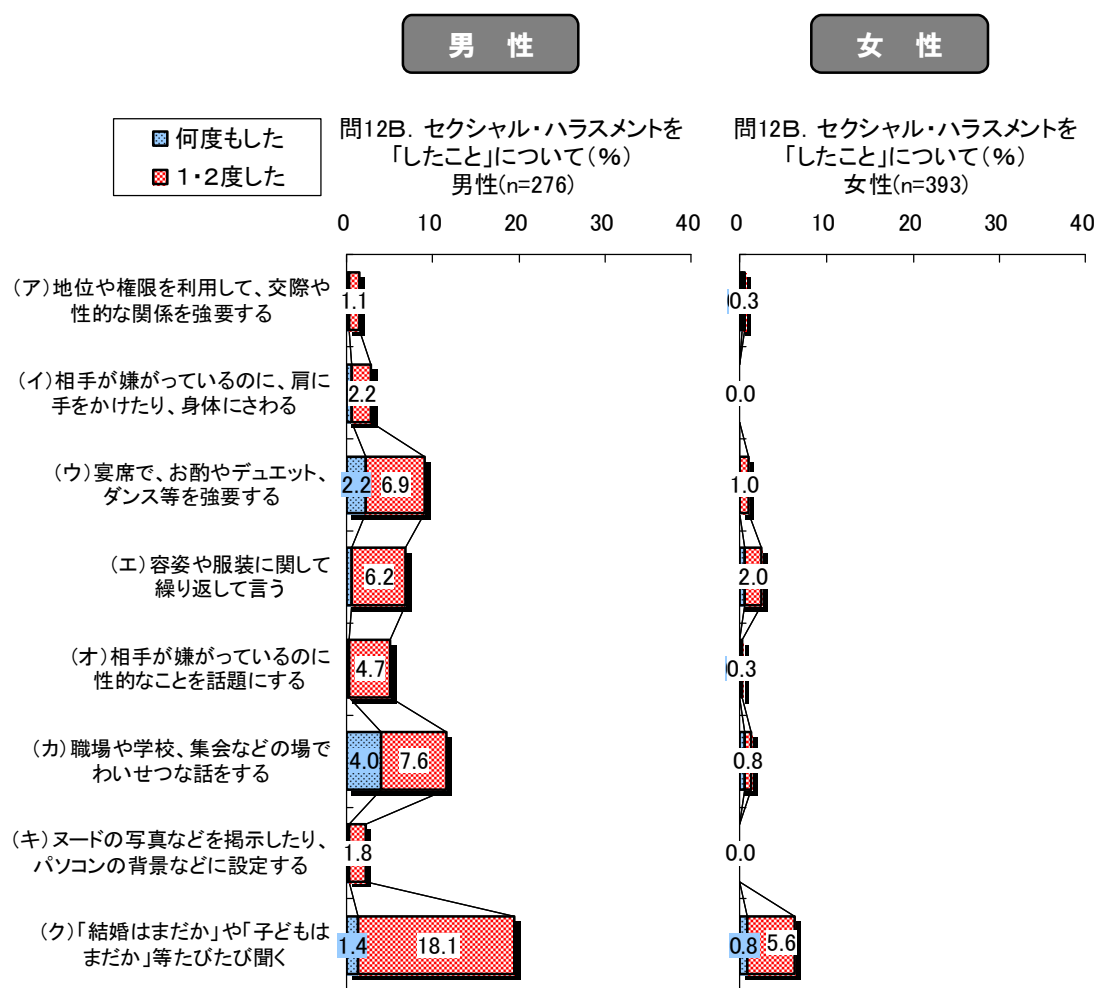
(B) セクシュアル・ハラスメントを「したこと」について

セクシュアル・ハラスメントをしたことについて、「何度もした」と「1・2度した」を合わせた「セクハラ経験」の割合が多い項目は、「(ク)「結婚はまだか」や「子どもはまだか」等たびたび聞く」(11.7%)であるが、それ以外の項目は「したことはない」が8割以上を占めている。

各項目を性別にみると、すべての項目で男性の「セクハラ経験」の割合が女性の割合を上回っており、とくに「(ク)「結婚はまだか」や「子どもはまだか」等たびたび聞く」(19.5%)、「(カ) 職場や学校、集会などの場でわいせつな話をする」(11.6%)、「(ウ) 宴席で、お酌やデュエット、ダンス等を強要する」(9.1%)は、男性の「セクハラ経験」として割合が多くなっている。

問12B. セクシャル・ハラスメントを「したこと」について (%)
全体 (N=713)

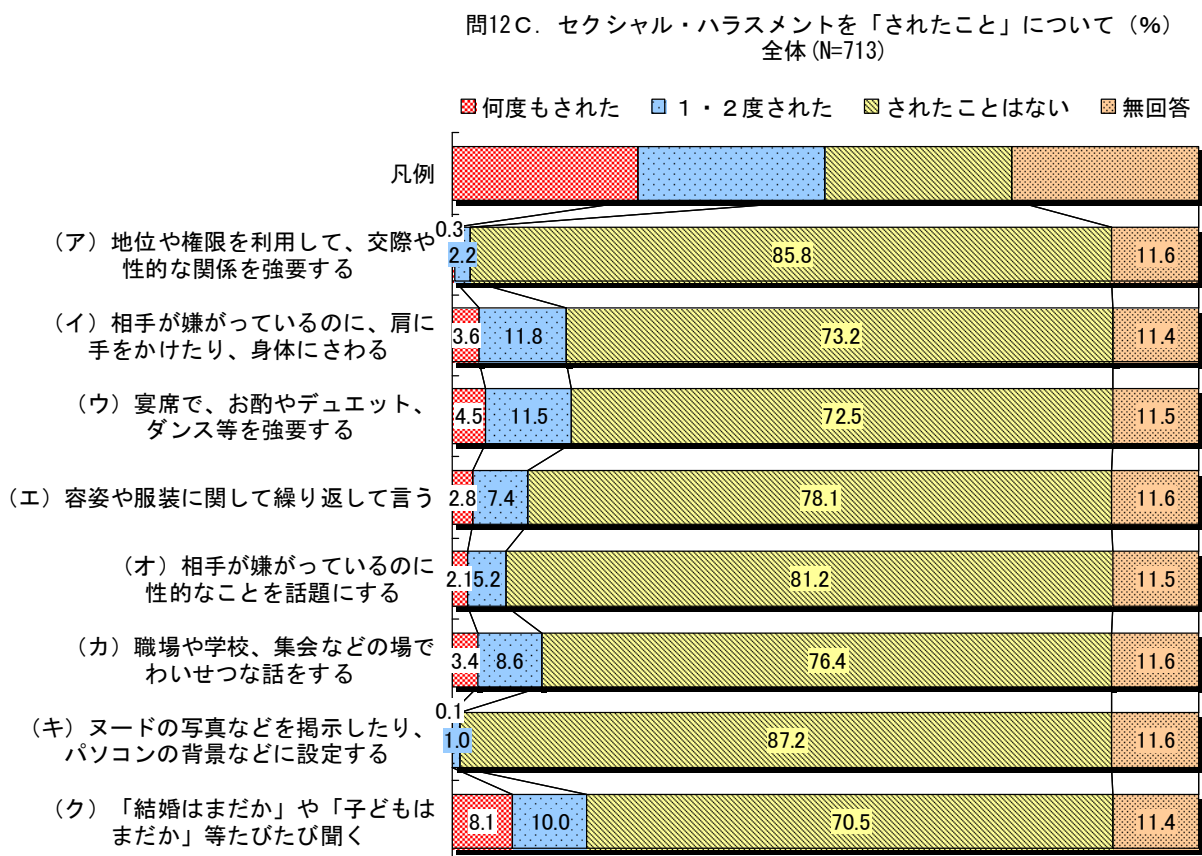




(C) セクシュアル・ハラスメントを「されたこと」について

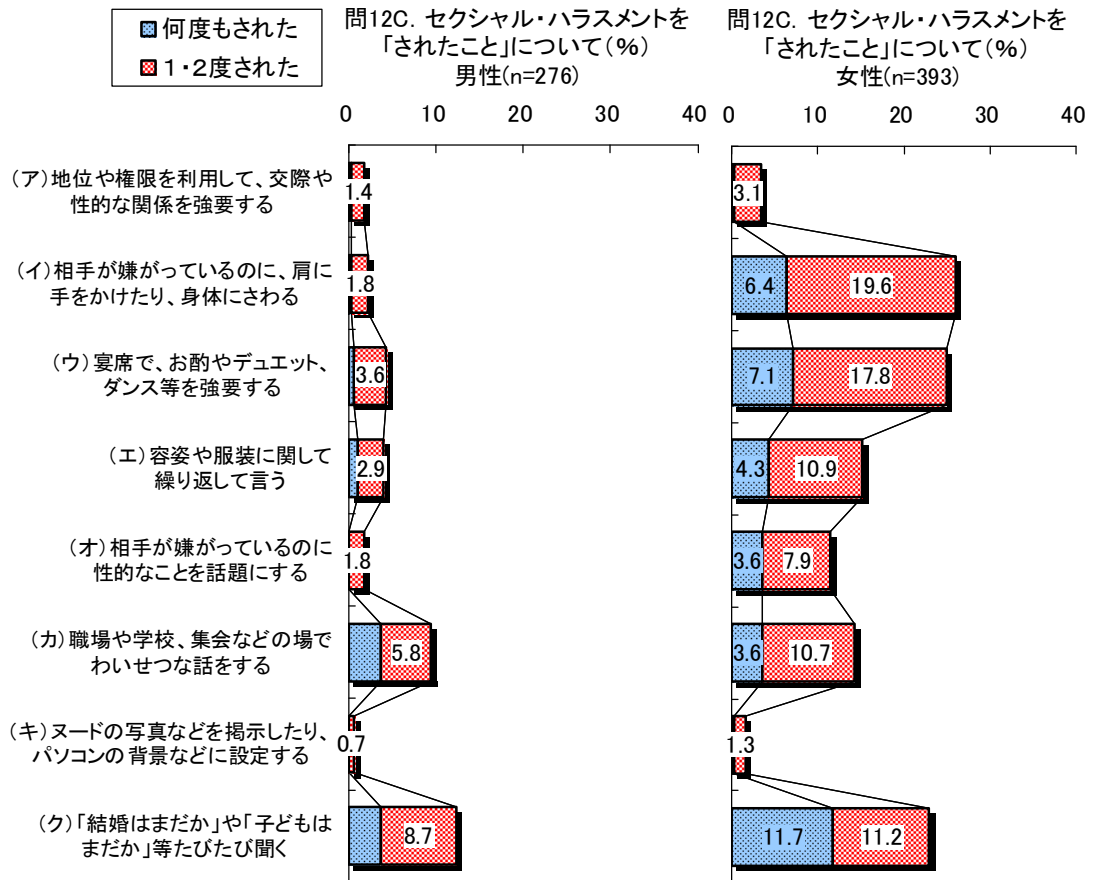
セクシュアル・ハラスメントをされたことについて、「何度もされた」と「1・2度された」を合わせた「セクハラ被経験」の割合が多い項目は、「(ク)「結婚はまだか」や「子どもはまだか」等たびたび聞く」(18.1%)、「(ウ) 宴席で、お酌やデュエット、ダンス等を強要する」(16.0%)、「(イ) 相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、身体にさわる」(15.4%)、「(カ) 職場や学校、集会などの場でわいせつな話をする」(12.0%)、「(エ) 容姿や服装に関して繰り返して言う」(10.2%)である。

各項目を性別にみると、すべての項目で女性の「セクハラ被経験」の割合が男性の割合を上回っており、とくに「(イ)相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、身体にさわる」(26.0%)、「(ウ) 宴席で、お酌やデュエット、ダンス等を強要する」(24.9%)は、女性の「セクハラ被経験」として割合が多くなっている。



男性

女性



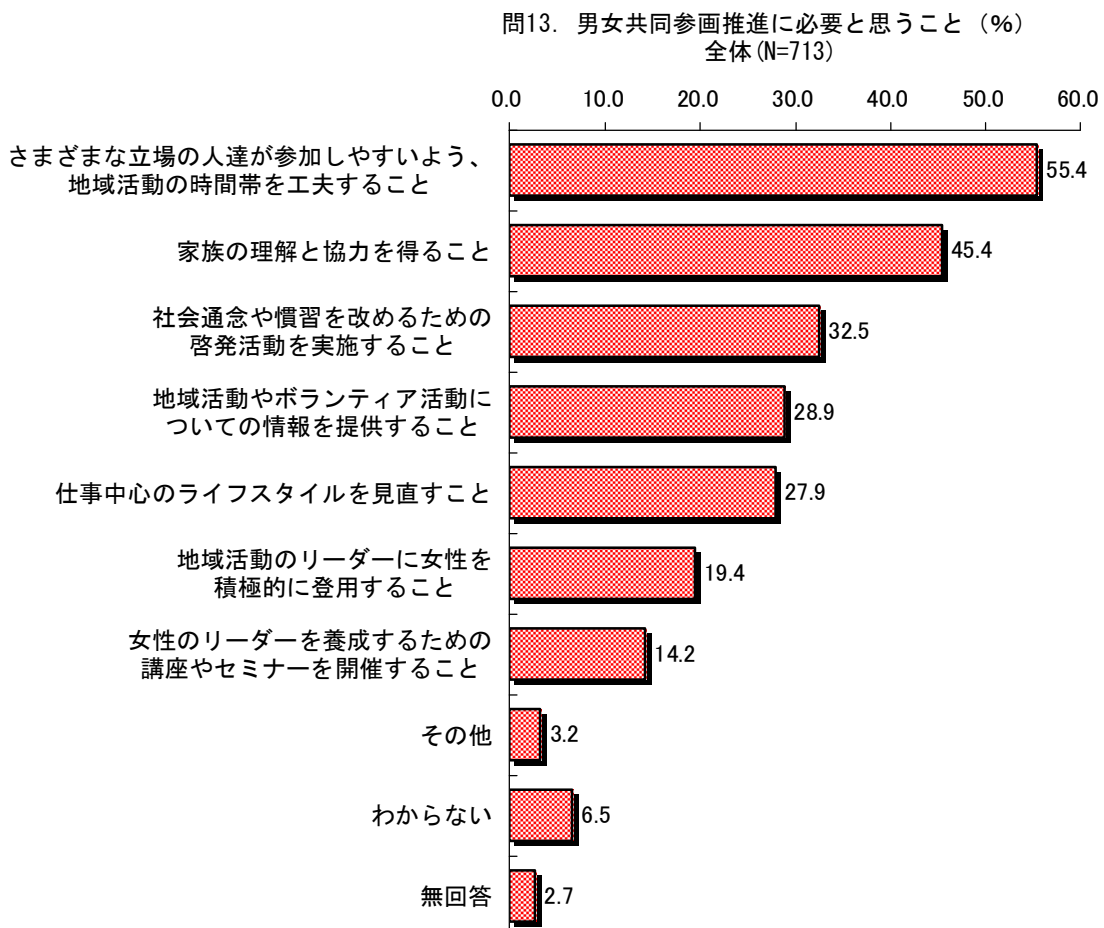
12. 男女共同参画推進に必要と思うこと

問 13 地域社会において、男女共同参画を積極的に進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

男女共同参画推進に思うことについては、「さまざまな立場の人達が参加しやすいよう、地域活動の時間帯を工夫すること」が 55.4%で最も多く、次いで「家族の理解と協力を得ること」（45.4%）、「社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施すること」（32.5%）の順となっている。

性別では、女性に比べて男性で、「社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施すること」の割合が多くなっている。

性×年齢別では、「地域活動のリーダーに女性を積極的に登用すること」は男女とも年齢が上がるほど多くなる傾向がみられる。



問13. 男女共同参画推進に必要と思うこと／性別・性×年齢別(%)

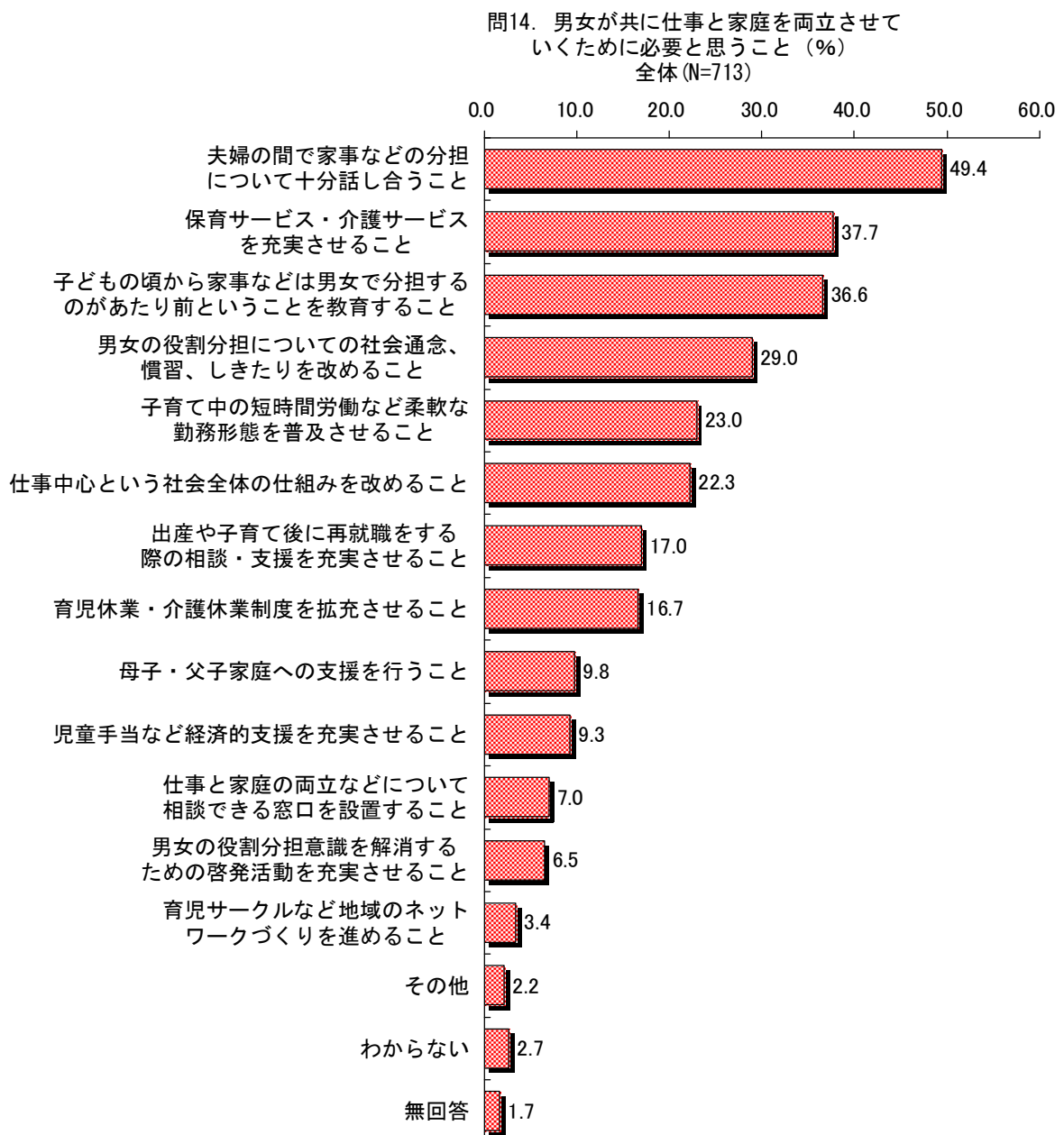
	地域活動やボランティア活動についての情報を提供する	仕事中心のライフスタイルを見直すこと	地域活動のリーダーに女性を積極的に登用すること	女性のリーダーを養成するための講座やセミナーを開催すること	その他	わからない					
家族の理解と協力を得ること	社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施すること	さまざまな立場の人達が参加しやすいよう地域活動の時間帯を工夫すること	55.4	45.4	32.5	28.9	27.9	19.4	14.2	3.2	6.5
男性 (n=276)	60.5	42.8	38.0	26.4	26.4	21.7	13.4	4.3	4.7		
女性 (n=393)	52.9	48.1	27.7	31.0	29.0	17.3	14.8	2.8	6.1		
男性20歳代 (n=28)	57.1	32.1	25.0	28.6	14.3	14.3	10.7	7.1	10.7		
男性30歳代 (n=30)	50.0	53.3	36.7	13.3	50.0	6.7	3.3	3.3	3.3		
男性40歳代 (n=39)	59.0	46.2	51.3	15.4	38.5	12.8	7.7	7.7	2.6		
男性50歳代 (n=54)	57.4	44.4	33.3	29.6	31.5	24.1	13.0	1.9	3.7		
男性60歳代 (n=55)	70.9	43.6	38.2	29.1	27.3	23.6	10.9	9.1	3.6		
男性70歳以上 (n=69)	62.3	39.1	40.6	33.3	10.1	33.3	24.6	0.0	4.3		
女性20歳代 (n=47)	59.6	57.4	23.4	36.2	53.2	6.4	2.1	2.1	2.1		
女性30歳代 (n=65)	56.9	49.2	26.2	26.2	36.9	9.2	12.3	3.1	7.7		
女性40歳代 (n=65)	52.3	46.2	38.5	29.2	35.4	18.5	9.2	3.1	1.5		
女性50歳代 (n=70)	45.7	47.1	32.9	34.3	27.1	18.6	24.3	5.7	2.9		
女性60歳代 (n=83)	56.6	47.0	25.3	34.9	20.5	21.7	19.3	2.4	9.6		
女性70歳以上 (n=61)	47.5	42.6	18.0	24.6	9.8	26.2	16.4	0.0	11.5		

13. 男女が共に仕事と家庭を両立させていくために必要と思うこと

問 14 あなたは、男女が共に仕事と家庭を両立させていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

男女が共に仕事と家庭を両立させていくために必要と思うことについて、「夫婦の間で家事などの分担について十分話し合うこと」が 49.4%で最も多く、次いで「保育サービス・介護サービスを充実させること」（37.7%）、「子どもの頃から家事などは男女で分担するのがあたり前ということを教育すること」（36.6%）の順となっている。

性別では、男性に比べて女性で「子どもの頃から家事などは男女で分担するのがあたり前ということを教育すること」の割合が多い。また、「子育て中の短時間労働など柔軟な勤務形態を普及させること」は女性、「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」は男性で比較的多くなっている。性×年齢別では、女性 20 歳代で「出産や子育て後に再就職をする際の相談・支援を充実させること」が、他の属性に比べて多くなっている。



問14. 男女が共に仕事と家庭を両立させていくために必要と思うこと／性別・性×年齢別(%)

	夫婦の間で家事などの分担に	保育サービス・介護サービス	子どもとの頃から家事などは男	男女の役割分担についてをの改	柔軟な勤務形態を普及させるこ	子育て中の短時間労働など柔	仕事を改めること社会全体の仕	出産や子育て後に再就職をす	育児休業・介護休業制度を拡
全体 (N=713)	49.4	37.7	36.6	29.0	23.0	22.3	17.0	16.7	
男性 (n=276)	48.2	35.1	30.8	30.1	19.6	26.8	14.9	15.6	
女性 (n=393)	49.9	39.4	39.9	27.5	26.5	19.3	18.3	17.8	
男性20歳代 (n=28)	46.4	39.3	28.6	17.9	21.4	14.3	21.4	17.9	
男性30歳代 (n=30)	40.0	23.3	23.3	30.0	20.0	40.0	23.3	10.0	
男性40歳代 (n=39)	48.7	23.1	28.2	41.0	12.8	38.5	10.3	23.1	
男性50歳代 (n=54)	44.4	40.7	29.6	25.9	29.6	25.9	13.0	14.8	
男性60歳代 (n=55)	60.0	43.6	29.1	32.7	14.5	29.1	20.0	12.7	
男性70歳以上 (n=69)	46.4	34.8	39.1	30.4	18.8	18.8	8.7	15.9	
女性20歳代 (n=47)	48.9	31.9	36.2	14.9	48.9	21.3	44.7	21.3	
女性30歳代 (n=65)	50.8	44.6	38.5	21.5	32.3	24.6	15.4	21.5	
女性40歳代 (n=65)	35.4	38.5	44.6	32.3	24.6	32.3	13.8	16.9	
女性50歳代 (n=70)	51.4	45.7	41.4	34.3	20.0	22.9	14.3	14.3	
女性60歳代 (n=83)	54.2	38.6	43.4	24.1	20.5	12.0	14.5	14.5	
女性70歳以上 (n=61)	55.7	34.4	32.8	34.4	21.3	4.9	16.4	21.3	

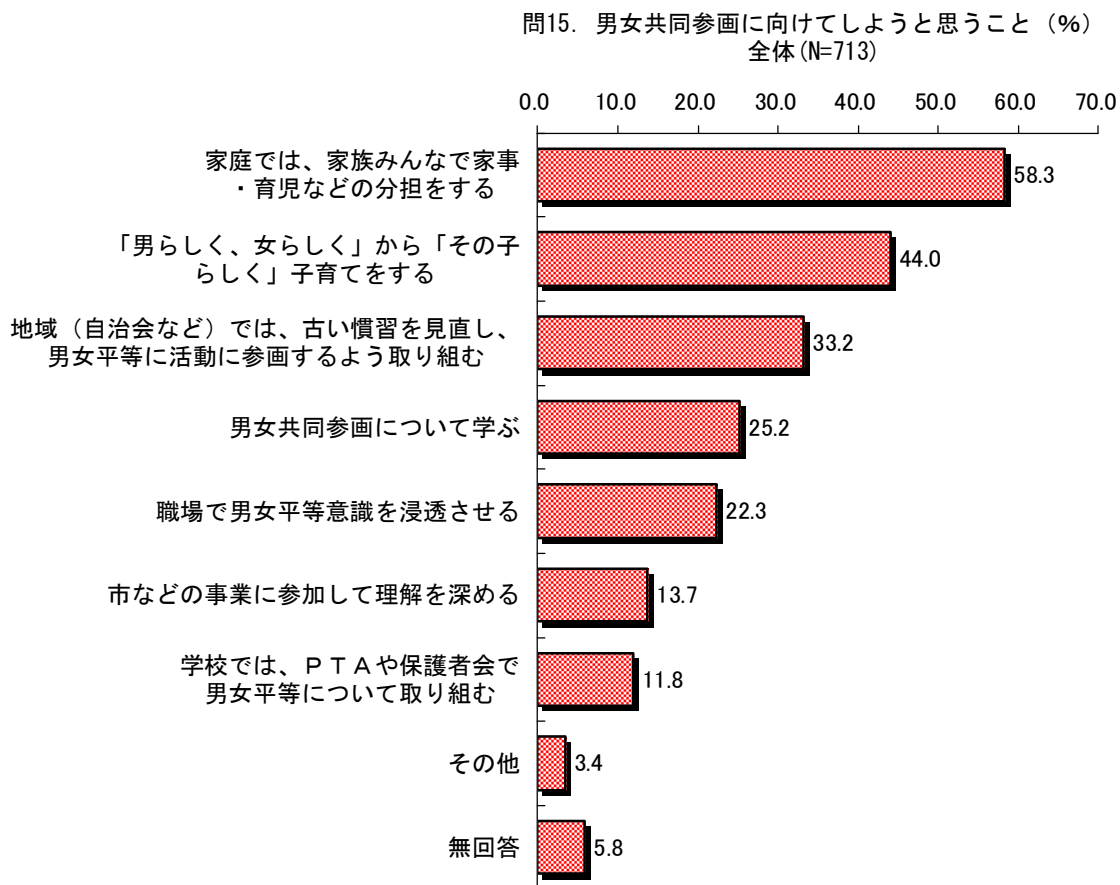
	母子・父子家庭への支援を行	児童手当など経済的支援を充	仕事と家庭の両立を設にす	男女の役割分担意識を解消	育児サークルなど地域のネッ	その他	わからない
全体 (N=713)	9.8	9.3	7.0	6.5	3.4	2.2	2.7
男性 (n=276)	10.1	9.8	7.6	5.4	3.6	4.0	2.9
女性 (n=393)	10.2	9.7	6.1	6.9	3.6	1.3	2.3
男性20歳代 (n=28)	10.7	3.6	0.0	0.0	7.1	7.1	10.7
男性30歳代 (n=30)	6.7	20.0	10.0	13.3	3.3	3.3	0.0
男性40歳代 (n=39)	17.9	15.4	7.7	5.1	5.1	2.6	0.0
男性50歳代 (n=54)	13.0	11.1	1.9	0.0	3.7	3.7	3.7
男性60歳代 (n=55)	3.6	3.6	16.4	5.5	1.8	7.3	0.0
男性70歳以上 (n=69)	10.1	8.7	7.2	8.7	2.9	1.4	2.9
女性20歳代 (n=47)	8.5	19.1	2.1	0.0	0.0	4.3	0.0
女性30歳代 (n=65)	10.8	18.5	4.6	3.1	3.1	3.1	3.1
女性40歳代 (n=65)	6.2	12.3	4.6	21.5	3.1	0.0	0.0
女性50歳代 (n=70)	12.9	4.3	4.3	5.7	1.4	1.4	2.9
女性60歳代 (n=83)	9.6	3.6	9.6	6.0	7.2	0.0	3.6
女性70歳以上 (n=61)	13.1	4.9	9.8	3.3	4.9	0.0	3.3

14. 男女共同参画に向けてしようと思うこと

問 15 男女共同参画は、私たち一人ひとりの身近な課題です。まず自分にできることから始めることが大切ですが、あなたは、何をしようと思いますか。（〇はいくつでも）

男女共同参画に向けてしようと思うことについて、「家庭では、家族みんなで家事・育児などの分担をする」が58.3%で最も多く、次いで「男らしく、女らしく」から「その子らしく」子育てをする」（44.0%）、「地域（自治会など）では、古い慣習を見直し、男女平等に活動に参画するよう取り組む」（33.2%）の順となっている。

性×年齢別にみると、男性30歳代で「家庭では、家族みんなで家事・育児などの分担をする」（73.3%）、女性20歳代で「男らしく、女らしく」から「その子らしく」子育てをする」がそれぞれ多く、「地域（自治会など）では、古い慣習を見直し、男女平等に活動に参画するよう取り組む」は男女とも年齢が上がるにつれて多くなる傾向がみられる。



問15. 男女共同参画に向けてしようと思うこと／性別・性×年齢別(%)

	家庭では ・育児などの 分担をする	「男らしく 女らしく」 子育てをする	地域（自治会など） 古い慣習を見直し、 等活動に参加するよう 取り組み	男女共同参画について 学ぶ	職場で男女平等意識を 浸透させる	市などの事業に参加して 理解を深める	学校ではPTAや保護者 会で男女平等について 取り組む	その他
全体 (N=713)	58.3	44.0	33.2	25.2	22.3	13.7	11.8	3.4
男性 (n=276)	55.8	42.0	35.5	24.3	25.4	10.1	12.3	4.3
女性 (n=393)	61.8	47.3	31.0	24.9	20.1	16.0	11.5	2.3
男性20歳代 (n=28)	50.0	39.3	17.9	14.3	14.3	3.6	7.1	10.7
男性30歳代 (n=30)	73.3	40.0	20.0	20.0	23.3	3.3	3.3	3.3
男性40歳代 (n=39)	53.8	59.0	30.8	23.1	25.6	5.1	12.8	5.1
男性50歳代 (n=54)	53.7	40.7	40.7	14.8	25.9	7.4	13.0	0.0
男性60歳代 (n=55)	54.5	40.0	49.1	36.4	30.9	16.4	21.8	5.5
男性70歳以上 (n=69)	53.6	37.7	37.7	29.0	26.1	15.9	10.1	4.3
女性20歳代 (n=47)	68.1	68.1	14.9	17.0	12.8	0.0	4.3	0.0
女性30歳代 (n=65)	64.6	58.5	23.1	24.6	15.4	4.6	12.3	3.1
女性40歳代 (n=65)	64.6	46.2	20.0	16.9	24.6	7.7	18.5	0.0
女性50歳代 (n=70)	58.6	40.0	40.0	21.4	17.1	17.1	5.7	2.9
女性60歳代 (n=83)	56.6	37.3	34.9	32.5	22.9	21.7	9.6	3.6
女性70歳以上 (n=61)	62.3	42.6	47.5	34.4	26.2	41.0	16.4	3.3

15. 自由回答

問 16 男女共同参画に関して、ご意見・ご感想や市への要望などがございましたら、ご自由にご記入ください。

男性

- ・男女平等は良いことです。身体的な差もあるし、給料格差を埋めることは困難ではないか。
(男性、20 歳代)
- ・男女共同参画の意識は、浸透しつつあると思います。(男性、20 歳代)
- ・刑法上の差別、特に痴漢冤罪が問題。「女性であるから」「かよわいから」という立場で女性優位の法解釈がなされるのは、男性に対する差別ではないだろうか。(男性、20 歳代)
- ・最近、このような記事をよく見聞きします。男女は、平等であることが当然だと思います。
(男性、20 歳代)
- ・レディースデイがあるのに、ボーイズデイがないのは差別ではないか。(男性、20 歳代)
- ・男女平等は、子どもの時から教える必要がある。しかし、男女平等だからといって職場で頑張りすぎる女性を見かける。体や心、感情までが同じ(平等)ではないということも知る必要がある。(男性、30 歳代)
- ・何もかも男女平等ではなく、得意分野はそれぞれが担当した方がうまくいくのではないのでしょうか。(男性、30 歳代)
- ・私は女性の多い職場におります。育児休暇等会社の福祉厚生は充実しています。男女共同参画を早い段階から教育をした方がよいと思います。(男性、30 歳代)
- ・男女共同参画社会基本法についてよく知らないので、ホームページ等で PR したらどうでしょうか。(男性、40 歳代)
- ・男女共同参画というが、職場の給与面では、まだまだ男女差があるのが現実である。(男性、40 歳代)
- ・男女共同参画は、表向きだけではダメ。職場では、女性はほとんどパートで低位置におかれている。パート労働者法を廃止して正社員化する努力が必要。(男性、40 歳代)
- ・男女共同参画は、国民全員が望むことだろうか。少子化、結婚しない女性、これは逆に押し進めている結果ともいえる。(男性、40 歳代)
- ・「男らしく、女らしく」をもっと深く考えなおすべきではないでしょうか。私は男ですが、女性はものすごくすぐれていると思います。特に、子育てや介護については、人を包み込んでくれる温かさを感じます。母性本能だと思います。(男性、40 歳代)
- ・育児、家事は分担協力が必要だが、性別の人間性を失わないことが大事だと思う。(男性、40 歳代)
- ・若い家族構成では、男女平等意識は高いと思う。しかし、都会と田舎ではしきたり等があるので難しいと思う。(男性、40 歳代)
- ・男女共同参画についての研修会を定期的に行う。(男性、50 歳代)
- ・各事業単位で、行政が指導する。(男性、50 歳代)
- ・以前よりも、男女共同参画の意識が高まったように思えますが、男女の意識は変えづらいものがあります。子どもの時からの教育が大事だと思います。(男性、50 歳代)

- ・生涯学習課で男女共同参画の研修に行っても、参加者は理解している人が多いと思います。啓発が必要な人に対し、いかに啓発するかが今後の課題だと思います。（男性、50 歳代）
- ・大企業も公務員並みに男女平等を貫くこと。（男性、50 歳代）
- ・男女それぞれに良さがある。それを尊重すべきで、なんでも平等はおかしい。（男性、60 歳代）
- ・各地域で意識を持ってもらうように、いろいろな集会を開いてほしい。（男性、60 歳代）
- ・家庭、家族間で、何でも話し合える環境作りが大切。（男性、60 歳代）
- ・すべての職種に男女平等は難しいと思う。例えば、重量物を扱う仕事に女性は不向きである。深夜の仕事も同様である。（男性、60 歳代）
- ・男女共同参画が図れるように行政として市民参加を啓発する施策が必要。（男性、70 歳以上）
- ・家庭での教育、しつけは母親の仕事。（男性、70 歳以上）
- ・父子家庭にも手当が出るようになり、平等となった。（男性、70 歳以上）
- ・わかりやすい日本語使ってほしい。男女共同参画とかいわずに不公平な制度を廃止すればよいと思う。（男性、70 歳以上）

女性

- ・男女が平等であるということは、男らしさ、女らしさを認めてお互いが助け合った社会を形成することだと思う。（女性、20 歳代）
- ・男女共同参画への取り組みを知らない人はたくさんいると思います。もっと広める活動が必要です。セクハラやDVなどで悩んでいて相談できない人がいると思います。相談しやすくなる仕組みが必要だと思います。（女性、20 歳代）
- ・男女共同参画やジェンダーを語る上で、学校の先生方の教育が先決である。（女性、20 歳代）
- ・一方的に男女差をなくことを目指すより、男女の違いをうまく生かした方が自然だと思う。（女性、20 歳代）
- ・今、1 歳の子どもを育てています。子どもが生まれるまでは、男女共同参画のことを考えることはありませんでした。育休後、仕事に復帰してはじめて周りのサポートがないと働けないと実感しています。（女性、20 歳代）
- ・教育の場こそが男女共同参画の意識向上につながると 생각합니다。社会に出て、不平等である点に気づく人が増えることが重要。（女性、20 歳代）
- ・子育てと仕事の両立は、職場環境の整備が大事だと思います。男性の育児休暇が積極的に取れる職場が増えれば、出生率も高くなると思います。（女性、20 歳代）
- ・今回のアンケートで、男女の社会的、精神的平等について考えるきっかけとなりました。（女性、20 歳代）
- ・仕事をしたくても、保育サービスが充実していないので、結局は母親の負担が増えるだけである。（女性、20 歳代）

- ・女性の地位向上や能力開発の講習や研修があるが、「女性は男性に比べて劣っている」という思い込みが感じられます。もっと自然に男女平等にならないものでしょうか。（女性、20 歳代）
- ・共働きが増えている中で、男性も家事や育児に携わっているようだが、やはり女性の方が負担が大きいと思う。（女性、20 歳代）
- ・日常で、男女共同参画について考えることがなかったので、よいきっかけになりました。（女性、20 歳代）
- ・男女が対等になれるといいなと思うものの、社会を変えるのは大変だと思います。仕事で疲れて帰ってきた夫に家事を手伝ってとも言いにくい。どこまで平等なのかがわからない。（女性、30 歳代）
- ・男女共同参画とは「男女が全く同じことをする」とは違うと思います。男性に向かない仕事、女性に向かない仕事があるのが当然です。多種多様な人間関係を受け入れられる寛容な社会を目指すべきだと思います。（女性、30 歳代）
- ・男女共同といってもやはり女性は男性に養ってもらっています。それぞれの得意分野で頑張ることが一番です。（女性、30 歳代）
- ・「なんこく男女共生かがやきプラン」を初めて知りました。最近の職場は、女性の働きやすくなったと思います。但し、育児、介護は女性の負担が多いと実感しています。公的サポートの充実をお願いします。（女性、30 歳代）
- ・我が家では、育児はそこそこ協力してもらっています。男性は、家事・育児は基本的に女性がするものという意識があるように思えます。3割程度の協力には応じるが、5割程度を要求すると機嫌が悪くなるようです。（女性、30 歳代）
- ・夫はすでに 30 歳です。今から考えを変えることは難しいと思います。何事も小さいころからの習慣だと思います。私たちの世代は、男は仕事、女は家事の時代です。男女共同参画は難しい問題だと思います。（女性、30 歳代）
- ・家事、育児は分担するのではなく、できる方がするべきだと思います。女性の良いところ、男性の良いところを大切にしていきたいです。（女性、30 歳代）
- ・家庭内では、夫を長として子どもたちに対する教育が必要ではないでしょうか。（女性、30 歳代）
- ・近所に夫から生活費を渡されずに困っている女性がいます。60 歳を超えている方で、自立した生活もできません。どこか相談する課はありませんか。（女性、30 歳代）
- ・子育ては女性の仕事というイメージがあるが、男性ももっと協力をした方がよいと思う。（女性、30 歳代）
- ・このアンケートが届くまで、南国市が男女共同参画の取り組みをしていることを知りませんでした。男女が平等に生活できる社会を望みます。（女性、30 歳代）
- ・社会の中で、男女の差があることを実感しています。夫の職場では、育児休暇はもちろん、子どもの行事に参加するために休暇願を出しても理解してもらえませんでした。（女性、30 歳代）

- ・女性にも子育てや家事に専念し、専業主婦を望んでいる人もいる。また、仕事のために家庭を犠牲にしている人もいる。いろんな人をひとくくりにして、男女共同参画にさせようとするのは、行政としてすべきではない。(女性、30 歳代)
- ・男性にしかできないこと、女性にしかできないことがあると思います。そういうことを踏まえながら、お互いの立場を尊重し合えばよいと思います。(女性、30 歳代)
- ・保育所や介護・生活支援施設サービスを充実してもらえたら、仕事につき、社会に出ることができます。そのためにも、保育士や介護士の手当ての引き上げをお願いします。(女性、30 歳代)
- ・男女の特性を全く無視して、男女平等などはありません。行き過ぎた平等ではなく、バランスのとれた男女共同参画を期待します。(女性、40 歳代)
- ・5月のメーデーのニュースを見ると、労働組合に女性が加入していても、女性の意見はほとんど通らない感じがします。女性は、数合わせだけに集められているように思う。(女性、40 歳代)
- ・学校の行事が多く、その都度職場での有休を取りにくく、子どもに淋しい思いをさせています。フルタイムで働く母親にとって、家庭と職場の両立ができるシステムを考えていただきたい。(女性、40 歳代)
- ・このアンケートで男女共同参画を知りました。興味を持つことができました。(女性、40 歳代)
- ・男女共同参画という言葉は、ニュース等でよく耳にしますが内容はよく知りませんでした。このアンケートだけで終わらないようにもっとアピールをしてください。(女性、50 歳代)
- ・男女共同参画については、小さい時からの教育にかかっている。特に、義務教育の教師は、思想に左右されずに判断力を生徒に教えることが大切である。(女性、50 歳代)
- ・高知県は女性がよく働く県だと思います。困っている人を助ける施策をお願いいたします。(女性、50 歳代)
- ・男性、女性というよりも人としてどう生きるべきかが大切だと思います。(女性、50 歳代)
- ・男性は、仕事が忙しく家事を手伝うことは難しいと思います。我が家は、自営業で、365 日仕事中心で夫婦生活をしています。結局、家事は私がやらなくてははいけません。元気で働けることが幸せだと実感しています。(女性、50 歳代)
- ・どちらかという、男女共同参画には不賛成です。能力のある人は、男女問わず政治活動等をすればよい。男性は男性らしく、女性は女性らしくが基本的な考えです。(女性、50 歳代)
- ・私の職場では、担当業務によって男女にはっきりと分かれており、子どもが生まれると女性は総合職から一般職の替えることもできます。男女差別はありませんが、ジェンダーの役割はどうしても発生するものだと思います。(女性、50 歳代)
- ・男女共同参画がよいことかどうか分からない。男女平等とは、女性に対して負担を求める側面もあるような気がします。(女性、60 歳代)
- ・男女共同参画への活動や取り組みは、とても大切だと思います。地域社会でも家庭でも性別を問わず、能力を出して社会に貢献すべきです。(女性、60 歳代)

- ・男女平等などという思想が社会をおかしくしている。なんでも平等というから少子化や荒れた社会ができたと思う。個人々が思いやりや助け合い精神があれば、男女共同参画などということもない。(女性、60 歳代)
- ・今の子育て世代は男女共同参画を理解できても、親世代はわからない。夫に家事を負担させると嫁は何もしないような言われ方をする。そのような親に育てられた子どもは台所に入ることも嫌がる人が多い。(女性、60 歳代)
- ・女性が自立するには、家族の協力も大切だが保育・介護サービス体制が充実していることが一番。(女性、60 歳代)
- ・女性に対して不利益なことはたくさんあります。例えば、世帯主は1名ですが、収入が夫婦の場合2人いてはいませんか。(女性、60 歳代)
- ・それぞれの家庭で事情が違うので、よくわかりません。(女性、60 歳代)
- ・みんなが相手に思いやりを持てば、自然に助け合うことになるでしょう。(女性、60 歳代)
- ・老後に向けて、夫婦で協力して健康で長生きしたいと思います。(女性、60 歳代)
- ・男女共同参画に関する言葉の説明で、初めて言葉の内容を知りました。(女性、70 歳以上)
- ・男女平等といっても男らしさ、女らしさも必要だと思います。(女性、70 歳以上)
- ・このアンケートに答えるまで、男女共同参画のことを知りませんでした。恥ずかしく思いました。(女性、70 歳以上)
- ・女性は体力的に男性に劣ります。男女共同参画は、女性が男性を上手にコントロールすることではないかと思います。(女性、70 歳以上)
- ・地域でボランティア活動をしています。リーダーの方が高齢にもかかわらず、引退されません。ある会合で意見を言った時、発言を無視され「女のくせに」という言葉を何度も聞きました。封建的な地域もまだまだあります。(女性、70 歳以上)
- ・私たち高齢者には考えさせられる問題です。若いころから、男女共同参画のことは大いに関心がありました。しかし、女の思う通りにはなりません。現在は、徐々に浸透しつつあるようです。(女性、70 歳以上)

性別不明

- ・男女共同参画って何？今まで、聞いたことがありません。(性別不明、50 歳代)
- ・今の若い世代は、中高年層に比べて男女の平等意識が高い。時代に合わせて、理解しているような顔をしているが、心の底ではいまだに男社会だと思う。(性別不明、50 歳代)
- ・このようなアンケートを取って何に役に立つのか。税金のムダ遣いではないか。(性別不明、60 歳代)
- ・楽しい企画があれば参加したいと思います。(性別不明、60 歳代)
- ・男女共同参画社会の基本理念等は、浸透しつつあると思う。今後、広報等を通じて啓発活動が必要であろう。(性別不明、70 歳以上)
- ・男女平等を強調することは大切なことですが、子どもが幼いころは女性が中心になって子育てをすることが理想だと思います。(性別不明、70 歳以上)

男女共同参画に関するアンケート調査へのご協力のお願い

皆様には、日ごろから市政の運営にご理解とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

南国市では、男女があらゆる分野で支え合い、個性と能力を発揮できる「男女共同参画社会」の実現のため、平成14年に「なんこく男女共生かがやきプラン」（南国市男女共同参画総合施策）を策定し、さまざまな取り組みを続けています。

このたび、社会環境の変化や新たな課題に対応するため、市民の皆様の男女共同参画に関する取り組みの実態や問題点、ご意見等をお伺いし、プランの見直しを検討する上での基礎的な資料とさせていただきますことを目的に、このアンケート調査を実施いたします。

今回の調査は、20歳以上の南国市民の皆様の中から、男女同じ割合で、2,000人の方を無作為に選び、ご協力をお願いするものです。お答えは、すべて無記名で統計的に処理いたしますので、個別の回答内容が公表されるなど、ご迷惑をおかけすることは決してありません。

また、集計した結果は、ホームページ等で公開する予定です。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

アンケート記入にあたってのお願い

- ご記入は、封筒の宛名の方ご本人がお答えください。
- 回答は、該当する番号を○で囲むもの、文字を記入していただくものがあります。「その他」のときは、（ ）内に具体的な内容を記入してください。
- 回答は、アンケートに直接ご記入いただき、同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに郵便ポストに投函してください。
- 平成22年5月31日（月）までにご投函いただきますようお願いいたします。

問い合わせ先

南国市教育委員会事務局 生涯学習課 生涯学習人権係

電 話：088-880-6569

F A X：088-880-6201



男女共同^{さんかく}参画に関するアンケート調査

アンケート調査票

南国市

平成22年5月実施

問1. あなたご自身のことについておたずねします。(○は項目ごとに1つ)

この質問は、問2から問16までの回答が性別や年代別等に、どのような違いがみられるかなどといった分析をする上で必要なものです。あてはまる番号に○をつけてください。

項 目	選 択 肢			
性 別	1. 男性 2. 女性			
年 代 (H22年4月 20日現在)	1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代 5. 60歳代 6. 70歳以上			
職 業	1. 自営業—農林水産業 2. 自営業—商工・サービス業 3. 自由業（弁護士・開業医・芸術家・宗教家など） 4. 管理職 5. 専門技術職（技術研究員・勤務医・看護師・教員・保育士など） 6. 事務職（一般事務員、営業職など） 7. 労務職（一般工員・建築作業員・運転手など） 8. パート・アルバイト・内職など 9. 専業主婦・主夫 10. 学生 11. 無職（年金生活者など） 12. その他（ ）			
配偶者の有無	1. い る （ ① 共働きである ② 共働きではない ） 2. いない			
居 住 地 区	1. 上倉地区・瓶岩地区 2. 久礼田地区 3. 岡豊地区 4. 国府地区 5. 長岡地区 6. 後免地区 7. 野田地区 8. 大篠地区 9. 岩村地区 10. 日章地区 11. 前浜地区 12. 三和地区 13. 稻生地区 14. 十市地区 15. 緑ヶ丘地区			
世 帯 構 成	1. 単身世帯（一人住まい） 2. 夫婦のみの世帯 3. 親と子どもの世帯 4. 三世帯世帯（親、子、孫の世帯） 5. その他（ ）			

問2. あなたは、次にあげる男女共同参画に関する次の言葉をご存じですか。(○は言葉ごとに1つ)

言 葉 \ 選 択 肢	1. 内容まで知っている	2. 少しは知っている	3. 聞いたことはある	4. 全く知らない
(ア) 男女共同参画社会	1	2	3	4
(イ) なんこく男女共生かがやきプラン	1	2	3	4
(ウ) ジェンダー	1	2	3	4
(エ) ドメスティック・バイオレンス(DV)	1	2	3	4
(オ) 家族経営協定	1	2	3	4
(カ) セクシュアル・ハラスメント	1	2	3	4
(キ) クォータ制(割り当て制度)	1	2	3	4
(ク) エンパワメント	1	2	3	4

問3. あなたの周りでは、次にあげることが聞いたり、見たりすることがありますか。
(○は項目ごとに1つ)

選 択 肢 項 目	1.よく聞く (見る)	2.たまに聞く (見る)	3.自分はない が、周りに聞い た(見た)人が いる	4.全く聞かない (見ない)
(ア) 「男は仕事・女は家事」の役割分担	1	2	3	4
(イ) 「主人」「家内」「奥さん」と呼ぶ	1	2	3	4
(ウ) 男の子には青系・女の子には赤系の持ち物を持たせる	1	2	3	4
(エ) 「保護者」を「父兄」と言う	1	2	3	4
(オ) お茶くみや掃除を女性の仕事と決めている	1	2	3	4
(カ) 女性の対応に際し「男に代わって」と言う	1	2	3	4
(キ) 実際の役割を担っているのは女性であるのに、男性が会長などに就任している	1	2	3	4
(ク) 「男のくせに甲斐性がない」と言う	1	2	3	4
(ケ) 「女だてらに」と言う	1	2	3	4

問4. 次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(○は分野ごとに1つ)

選 択 肢 分 野	1.男性の方が 非常に優遇さ れている	2.どちらかとい えば男性の 方が優遇され ている	3.平等	4.どちらかとい えば女性の方 が優遇され ている	5.女性の方が 非常に優遇さ れている	6.わからない
(ア) 家庭生活	1	2	3	4	5	6
(イ) 職場生活	1	2	3	4	5	6
(ウ) 学校教育	1	2	3	4	5	6
(エ) 地域社会の中	1	2	3	4	5	6
(オ) 政治の場	1	2	3	4	5	6
(カ) 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
(キ) 社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
(ク) 社会全体	1	2	3	4	5	6

問5. 日常的な家庭での仕事分担について伺います。

(A) 表は、あなたの考える理想の役割分担に一番近いものを、全員の方がお答えください。
(B) 表は、実際の分担に一番近いものを、配偶者のいる方のみお答えください。
(○は A・B 表で項目ごとに1つ)

選 択 肢 項 目	(A) 理想の役割分担						(B) 実際の役割分担					
	1、 主に妻	2、 主に妻で一部夫	3、 夫婦同程度	4、 主に夫	5、 主に夫で一部妻	6、 その他	1、 主に妻	2、 主に妻で一部夫	3、 夫婦同程度	4、 主に夫	5、 主に夫で一部妻	6、 その他
(ア) 洗濯	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
(イ) 食事の支度	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
(ウ) 食事の後かたづけ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
(エ) 家の掃除	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
(オ) 日常のゴミ出し	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
(カ) 入浴の準備および風呂場の清掃	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
(キ) 日常の買い物	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
(ク) 日常の家計管理	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
(ケ) 地域の行事参加	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
(コ) 子どもの世話	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
(サ) 子どものしつけ・教育	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
(シ) PTA 活動	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
(ス) お年寄り・病人の世話・介護	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
(セ) 家族の重要事項に関する決定権	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
(ソ) 生活費を稼ぐ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

問6. 子どもを育てるとき、あなたはなにを重視しますか。子どものいない方は「いる」と仮定してお答えください。（〇はA・B表で項目ごとに1つ）

選 択 肢 項 目	(A) 男の子の場合				(B) 女の子の場合			
	1.重視する	2.やや重視する	3.あまり重視しない	4.重視しない	1.重視する	2.やや重視する	3.あまり重視しない	4.重視しない
(ア) 活発さ	1	2	3	4	1	2	3	4
(イ) 責任感	1	2	3	4	1	2	3	4
(ウ) リーダーシップ	1	2	3	4	1	2	3	4
(エ) 判断力	1	2	3	4	1	2	3	4
(オ) 勇気	1	2	3	4	1	2	3	4
(カ) やさしさ・思いやり	1	2	3	4	1	2	3	4
(キ) 協調性	1	2	3	4	1	2	3	4
(ク) 素直さ	1	2	3	4	1	2	3	4
(ケ) おおらか（寛容さ）	1	2	3	4	1	2	3	4
(コ) ユーモア	1	2	3	4	1	2	3	4

問7. あなたの家庭では、日常生活において支援や介助を必要とする方を、誰が（どこで）介護していますか。（〇はいくつでも）

- | | |
|-------------------|--------------------------------|
| 1. 介護の必要な方がいない | 7. 介護の必要な方の娘の夫 |
| 2. 介護の必要な方の配偶者（夫） | 8. 介護の必要な方の兄弟姉妹 |
| 3. 介護の必要な方の配偶者（妻） | 9. 病院または施設に入っている |
| 4. 介護の必要な方の息子 | 10. ホームヘルパーなどの社会福祉サービスを利用している。 |
| 5. 介護の必要な方の娘 | 11. その他（具体的に： |
| 6. 介護の必要な方の息子の妻 | ） |

問8. あなたは、配偶者や恋人があなたに対して、次のようなことをした場合、それをDV（ドメスティック・バイオレンス：配偶者や恋人など、親密な関係にあるパートナーから受ける暴力・虐待のこと）だと思いますか。また、次のようなことをしたこと、またはされたことはありますか。
(○はA・B・C表で項目ごとに1つ)

項 目 選 択 肢	(A) DV だと思うか			(B) したこと			(C) されたこと		
	1 どんな場合もDVに 当たると思う	2 DVの場合とそうで ない場合がある	3 DVに当たらないと思 わない	1 何度もした	2 1・2度した	3 したことはない	1 何度もされた	2 1・2度された	3 されたことはない
(ア) 骨折させる	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(イ) 打ち身や切り傷などのケガをさせる	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(ウ) 刃物などを突きつけて、おどす	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(コ) 身体を傷つける可能性のある物で、なぐる	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(カ) 突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(キ) 平手でぶつ、足でける	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(ク) 物を投げつける	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(ケ) なぐるふりをしておどす	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(ク) ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(コ) いやがるのに、性的な行為を強制する	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(サ) 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(シ) 何を言っても、長時間無視し続ける	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(ス) 交友関係や携帯電話、メール、郵便物等を細かく監視する	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(セ) 「誰のおかげで生活できるのか」などと言う	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(ソ) 生活費を渡さない	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(タ) 大声でどなる	1	2	3	1	2	3	1	2	3

問9. 小・中・高等学校における、次のような考え方をどのように思いますか。(○は項目ごとに1つ)

項 目	選 択 肢		
	1. そう思う	2. 思わない	3. どちらとも いえない
(ア) 児童会長は男子で、女子は副会長がいい	1	2	3
(イ) 持ち物は、「男子は青・女子は赤」と色分けした方がいい	1	2	3
(ウ) 出席の順番は、男子が先で、女子は後の方がよい	1	2	3
(エ) 南国市の学校の校長・教頭先生は、半数以上が男性であると思う	1	2	3
(オ) PTA会長は、男性がよい	1	2	3
(カ) 男子は「くん」、女子は「さん」を名前の後に付けて呼んだ方がよい	1	2	3
(キ) PTA懇親会等の準備・後片づけは、女性がする方がよい	1	2	3
(ク) 運動会の種目で、「騎馬戦」は男の子のする競技である	1	2	3
(ケ) 男子はズボン、女子はスカートをはくべきである	1	2	3

問10. 職場における、次のような考え方をどのように思いますか。(○は項目ごとに1つ)

項 目	選 択 肢		
	1. そう思う	2. 思わない	3. どちらとも いえない
(ア) 雇用・配置・登用などに女性に不利な待遇の格差がある	1	2	3
(イ) 意思決定の場への女性の参画に差がある	1	2	3
(ウ) 職種によって女性と男性を限定している	1	2	3
(エ) 女性にお茶くみをさせたり、女性を蔑視する言葉をつかう	1	2	3
(オ) 育児休業・介護休業を取る人に対する評価が低い	1	2	3
(カ) 男性は、仕事優先の意識のために、家事や地域の活動に参加しにくい	1	2	3
(キ) 自営業などの場合、収益の分配や休日などの就業条件が、明確に定められていない	1	2	3

問1 1. 配偶者のいる方で、夫婦共にお勤めの方にかがいます。

育児休業や介護休業を実際に取得することはできそうですか。または取得できましたか。
(○はA・B表で1つ)

(A) 育児休業	(B) 介護休業
1. 夫が取得できる／できた	1. 夫が取得できる／できた
2. どちらかといえば夫が取得できそう	2. どちらかといえば夫が取得できそう
3. 夫も妻も同程度に取得できる／できた	3. 夫も妻も同程度に取得できる／できた
4. どちらかといえば妻が取得できそう	4. どちらかといえば妻が取得できそう
5. 妻が取得できる／できた	5. 妻が取得できる／できた
6. どちらも取得できない／できなかった	6. どちらも取得できない／できなかった
7. その他(具体的に:)	7. その他(具体的に:)

問1 2. 次の項目は、セクシュアル・ハラスメント(相手の意に反した不快な性的言動のこと)だと思いますか。また、そのようなことをしたこと、またはされたことはありますか。
(○はA・B・C表で項目ごとに1つ)

選 択 肢 項 目	(A) セクシュアル・ハラスメント だと思うか			(B) したこと			(C) されたこと		
	1 そう 思う	2 思 わ ない	3 ど う か い ふ も 言 え ない	1 何 度 も し た	2 1・2 度 し た	3 し た こ と は な い	1 何 度 も さ れ た	2 1・2 度 さ れ た	3 さ れ た こ と は な い
(ア) 地位や権限を利用して、交際や性的な関係を強要する	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(イ) 相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、身体にさわる	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(ウ) 宴席で、お酌やデュエット、ダンス等を強要する	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(エ) 容姿や服装に関して繰り返して言う	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(オ) 相手が嫌がっているのに性的なことを話題にする	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(カ) 職場や学校、集会などの場でいせつな話をする	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(キ) ヌードの写真などを掲示したり、パソコンの背景などに設定する	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(ク) 「結婚はまだか」や「子どもはまだか」等たびたび聞く	1	2	3	1	2	3	1	2	3

問13. 地域社会において、男女共同参画を積極的に進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施すること
2. 地域活動のリーダーに女性を積極的に登用すること
3. 女性のリーダーを養成するための講座やセミナーを開催すること
4. さまざまな立場の人達が参加しやすいよう、地域活動の時間帯を工夫すること
5. 地域活動やボランティア活動についての情報を提供すること
6. 仕事中心のライフスタイルを見直すこと
7. 家族の理解と協力を得ること
8. その他 ()
9. わからない

問14. あなたは、男女が共に仕事と家庭を両立させていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
2. 仕事中心という社会全体の仕組みを改めること
3. 夫婦の間で家事などの分担について十分話し合うこと
4. 児童手当など経済的支援を充実させること
5. 保育サービス・介護サービスを充実させること
6. 子育て中の短時間労働など柔軟な勤務形態を普及させること
7. 出産や子育て後に再就職をする際の相談・支援を充実させること
8. 育児休業・介護休業制度を拡充させること
9. 育児サークルなど地域のネットワークづくりを進めること
10. 仕事と家庭の両立などについて相談できる窓口を設置すること
11. 子どもの頃から家事などは男女で分担するのがあたり前ということを教育すること
12. 母子・父子家庭への支援を行うこと
13. 男女の役割分担意識を解消するための啓発活動を充実させること
14. その他 ()
15. わからない

問15. 男女共同参画は、私たち一人ひとりの身近な課題です。まず自分にできることから始めることが大切ですが、あなたは、何をしようと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 家庭では、家族みんなで家事・育児などの分担をする
2. 「男らしく、女らしく」から「その子らしく」子育てをする
3. 学校では、PTAや保護者会で男女平等について取り組む
4. 職場で男女平等意識を浸透させる
5. 地域（自治会など）では、古い慣習を見直し、男女平等に活動に参画するよう取り組む
6. 男女共同参画について学ぶ
7. 市などの事業に参加して理解を深める
8. その他()

問16. 男女共同参画に関して、ご意見・ご感想や市への要望などがございましたら、ご自由にご記入ください。

最後までご協力いただき、ありがとうございました。
アンケート調査票は、同封の封筒に入れ、
切手を貼らずに郵便ポストへご投函ください。





●男女共同参画社会

「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」のこと。（男女共同参画基本法第2条）

●なんこく男女共生かがやきプラン（南国市男女共同参画総合施策）

南国市の男女共同参画を推進することを目的に、平成14年4月に策定された施策のこと。家庭・学校・職場・地域の4分野における行政と市民の目標を定めている。

●ジェンダー

「女らしさ」「男らしさ」で表現される社会的・文化的・心理的につくりあげられた性差のこと。

●ドメスティック・バイオレンス（DV）

配偶者や恋人など、親密な関係にあるパートナーから受ける暴力・虐待のこと。

●セクシュアル・ハラスメント

相手の意に反した不快な性的言動のこと。

●家族経営協定

休暇や給料等、労働条件についての文書による協定のこと。

●セクシュアル・ハラスメント

相手の意に反した不快な性的言動のこと。

●クォータ制（割り当て制度）

男女の不平等是正の積極的方策のひとつで「割り当て制度」ともいう。

●エンパワーメント

社会的弱者、とりわけ女性が社会的・文化的・経済的に力を持った存在になること。